

CS4070 スキャナ

プロダクトリファレンス ガイド



CS4070 スキャナ プロダクト リファレンス ガイド

MN000762A03JA

Revision A

2015 年 3 月

書面による許可なしに、本書の内容をいかなる形式でも、または電氣的あるいは機械的な手段により、複製または使用することを禁じます。これには、コピー、記録、または情報の保存および検索システムなど電子的または機械的な手段が含まれます。本書の内容は、予告なしに変更される場合があります。

ソフトウェアは、厳密に「現状のまま」提供されます。ファームウェアを含むすべてのソフトウェアは、ライセンスに基づいてユーザーに提供されます。本契約（ライセンス プログラム）に基づいて提供される各ソフトウェアまたはファームウェアに対して、ユーザーに移譲不可で非排他的なライセンスを付与します。下記の場合を除き、事前に書面による同意がなければ、ユーザーがライセンスを譲渡、サブライセンス、または移譲することはできません。著作権法で認められる場合を除き、ライセンス プログラムの一部または全体をコピーする権限はありません。ユーザーは、ライセンス プログラムを何らかの形式で、またはライセンス プログラムの何らかの部分を変更、結合、または他のプログラムへ組み込むこと、ライセンス プログラムからの派生物を作成すること、ライセンス プログラムを書面による許可なしにネットワークで使用するのを禁じられています。ユーザーは、本契約に基づいて提供されるライセンス プログラムについて、著作権に関する記載を保持し、承認を受けて作成する全体または一部のコピーにこれを含めることに同意します。ユーザーは、提供されるライセンス プログラムまたはそのいかなる部分についても、逆コンパイル、逆アセンブル、デコード、またはリバース エンジニアリングを行わないことに同意します。

Zebra は、信頼性、機能、またはデザインを向上させる目的で製品に変更を加えることができるものとします。

Zebra は、本製品の使用、または本文書内に記載されている製品、回路、アプリケーションの使用が直接的または間接的な原因として発生する、いかなる製造物責任も負わないものとします。明示的、黙示的、禁反言またはその他の特許権上または特許上のいかなる方法によるかを問わず、Zebra 製品が使用された組み合わせ、システム、機材、マシン、マテリアル、メソッド、またはプロセスを対象として、もしくはこれらに関連して、ライセンスが付与されることは一切ないものとします。Zebra 製品に組み込まれている機器、回路、およびサブシステムについてのみ、黙示的にライセンスが付与されるものとします。

保証

ハードウェア製品の保証については、サイト (<http://www.zebra.com/warranty>) にアクセスしてください。

改訂版履歴

元のマニュアルに対する変更を次に示します。

変更	日付	説明
-01 Rev A	2014/8	初期リリース
-02 Rev A	2014/12	商標変更、接続および動作に関する記載の各種更新、Sleep および BTSleep のデフォルトに関する記載を更新、123Scan2 の章を更新、索引を更新
-03 Rev A	2015/3	URL の更新、自動再接続のビープ音に関する説明を追加、「スキャン データ転送フォーマット」の項に注を追加

目次

保証	ii
改訂版履歴	iii

このガイドについて

はじめに	xiii
構成	xiii
アクセサリ	xiii
章の説明	xiv
表記規則	xv
関連文書	xv
サービスに関する情報	xvi

第 1 章: はじめに

はじめに	1-1
スキャナを開梱する	1-2
バッテリーの取り付けと取り外し	1-2
バッテリーの取り付け	1-2
バッテリーの取り外し	1-3
バッテリーの充電	1-4
CS4070 内のバッテリーの充電	1-4
予備バッテリーの充電	1-4
充電温度	1-4
ホスト コンピュータへの接続	1-5
バッチ接続	1-5
Bluetooth 接続: 開発オプション	1-5
ペアリング	1-6
ペアリング解除	1-7
デバイス リストから CS4070 を削除する	1-7
スキャナの構成	1-8
123Scan2	1-8
パラメータ バーコードと Config.ini	1-8
スキャナ ファームウェアの更新	1-8
構成ファイルの編集	1-9

第 2 章: スキャン

はじめに	2-1
スキャン	2-1
バーコードの削除	2-2
バーコード データのホストへの転送	2-2
バッチ スキャナからのデータの転送	2-2
Bluetooth スキャナからのデータの転送	2-3
ユーザー インタフェースの定義	2-3
LED の意味	2-3
ビーブ音の意味	2-5

第 3 章: ユーザー設定

はじめに	3-1
スキャン シーケンスの例	3-1
スキャン中のエラー	3-1
ユーザー設定のデフォルト パラメータ	3-2
工場出荷時の状態に戻す	3-4
日付と時刻の設定	3-5
日付設定	3-5
時刻設定	3-5
日付および時刻の設定のキャンセル	3-5
Bluetooth オプション	3-7
マスタ/スレーブのセットアップ	3-7
Bluetooth ペアリング解除	3-8
Bluetooth プロファイル	3-8
データのクリア	3-9
自動再接続	3-10
コネクション間隔	3-11
HID セキュリティ	3-11
無線電波出力	3-12
HID CoD をゼロに設定	3-12
ユーザー設定	3-13
パラメータ バーコードのスキャン	3-13
読み取り成功時のビーブ音	3-13
ビーブ音の音量	3-14
ビーブ音の音程	3-15
ビーブ音のミュート	3-15
読み取り時のバイブレータ (CS4070HC のみ)	3-16
読み取り時のバイブレータ時間 (CS4070HC のみ)	3-16
ピックリスト モード	3-18
ファジー 1D 処理	3-18
ミラー イメージ	3-19
携帯電話/ディスプレイ モード	3-19
PDF 優先	3-20
PDF 優先のタイムアウト	3-20
データ オプション	3-21
コード ID キャラクタの転送	3-21
プリフィックス/サフィックス値	3-22
スキャン データ転送フォーマット	3-23
「NR (読み取りなし)」メッセージの転送	3-24

バージョンの送信	3-25
ファームウェア バージョン	3-25
スキャン エンジン バージョン	3-25
ドングル バージョン	3-25

第4章: シンボル体系

はじめに	4-1
スキャン シーケンスの例	4-1
スキャン中のエラー	4-2
シンボル体系のデフォルト パラメータ	4-2
すべてのコード タイプを有効/無効にする	4-7
UPC/EAN	4-8
UPC-A の有効化/無効化	4-8
UPC-E の有効化/無効化	4-8
UPC-E1 の有効化/無効化	4-9
EAN-8/JAN-8 の有効化/無効化	4-9
EAN-13/JAN-13 の有効化/無効化	4-10
Bookland EAN の有効化/無効化	4-10
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り	4-11
ユーザーが設定できるサプリメンタル	4-14
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り繰返回数	4-14
サプリメンタル コード付き UPC/EAN/JAN の AIM ID フォーマット	4-15
UPC-A チェック デジットを転送	4-16
UPC-E チェック デジットを転送	4-16
UPC-E1 チェック デジットを転送	4-17
UPC-A プリアンブル	4-18
UPC-E プリアンブル	4-19
UPC-E1 プリアンブル	4-20
UPC-E を UPC-A に変換する	4-21
UPC-E1 を UPC-A に変換する	4-21
EAN-8/JAN-8 拡張	4-22
Bookland ISBN 形式	4-22
UCC クーポン拡張コード	4-23
クーポン レポート	4-24
ISSN EAN	4-24
Code 128	4-25
Code 128 を有効/無効にする	4-25
Code 128 の読み取り桁数を設定する	4-25
GS1-128 (以前の UCC/EAN-128) を有効/無効にする	4-27
ISBT 128 を有効/無効にする	4-27
ISBT の連結	4-28
ISBT テーブルのチェック	4-29
ISBT 連結の読み取り繰返回数	4-29
Code 128 セキュリティ レベル	4-30
Code 39	4-31
Code 39 を有効/無効にする	4-31
Trioptic Code 39 を有効/無効にする	4-31
Code 39 を Code 32 に変換	4-32
Code 32 プリフィックス	4-32
Code 39 の読み取り桁数を設定する	4-33

Code 39 チェック デジットの確認	4-34
Code 39 チェック デジットの転送	4-34
Code 39 Full ASCII 変換	4-35
Code 39 セキュリティ レベル	4-36
Code 93	4-37
Code 93 を有効/無効にする	4-37
Code 93 の読み取り桁数を設定する	4-37
Code 11	4-39
Code 11	4-39
Code 11 の読み取り桁数を設定する	4-39
Code 11 チェック デジットの確認	4-41
Code 11 チェック デジットを転送	4-42
Interleaved 2 of 5 (ITF)	4-43
Interleaved 2 of 5 を有効/無効にする	4-43
Interleaved 2 of 5 の読み取り桁数設定	4-43
Interleaved 2 of 5 チェック デジットの確認	4-45
Interleaved 2 of 5 チェック デジットを転送する	4-46
Interleaved 2 of 5 を EAN/JAN-13 に変換する	4-46
12 of 5 のセキュリティ レベル	4-47
Discrete 2 of 5 (DTF)	4-48
Discrete 2 of 5 を有効/無効にする	4-48
Discrete 2 of 5 の読み取り桁数設定	4-48
Codabar (NW - 7)	4-50
Codabar を有効/無効にする	4-50
Codabar の読み取り桁数設定	4-50
CLSI 編集	4-52
NOTIS 編集	4-52
Codabar の大文字または小文字のスタート/ストップ キャラクタの検出	4-53
MSI	4-54
MSI を有効/無効にする	4-54
MSI の読み取り桁数設定	4-54
MSI チェック デジット	4-56
MSI チェック デジットの転送	4-56
MSI チェック デジットのアルゴリズム	4-57
Chinese 2 of 5	4-58
Chinese 2 of 5 を有効/無効にする	4-58
Matrix 2 of 5	4-59
Matrix 2 of 5 を有効/無効にする	4-59
Matrix 2 of 5 の読み取り桁数設定	4-59
Matrix 2 of 5 チェック デジット	4-61
Matrix 2 of 5 チェック デジットを転送	4-61
Korean 3 of 5	4-62
Korean 3 of 5 を有効/無効にする	4-62
反転 1D	4-63
GS1 DataBar	4-64
GS1 DataBar-14	4-64
GS1 DataBar Limited	4-64
GS1 DataBar Expanded	4-65
GS1 DataBar を UPC/EAN に変換	4-65
GS1 DataBar Limited のセキュリティ レベル	4-66

Composite	4-67
Composite CC-C	4-67
Composite CC-A/B	4-67
Composite TLC-39	4-68
UPC Composite モード	4-68
UCC/EAN Composite コードの GS1-128 エミュレーション モード	4-69
郵便コード	4-70
US Postnet	4-70
US Planet	4-70
US Postal チェック デジットを転送	4-71
UK Postal	4-71
UK Postal チェック デジットを転送	4-72
Japan Postal	4-72
Australia Post	4-73
Australia Post フォーマット	4-74
Netherlands KIX Code	4-75
USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail	4-75
UPU FICS Postal	4-76
2D バーコード	4-77
PDF417 を有効/無効にする	4-77
MicroPDF417 を有効/無効にする	4-77
Code 128 エミュレーション	4-78
Data Matrix	4-79
Data Matrix 反転	4-79
ミラー イメージの読み取り (Data Matrix のみ)	4-80
Maxicode	4-81
QR Code	4-81
QR 反転	4-82
MicroQR	4-82
Aztec	4-83
Aztec 反転	4-83
Han Xin	4-84
Han Xin 反転	4-84
シンボル体系特有のセキュリティ レベル	4-85
リダンダンシー レベル	4-85
双方向リダンダンシー	4-87
セキュリティ レベル	4-88
キャラクタ間ギャップ サイズ	4-89

第 5 章: 123Scan2

はじめに	5-1
------------	-----

第 6 章: アドバンスド データ フォーマット

はじめに	6-1
------------	-----

第 7 章: メンテナンスおよび技術仕様

はじめに	7-1
メンテナンス	7-1

トラブルシューティング	7-2
技術仕様	7-3

付録 A: 標準のデフォルト パラメータ

付録 B: アクセサリ

概要	B-1
アクセサリの概要	B-2
予備バッテリー充電器付きシングル スロット CS4070 充電クレードル	B-3
バッテリーの充電状態の表示	B-4
Bluetooth 接続	B-4
8 スロット CS4070 充電クレードル	B-5
バッテリー充電状態の表示	B-6
Bluetooth 接続	B-6
8 スロット予備バッテリー充電器	B-7
バッテリーの充電状態の表示	B-8
LED の意味	B-8
壁面取り付けブラケット	B-9
KT-102376-01R ブラケット	B-9
KT-102375-01R ブラケット	B-11
USB HID ドングルの Bluetooth	B-14
USB HID デバイスとのペアリング	B-15
クリップ付きランヤード	B-16
ランヤードの取り付けと取り外し	B-16

付録 C: Bluetooth 接続の例

概要	C-1
iPad のペアリングの例	C-2
Android のペアリングの例	C-3
Android 携帯のキーボードへのアクセス	C-4
Windows 7 のペアリングの例	C-5
Windows 8 のペアリングの例	C-7
PIN 入力用バーコード	C-9

付録 D: プログラミング リファレンス

コード タイプ ID	D-1
シンボル コード ID	D-4
AIM コード ID	D-6
GS1-128 (旧 UCC/EAN-128)	D-11
プリフィックスとサフィックスの設定	D-12

付録 E: サンプル バーコード

UPC-A	E-1
UPC-E	E-1
UPC-E1	E-2
EAN-13	E-2

EAN-8	E-2
Code 39	E-2
Trioptic Code 39	E-3
Code 93	E-3
Code 11	E-3
Codabar	E-4
MSI	E-4
Interleaved 2 of 5	E-4
GS1 DataBar-14	E-5
PDF417	E-5
Data Matrix	E-5
Maxicode	E-5
QR Code	E-6
Han Xin	E-6
US Postnet	E-6
UK Postal	E-6

付録 F: 数値バーコード

数値バーコード	F-1
キャンセル	F-2

付録 G: ASCII キャラクタ セット

索引

このガイドについて

はじめに

『CS4070 スキャナ プロダクト リファレンス ガイド』では、スキャナの設定、操作、メンテナンス、およびトラブルシューティングの一般的な方法について説明します。

構成

CS4070 シリーズ スキャナには次のモデルがあります。

- CS4070SR - 標準レンジ、コードレス Bluetooth
- CS4070HC - 医療施設用、コードレス Bluetooth

各スキャナにはマイクロ USB ホスト ケーブルが付属しています。

アクセサリ

アクセサリのリストについては、[B-2 ページの表 B-1](#) を参照してください。

章の説明

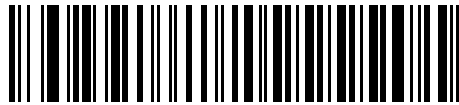
このガイドは、次の章で構成されています。

- **第 1 章「はじめに」** では、製品の概要およびスキャナの充電、接続、構成の方法を説明します。
- **第 2 章「スキャン」** では、バーコードをスキャンし、データをホストに送信する方法と、ビープ音および LED の定義について説明します。
- **第 3 章「ユーザー設定」** では、各ユーザー設定機能について説明し、スキャナのこれらの機能を選択するためのプログラミング バーコードを示します。また、ワイヤレス通信パラメータおよびデータをホストデバイスに送信する方法をカスタマイズするときに一般的に利用されるバーコードも掲載しています。
- **第 4 章「シンボル体系」** では、すべてのシンボル体系について説明し、その機能を選択するためのプログラミング バーコードを示します。
- **第 5 章「123Scan²」** では、PC ベースのスキャナ設定ツール 123Scan² に関する情報を説明しています。
- **第 6 章「アドバンスド データ フォーマット」** では、ホスト デバイスに送信する前にデータをカスタマイズする手段である ADF について簡単に説明します。『ADF Programmer Guide』へのリファレンスも含まれています。
- **第 7 章「メンテナンスおよび技術仕様」** では、スキャナのお手入れのしかた、トラブルシューティング、および技術的な仕様について説明します。
- **付録 A「標準のデフォルト パラメータ」** は、すべてのホスト デバイスやその他のスキャナのデフォルト値の一覧です。
- **付録 B「アクセサリ」** は、製品をサポートするさまざまな機能を備えた CS4070 のアクセサリについて説明します。
- **付録 C「Bluetooth 接続の例」** では、ホスト デバイスとのペアリングの例を掲載しています。
- **付録 D「プログラミング リファレンス」** は、AIM コード ID、ASCII キャラクタ変換、およびキーボードマップの一覧です。
- **付録 E「サンプル バーコード」** では、サンプル バーコードを掲載しています。
- **付録 F「数値バーコード」** では、特定の数値が必要なパラメータのための数値バーコードを掲載しています。
- **付録 G「ASCII キャラクタ セット」** はキャラクタ セット一覧です。

表記規則

本書では、次の表記規則を使用しています。

- **斜体**は、次の項目の強調に使用します。
 - 本書および関連文書の章およびセクション
- **太字**は、次の項目の強調に使用します。
 - キーパッド上のキー名
 - 画面またはウィンドウ上のボタン名
- ビュレット (•) は、次を示します。
 - 実行する操作
 - 代替方法のリスト
 - 実行する必要があるが、順番どおりに実行しなくてもかまわない手順
- 順番どおりに実行する必要がある手順 (順を追った手順) は、番号付きのリストで示されます。
- プログラミング バーコード メニューでは、デフォルトのパラメータ設定にアスタリスク (*) を付けています。



* はデフォルトを示す ————— * ボーレート 9600 ————— 機能/オプション

✓ **注** このシンボルは、特別な関心事や重要事項を示します。この注意事項を読まなくても、スキャナ、機器、またはデータに物理的な損害が生じるわけではありません。



注意 このシンボルが付いた情報を無視した場合、データまたは器具に損害が生じる場合があります。



警告 このシンボルが付いた情報を無視した場合、身体に深刻な傷害が生じる場合があります。

関連文書

- 『CS4070 Scanner Quick Reference Guide』 (p/n MN000763A01) では、基本的な設定および操作方法の説明を含む、ユーザーがスキャナの使用を開始するための一般的な情報を提供しています。

本書をはじめすべてのガイドの最新版は、<http://www.zebra.com/support> にあります。

サービスに関する情報

本機器の使用中に問題が発生する場合は、お客様の使用環境を管理する技術サポートまたはシステム サポートにお問い合わせください。本機器に問題がある場合は、各地域の技術サポートまたはシステム サポートの担当者が、次のサイトへ問い合わせをします：<http://www.zebra.com/support>。

サポートへのお問い合わせの際は、以下の情報をご用意ください。

- 装置のシリアル番号
- モデル番号または製品名
- ソフトウェアのタイプとバージョン番号

Zebra では、サービス契約で定められた期間内に電子メール、電話、またはファックスでお問い合わせに対応いたします。

Zebra サポートが問題を解決できない場合、修理のため装置をご返送いただくことがあります。その際に詳しい手順をご案内します。Zebra は、承認済みの梱包箱を使用せずに発生した搬送時の損傷について、その責任を負わないものとします。装置を不適切な形で搬送すると、保証が無効になる場合があります。

ご使用のビジネス製品を Zebra ビジネス パートナーから購入された場合、サポートについては購入先のビジネス パートナーにお問い合わせください。

第1章 はじめに

はじめに

CS4070 スキャナはさまざまな用途でバーコードを読み取って保存し、USB 接続または Bluetooth を通じてバーコード データをホストに転送します。

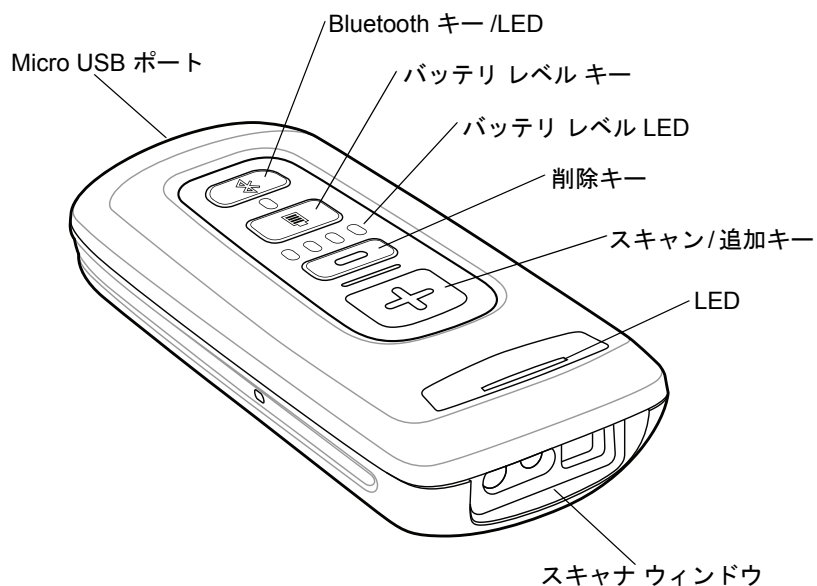


図 1-1 CS4070 スキャナ

このスキャナは、以下のホスト インタフェースをサポートしています。

- USB - スキャナはクレードルまたは USB ケーブル経由で、取り外し可能ストレージ デバイスとして USB ホストに接続します。
- Bluetooth - このスキャナは、キーボードをエミュレートするホスト (デフォルト) への Bluetooth HID 接続だけでなく、スキャナがシリアル接続があるかのように動作するシリアル ポート プロファイル (SPP) 接続もサポートしています。

スキャナを開梱する

スキャナを覆っている保護材を慎重にすべて取り外し、後で保管や搬送に使えるように、梱包箱を保管しておきます。次のものが含まれていることを確認します。

- CS4070
- リチウム イオン バッテリ
- Micro USB ケーブル
- クイック スタート ガイド

機器を確認してください。機器が足りない、または破損している場合は、サポートに問い合わせてください。連絡先については、[xvi ページ](#)を参照してください。

バッテリーの取り付けと取り外し

バッテリーの取り付け

スキャナの使用を開始する前に、同梱のリチウム イオン バッテリを取り付けます。

1. デバイスの背面のバッテリー コンパートメントに、バッテリーを取り付けます。この場合、バッテリーの下側を先に入れます。
2. バッテリ リリース ラッチが所定の位置に収まるまで、バッテリーをバッテリー コンパートメントに押し込みます。

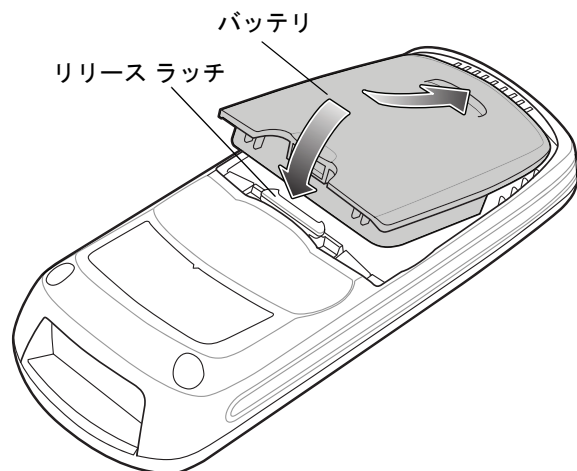


図 1-2 バッテリーの取り付け

✓ **注** バッテリーの接点がスキャナの底部に向いているよう、正しくバッテリーを入れてください。

バッテリーの取り外し

バッテリーを取り外すには、リリース ラッチを指で上に持ち上げ、反対の手の指でバッテリー取り付け部の下にあるくぼみを引きます。下部の端でバッテリーが回転し、バッテリーのラッチ部が跳ね上がり、両側からバッテリーを持ち上げられるようになります。

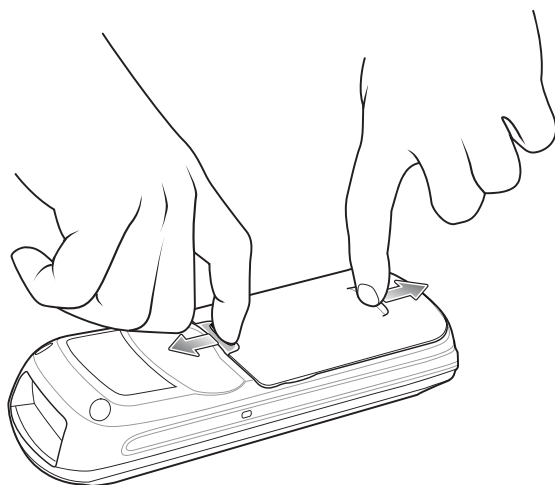


図 1-3 リリース ラッチの持ち上げ

バッテリーの充電

CS4070 を初めてご使用になる前に、micro USB ケーブルまたはクレードルを使って充電ステータス LED が緑色になるまでバッテリーを充電します。充電の状態の表示については、[2-3 ページの表 2-1](#)を参照してください。デバイスで使用可能な充電アクセサリの詳細については、[付録 B「アクセサリ」](#)を参照してください。

✓ **注** バッテリーが取り外されたり交換されると、デバイスはコールド ブートします。内蔵のバックアップ バッテリーはリアルタイム時計を内蔵しています。

CS4070 内のバッテリーの充電

CS4070 に取り付けたバッテリーを、以下のいずれかの方法で充電します。

- micro USB ケーブルをデバイスの micro USB ポートに接続し、反対の端子をホスト コンピュータの USB ポートに接続します。ホスト コンピュータへの接続中はスキャナはスキャンできません。
- micro USB ケーブルをデバイスの micro USB ポートに接続し、反対の端子を AC コンセントに差し込んだ USB 電源アダプタに接続します。
- CS4070 を電源に接続したシングル スロットまたは 8 スロットの充電クレードルに取り付けます。詳しくは、[B-3 ページの「予備バッテリー充電器付きシングル スロット CS4070 充電クレードル」](#)または [B-5 ページの「8 スロット CS4070 充電クレードル」](#)を参照してください。

CS4070 が充電を開始します。充電中は充電ステータス LED は黄色で点滅し、充電が完了すると緑色で点灯します。充電の状態を表す LED 表示の意味については、[2-3 ページの表 2-1](#)を参照してください。

予備バッテリーの充電

予備バッテリーを充電するには、電源に接続した予備バッテリー充電アクセサリのスロットに、充電用の端子を下にして、クレードルの充電ピンに接続するように予備バッテリーを取り付けます。[B-3 ページの「予備バッテリー充電器付きシングル スロット CS4070 充電クレードル」](#)または [B-7 ページの「8 スロット予備バッテリー充電器」](#)を参照してください。

バッテリーが充電を開始します。クレードルの充電 LED が光って充電ステータスを表します。

充電温度



重要

バッテリーの充電は、0 ～ 35°C の温度で行ってください。

温度が 30°C を超えると、デバイスおよび充電アクセサリは充電温度の監視と制御を行います。35°C を超えると充電が停止します。

異常な温度のために充電が無効になった場合は、デバイスやアクセサリの LED やバッテリー アイコンにエラーが表示されます。[2-3 ページの表 2-1](#)、[B-4 ページの表 B-2](#)、および [B-8 ページの表 B-3](#)を参照してください。

ホストコンピュータへの接続

バッチ接続

micro USB ケーブルを使うと、CS4070 と PC で通信しつつ、CS4070 のバッテリーを充電できます。

✓ **注** バッチ スキャン モードにするには、スキャナと Bluetooth ホストとのペアリングを解除する必要があります。

CS4070 を USB デバイスに接続するには、次の手順に従います。

1. USB ケーブルの USB A 端子をホストまたはデバイスの USB ポートに接続します。
2. ケーブルの micro USB コネクタを CS4070 に接続します。

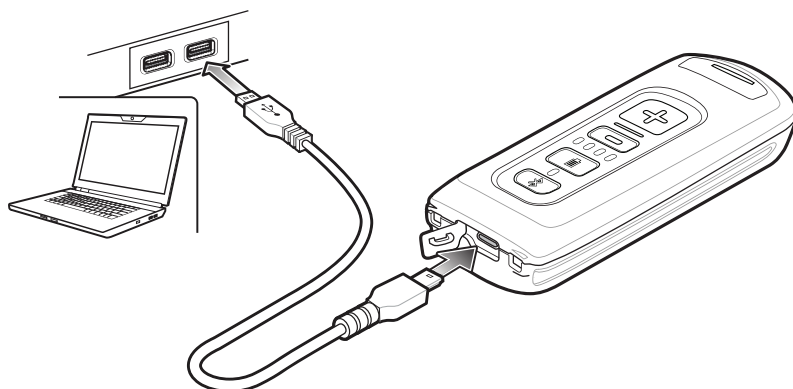


図 1-4 Micro USB ケーブル通信

Bluetooth 接続: 開発オプション

シリアル ポート プロファイル

この Bluetooth プロファイルはシリアル ケーブルをエミュレートして、一般的な制御信号を含む既存の RS-232 ベースのシリアル通信アプリケーションのための、単純実装されたワイヤレス交換を提供します。これは、ホストのキーボードまたはタッチ スクリーンからの誤ったキー ストロークがバーコード データ ストリームに入力されないため、望ましい通信プロファイル実装です。

ヒューマン インタフェース デバイスのエミュレーション

この Bluetooth プロファイルは、USB に定義されたヒューマン インタフェース デバイス プロトコルの軽量ラッパーです。Bluetooth スキャナから転送されたデータは、Bluetooth ホスト (スマートフォン、PC、など) へのキーボード入力として表示されます。

✓ **注** ウェッジ データは、入力フォーカスを持つアプリケーションに表示されます。

ペアリング

CS4070 とホスト デバイスをペアリングするには、Bluetooth ボタンを押し続けてスキャナを検出可能モードにし、必要に応じてペアリング PIN をスキャンする必要があります。CS4070 は最後にペアリングした 8 台のデバイスの PIN を記憶し、初回以降は PIN の入力なしにデバイスとの接続を確立します。

- ✓ **注** ドングルを使用する場合、ドングルのペアリング バーコードをスキャンするだけで接続できます。PIN は必要ありません。ドングルは単一接続にしか対応していませんのでご注意ください。

サポートされているデバイス

CS4070 は以下のタイプのデバイスへの接続をサポートします。

- iOS
- Android
- Windows 8 Pro
- Windows 7 Pro
- Windows XP (Microsoft、Broadcom、およびその他の一般的に使用可能な Bluetooth スタック)
- Windows RT
- Windows Embedded Compact (CE7)

Bluetooth 対応ホストとペアリングを行うには、次の手順に従います。

1. スキャン ボタン (+) を押してスキャナをウェイクアップします。
2. スキャナのビーブ音が鳴って青色 LED の点滅によりホストがスキャナを検出できる状態になるまで Bluetooth ボタンを押し続けます。
3. ホストで Bluetooth ペアリング アプリケーションを起動し、Bluetooth デバイス検出モードにします。
4. 検出されたデバイスの一覧から CS4070 を選択します。Bluetooth アプリケーションによっては、自動的に生成された PIN をスキャンするよう求められる場合があります。
5. 必要に応じて、PIN に対応する **C-9 ページの「PIN 入力用バーコード」** と Enter をスキャンします。

Bluetooth ボタンの点滅がゆっくりになります。これは、スキャナがホストとペアリングされたことを示します。

- ✓ **注** Bluetooth のペアリングは、USB ケーブルによる充電中には一時的に中断されます。ケーブルを外すと再びペアリングが確立されます。

- ✓ **注** iPad とのペアリング時には、CS4070 の削除 (-) キーを押して仮想キーボードのオンとオフを切り替えます。

ペアリングの例については、**付録 C「Bluetooth 接続の例」**を参照してください。

ペアリング解除

一時的にスキャナとホストのペアリングを解除するには、Bluetooth ボタンを押します。これにより、Bluetooth が無効になって Bluetooth ボタンの点滅が停止します。再度 Bluetooth ボタンを押すと、スキャナとホストが再ペアリングされます。

スキャナとホストのペアリングを永続的に解除するには、[3-8 ページの「ペアリングの解除」](#)をスキャンします。これにより、スキャナは別のホスト デバイスとのペアリングが可能になります。

✓ **注** バッチ スキャン モードにすると、スキャナを Bluetooth ホストにペアリングすることはできません (CS4070 モデルにのみ該当)。

デバイス リストから CS4070 を削除する

検出されたデバイス リストからデバイスを削除するには、デバイスをタップし続け、[Delete] を選択します。

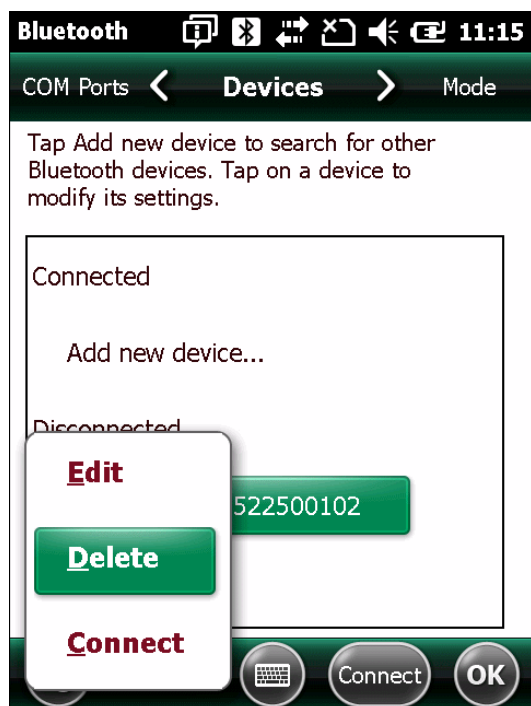


図 1-5 デバイスの削除

スキャナの構成

123Scan2

スキャナを 123Scan2 経由で構成するには、このユーティリティを使って目的の構成オプションの 2D バーコードを生成します。バーコードをスキャンしてこれらのオプションでスキャナを構成します。CS4070 は 1D 構成バーコードをサポートしません。第 5 章「123Scan2」を参照してください。

パラメータ バーコードと Config.ini

スキャナを構成するには、次の手順に従います。

1. 第 3 章「ユーザー設定」および第 4 章「シンボル体系」のパラメータ バーコードをスキャンし、スキャナ操作をカスタマイズします。
2. さらにカスタマイズするには、1-9 ページの「構成ファイルの編集」にあるオプションを使用して、スキャナの Config.ini ファイルを編集します。
3. 新しい構成を複数のスキャナに展開する際には、ホストの検索ウィンドウに固有の CS4070 シリアル番号を表示させるために、Config.ini ファイルを編集して BTName エントリを削除するか、空白に設定 ("BTName=") して、各スキャナがデフォルトの BT 名 **CS4070:<serial number>** を使用しているようにします。

複数スキャナのステージング

すべての必要な設定が行われた 1 台の "ゴールデン" スキャナの config.ini ファイルを作成したら、このスキャナからファイルのコピーを作成し、USB 接続で他のスキャナにコピーします。3-5 ページの「日付と時刻の設定」のバーコードをスキャンし、"クローン作成された" スキャナで時刻と日付を設定します。

✓ **注** 新しい構成を複数のスキャナに展開する際には、ホストの検索ウィンドウに固有の CS4070 シリアル番号を表示させるために、Config.ini ファイルを編集して BTName エントリを削除するか、空白に設定 ("BTName=") して、各スキャナがデフォルトの BT 名 **CS4070:<serial number>** を使用しているようにします。

スキャナ ファームウェアの更新

スキャナ ファームウェアを更新するには、次の手順に従います。

1. ホストと CS4070 を micro USB ケーブルで接続します。
2. スキャナのルート ディレクトリに .dat および .bin ファイルをコピーします。
3. ケーブルを安全に取り外せることがホストで確認できたら、ケーブルを取り外します。

数分後に LED が緑色に変われば、ファームウェアは正しくインストールされています。

構成ファイルの編集

メモ帳などのテキスト エディタを使用し、CS4070 の **¥Parameters** フォルダにある編集可能な **Config.ini** テキスト ファイルに構成値を設定します。表 1-1 では、ファイルのプログラム可能な内容を一覧表示しています。

✓ **注** **Config.ini** ファイルの編集時に誤った場合、**¥Parameters** フォルダに LOG.TXT というファイルが作成されます。このログ ファイルを確認してエラーを判別し、修正してください。

表 1-1 Config.ini ファイルの内容

名前	説明	値	デフォルト
AutoReconnect	ドングルや他のデバイスへの Bluetooth 自動再接続を有効化または無効化	1 = 有効 0 = 無効	無効
BarcodeDB	バーコード データベースのファイル名。 ファイルが存在する場合、スキャンした バーコードと内容を見比べます。 バーコードが存在する場合は高いピープ音が 鳴り、存在しない場合は低いピープ音が 鳴ります	文字列	DBASE.TXT
BarcodeFile	保存するバッチデータのファイル名	文字列	BARCODES.TXT
BTName	Bluetooth フレンドリー名	文字列	CS4070
BTPin	Bluetooth PIN コード	文字列	1234
BTProfile	選択された Bluetooth プロファイル	0 = HID 1 = SPP 2 = SSI 3 = MFi_SPP 4 = MFi_SSI	HID
BtRfPower	Bluetooth 無線電波出力を制御 (100m または 10m)	0 = Class 1 1 = Class 2	Class 1
BTSleep	操作が検出されないとき、スキャナが別の Bluetooth デバイスとペアリングする間に スリープ モードになるまでの秒数 注: この値は「Sleep」で設定した値以下 にする必要があります。	ワード	14400 (4 時間)
ButtonBT	Bluetooth ボタンを有効化または無効化	1 = 有効 0 = 無効	有効
ButtonMinus	削除 (-) ボタンを有効化または無効化	1 = 有効 0 = 無効	有効
ButtonPlus	スキャン/追加 (+) ボタンを有効化または 無効化	1 = 有効 0 = 無効	有効
CodeID	CodeID のスキャン済みバーコード ファイルへの保存を有効化または無効化	1 = 有効 0 = 無効	有効

表 1-1 Config.ini ファイルの内容 (続き)

名前	説明	値	デフォルト
ConnectionInterval	接続 / 自動再接続の確立を試みるまでの時間	30 秒 1 分 5 分	30 秒
CountryKeyboardType	カントリー キーボード コード	North_American Windows_Belgian_French Windows_French Windows_German Windows_Canadian Windows_Spanish Windows_Italian Windows_Swedish Windows_UK Windows_Japan Windows_Brazil	North_American
DateFormat	日付フォーマット	0 = MM/DD/YY 1 = DD/MM/YY 2 = MM/DD/YYYY 3 = DD/MM/YYYY	MM/DD/YY
DisableProtectToggle	スキャン バーコード機能の有効化または無効化	1 = 有効 0 = 無効	無効
HIDSecurity	HID セキュリティを設定 注: この設定が「低」だと HID モードで接続できないデバイスもあります。 PIN コードを入力せず HID モードで Android デバイスに接続するには、この設定を「低」にします。	2 = 高 (キーボードのみ。Secure Simple Pairing 対応) 3 = 低 (入力なし / 出力なし - Secure Simple Pairing 対応)	高
KeystrokeDelay	HID のみの設定で、エミュレートするキーストローク間のミリ秒単位の遅れ 注: Android とペアリングする場合は、データ損失を避けるために 70 ミリ秒に設定します。	ワード (0 から 100)	0
LEDBlue	通常操作およびウェイクアップに対する青色 LED を有効化または無効化	1 = 有効 0 = 無効	有効
LEDGreen	通常操作およびウェイクアップに対する緑色 LED を有効化または無効化	1 = 有効 0 = 無効	有効
LEDRed	通常操作およびウェイクアップに対する赤色 LED を有効化または無効化	1 = 有効 0 = 無効	有効
LEDAmber	通常操作およびウェイクアップに対する黄色 LED を有効化または無効化	1 = 有効 0 = 無効	有効
Mute	ビープ音のミュート	1 = 有効 0 = 無効	オフ
PagerMotor (CS4070HC のみ)	読み取りが成功したときに一定時間スキャナを振動させるバイブレータを有効化または無効化	1 = 有効 0 = 無効	有効

表 1-1 Config.ini ファイルの内容 (続き)

名前	説明	値	デフォルト
PagerMotorDuration (CS4070HC のみ)	スキャナを振動させる時間を設定	150 - 750 ミリ秒	200 ミリ秒
Prefix	読み取りデータにプリフィックスを追加	バイト	<なし>
ScanLED	レーザー スキャナのアクティブ時に点灯する LED を有効化または無効化	1 = 有効 0 = 無効	有効
ScanParam	任意のスキャナ パラメータ。複数エントリが可能です。リセット後やスキャナに電源をいれる度に送信されます。 例: ScanParam=0xf0,0x00,0x01 ScanParam=0xee,0x01 ScanParam=0x38,0x00	変数	N/A
Separator	区切り文字	バイト	','
Sleep	操作が検出されないとき、デバイスがスリープ モードになるまでの秒数	ワード	14400 (4 時間)
Suffix	読み取りデータにサフィックスを追加	バイト	<なし>
TimeFormat	バッチで保存されたデータの時刻形式	1 = 12h 0 = 24h	24h
WakeUpBeep	ウェイクアップ ビープ音を有効化または無効化	1 = 有効 0 = 無効	無効
WakeUpLED	ウェイクアップ LED を有効化または無効化	1 = 有効 0 = 無効	無効
ZeroOutHIDClassOfDevice	Broadcom スタックのバージョンによっては、HID デバイスへの接続時に問題が発生する場合があります。その場合はこの機能を有効にします。	1 = 有効 0 = 無効	無効

第2章 スキャン

はじめに

この章では、バーコードをスキャンしてホストにデータを送信する手順について説明します。ビープ音と LED の定義についても説明しています。

スキャン

スキャナの設置およびプログラミングについては、[第1章「はじめに」](#)を参照してください。スキャンするには、次の手順に従います。

1. スキャナをバーコードに向けます。
2. スキャン (+) ボタンを押します。

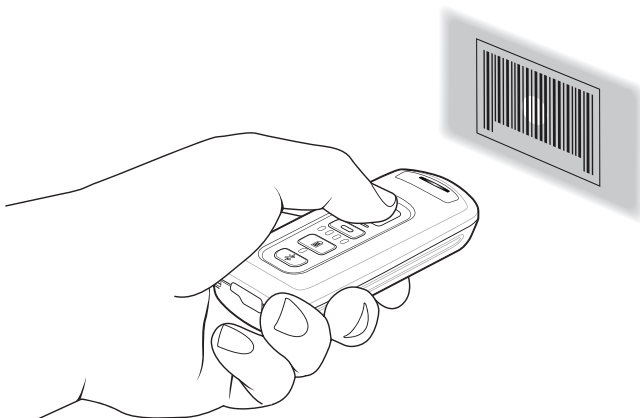


図 2-1 スキャン

3. 照準ドットがバーコードの中央にあることを確認します。

正しく読み取れた場合は、ビープ音が鳴って LED が緑色に点灯します。ビープ音と LED の定義については、[表 2-1](#) および [表 2-2](#) を参照してください。

- ✓ **注** USB ホスト ケーブルを使用してスキャナをホストに接続している場合は、バーコードをスキャンできません。
- ✓ **注** + ボタンを 10 秒間押し続け、ビープ音のオンとオフを切り替えます。

バーコードの削除

バッチ モードでバーコードを削除するには、スキャナを目的のバーコードに向けて削除 (-) ボタンを押します。

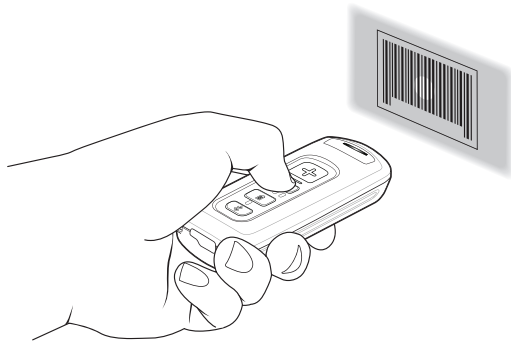


図 2-2 バッチ モードでのバーコードの削除

- ✓ **注** Bluetooth モードでバーコードを削除することはできません。

バーコード データのホストへの転送

バッチ スキャナからのデータの転送

読み取ったバーコード データは、スキャナの **¥Scanned Barcodes** ディレクトリにある BarcodeFile.txt ファイルに保存されます。USB ケーブルを使用してスキャナをホストに接続し、Windows エクスプローラでスキャナのディレクトリに移動します。バーコード データ ファイルをホストにコピーします。

バーコード データをクリアするには、スキャナから BarcodeFile.txt ファイルを削除するか、[3-9 ページ](#)に掲載されている**データのクリア** バーコードをスキャンします。

自動実行機能

スキャナでは自動実行機能がサポートされており、ユーザーは独自に autorun.inf ファイルを作成してホストへの接続時に自動的にデータをコピーできます。autorun.inf はテキストベースの設定ファイルであり、スキャナ接続時にホスト上でどの実行可能ファイルまたはアプリケーションを実行するか、どのアイコンでスキャナを表すか、Windows エクスプローラからスキャナ アイコンを右クリックしたときにどのメニュー コマンドを表示するかを定義します。詳細については、任意の検索エンジンで **autorun.inf** を検索してください。

Bluetooth スキャナからのデータの転送

スキャナが Bluetooth 経由でホストとペアリングされているとき、データはスキャンが完了するごとにホストに転送され、デバイス上に保存されることはありません。

エリア外の動作

スキャナがホストのエリア外に移動し、タイムアウト期間内にホストと再ペアリングされない場合、スキャンしたデータは失われ、エラーのビープ音が 3 回鳴ります。

無線の接続が失われると、Bluetooth LED のゆっくりとした等間隔の点滅が停止し、短い高音 - 低音のビープ音が鳴ります。デバイスがホストとのペアリングを再接続しようとしている間、Bluetooth LED は一定時間、速めに点滅し、エリア内に戻ってくると再ペアリングされます。再ペアリングが正常に完了しなかった場合、Bluetooth LED の点滅は停止します。

デバイスがエリア内に戻ったときに手動でペアリングを再確立するには、Bluetooth LED ボタンを押します。Bluetooth のペアリング時には、短い低音 - 高音のビープ音が鳴り、Bluetooth LED で再び、ゆっくりとした等間隔の点滅が始まります。

ユーザー インタフェースの定義

スキャナは、ビープ音と LED の組み合わせでさまざまなシステム イベントを示します。[表 2-1](#) および [表 2-2](#) では、そのような組み合わせとイベントを定義しています。

LED の意味

表 2-1 LED の意味

実行した機能	ユーザーの操作	LED からのフィードバック	その他
スキャンの試行	スキャン (+) ボタンを押す	緑色の点滅	イメージャ オン
バーコードの正常なスキャン		緑色の点灯	イメージャ オフ
バッテリー充電状態	バッテリー充電ボタンを押す。スキャナがスリープモードの場合、起動するにはスキャン (+) ボタンを押します。	4 緑色	フル充電 (忙しい環境で 12 時間)
		3 緑色	約 3/4 充電
		2 緑色	約 1/2 充電
		1 緑色	約 1/4 充電
バーコードの削除 (バッチ モードの場合)	削除 (-) ボタンを押し続ける	黄色の点滅	イメージャ オン
バーコードの正常な削除		黄色の点灯	イメージャ オフ
削除の失敗 - アイテムが存在しない (バッチ モードの場合)		赤色の点灯	イメージャ オフ

表 2-1 LED の意味 (続き)

実行した機能	ユーザーの操作	LED からのフィードバック	その他
すべてのバーコード データのクリア (削除 (-) ボタンが有効な場合)	スキャン時間を越えて 3 秒間削除 (-) ボタンを押し続ける	黄色の点滅	イメージャ オン
すべてを正常にクリア		黄色の点灯	イメージャ オフ
スキャナの充電	スキャナをホスト PC の USB ポートに接続する	黄色の点滅	スキャナはマス ストレージモードで接続され、PC の自動実行アプリケーションが起動
充電完了		緑色の点灯	
データ保護のオンとオフを切り替える (有効な場合)	スキャン (+) ボタンと削除 (-) ボタンを同時に 6 秒間押し続ける	なし	
データ保護設定が正常に完了		黄色の点灯	
Bluetooth 無線通信を有効にする	Bluetooth ボタンを押し続ける	青色の LED が速く点滅	Bluetooth は有効だがホストとペアリングされていない
Bluetooth 無線のペアリング	Bluetooth ボタンを押す	青色の LED がゆっくり点滅	
Bluetooth 無線がホストとペアリングされていてエリア内にある		青色の LED が非常にゆっくり点滅	
Bluetooth 無線がホストのエリア外にある		青色の LED が消灯	ビーコンの送信を停止
Bluetooth 無線がホストの通信エリアに戻る	任意のボタンを押す	青色の LED が非常にゆっくり点滅	デバイスをホストと再ペアリング
特殊な場合			
低メモリ スキャン	スキャン (+) ボタンを押し続ける	赤色に点滅してから通常の動作	
すべてを削除/クリア	削除 (-) ボタンを押し続ける	通常の動作	
メモリ フル スキャン	スキャン (+) ボタンを押し続ける	赤色の点灯	
メモリ フル削除/すべてクリア	削除 (-) ボタンを押し続ける	通常の動作	

表 2-1 LED の意味 (続き)

実行した機能	ユーザーの操作	LED からのフィードバック	その他
データ保護 (有効化されていてオン)	スキャン/機能/ホスト通信	赤色に速く点滅	
予期せぬ障害	スキャン/機能/ドック	赤色、緑色、黄色に 5 秒間点滅	サポートに連絡
バッテリーが完全に放電している	スキャン/機能/ドック	なし	

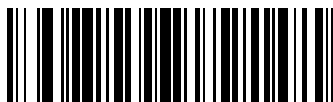
ビープ音の意味

表 2-2 ビープ音の意味

実行した機能	ビープ音のフィードバック	その他
バーコードの正常なスキャン	短い高音	イメージャ オフ
バーコードの正常な削除	短い中音	イメージャ オフ
削除の失敗 - アイテムが存在しない (バッチ モードの場合)	長音 - 短音 - 短音	イメージャ オフ
すべてを正常にクリア	2 回の長い中音	イメージャ オフ
データ保護設定が正常に完了	短音 - 長音 - 短音	
スキャナをホスト PC の USB ポートに接続し、スキャナを充電する	低音 - 高音	
Bluetooth 無線通信を有効にする	短いビープ音	Bluetooth ボタンを押し続ける
Bluetooth 無線のペアリング	短い低音 - 高音	
Bluetooth 無線がホストのエリア外にある	短い高音 - 低音	ビーコンの送信を停止
Bluetooth 無線がホストの通信エリアに戻る	短い低音 - 高音	デバイスをホストと再ペアリング
Bluetooth が自動的にホストに再接続したか、ホストから切断した	2 回の短いビープ音	3-10 ページの「自動再接続」を有効にする必要あり
Bluetooth 無線エリア外のときにスキャンを試行	4 回の高音	Bluetooth による転送なし
メモリ フル スキャン	長い音が 5 秒間またはスキャン ボタンを放すまで発生	

はじめに

すべての機能をデフォルト値に戻すには、**3-4 ページの「工場出荷時の状態に戻す」**バーコードをスキャンします。プログラミング バーコード メニュー全体で、デフォルト値をアスタリスク (*) で示しています。



* はデフォルトを示す

* 中音 (1) 機能/オプション
オプション値

特に指示がない限り、一連のスキャンでエラーが発生した場合は、正しいパラメータを再スキャンします。

ユーザー設定のデフォルト パラメータ

表 3-1 に、ユーザー設定パラメータのデフォルトを示します。オプションを変更する場合は、この章に掲載されている適切なバーコードをスキャンします。

✓ **注** すべてのデフォルト パラメータについては、付録 A「標準のデフォルト パラメータ」を参照してください。

表 3-1 ユーザー設定のデフォルト一覧

パラメータ	パラメータ 番号	工場出荷時のデフォルト設定	ページ番号
工場出荷時の状態に戻す	N/A	N/A	3-4
日付設定	N/A	N/A	3-5
時刻設定	N/A	N/A	3-5
日付および時刻の設定をキャンセル	N/A	N/A	3-5
Bluetooth オプション			
ペアリングバーコードのフォーマット	N/A	N/A	3-7
Bluetooth ペアリング解除	N/A	N/A	3-8
Bluetooth プロファイル	N/A	HID	3-8
データのクリア	N/A	N/A	3-9
自動再接続	N/A	無効	3-10
コネクション間隔	N/A	30 秒	3-11
HID セキュリティ	911	高	3-11
無線電波出力	N/A	Class 1	3-12
HID CoD をゼロに設定	N/A	無効	3-12
ユーザー設定			
ビープ音の音量	140	大	3-14
ビープ音の音程	145	中音	3-15
ビープ音のミュート	N/A	ミュートしない	3-15
読み取り時のバイブレータ (CS4070HC のみ)	613	有効	3-16
読み取り時のバイブレータ時間 (CS4070HC のみ)	626	200 ミリ秒	3-16
ピックリスト モード	402	常時無効	3-18
ファジー 1D 処理	514	有効	3-18
ミラー イメージ	624	無効	3-19

表 3-1 ユーザー設定のデフォルト一覧 (続き)

パラメータ	パラメータ番号	工場出荷時のデフォルト設定	ページ番号
携帯電話 / ディスプレイ モード	716	無効	3-19
PDF 優先	719	無効	3-20
PDF 優先のタイムアウト	720	200 ミリ秒	3-20
データ オプション			
コード ID キャラクタの転送	45	なし	3-21
プリフィックス値	99、105	7013 <CR><LF>	3-22
サフィックス 1 の値 サフィックス 2 の値	98、104 100、106	7013 <CR><LF>	3-22
「NR (読み取りなし)」メッセージの転送	94	無効	3-24
スキャン データ転送フォーマット	235	データのみ	3-23
バージョン オプション			
ファームウェア バージョンの送信	N/A	N/A	3-25
スキャン エンジン バージョンの送信	N/A	N/A	3-25
dongle バージョンの送信	N/A	N/A	3-25

工場出荷時の状態に戻す

スキャナを工場出荷時の状態に戻すには、以下のバーコードをスキャンします。このスキャンにより、プログラム メモリから構成ファイルが再作成されます。



工場出荷時の状態に戻す

日付と時刻の設定

- ✓ **注** スキャナで時刻および日付スタンプを設定するには、構成バーコードをスキャンする必要があります。
config.ini ファイルでは、時刻と日付を設定したり編集したりできません。この設定は、スキャナを使用しなくても 3 か月間は保持されます。

日付設定

「日付設定」バーコードをスキャンしてから、[3-6 ページの「日付および時刻設定のための数値バーコード」](#)にある **mmddyy** 形式の 6 桁の数値をスキャンします (最初の 2 桁は月、2 番目の 2 桁は日、3 番目の 2 桁は年)。

- ✓ **注** 日付形式を **mmddyy** から変更するには、[1-10 ページの「DateFormat」](#) を参照してください。



日付設定

時刻設定

「時刻設定」バーコードをスキャンしてから、24 時間形式で時刻を表す (最初の 2 桁は時、2 番目の 2 桁は分) **hhmm** の 4 桁の数値を [3-6 ページの「日付および時刻設定のための数値バーコード」](#) からスキャンします。

たとえば、時刻を午前 8:45 に設定するには、以下のバーコードをスキャンしてから 0、8、4、5 をスキャンします。午後 3:07 に設定するには、1、5、0、7 をスキャンします。

- ✓ **注** 時刻形式を **12 時間** と **24 時間** で変更するには、[1-11 ページの「TimeFormat」](#) を参照してください。



時刻設定

日付および時刻の設定のキャンセル

「設定日付/時刻のキャンセル」バーコードをスキャンし、日付および時刻の設定をキャンセルします。



設定日付/時刻のキャンセル

日付および時刻設定のための数値バーコード



0



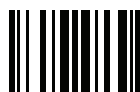
1



2



3



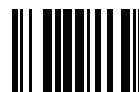
4



5



6



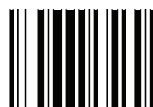
7



8



9



Enter

Bluetooth オプション

マスタ/スレーブのセットアップ

スキャナは、マスタまたはスレーブとしてセットアップできます。スキャナをスレーブとしてセットアップした場合は、他のデバイスから検出、接続することができます。マスタとしてセットアップした場合は、接続が要求されているリモート デバイスの Bluetooth アドレスが必要です。

スレーブ

スキャナをスレーブ デバイスとしてセットアップした場合は、リモート デバイスからの接続要求を受け付けます。

✓ **注** スキャナ数はホストの能力によって異なります。

スキャナをスレーブとしてセットアップするには、Bluetooth ボタンを押して検出可能モードにし、ペアリング PIN をスキャンする必要があります。詳細については、[付録 C「Bluetooth 接続の例」](#)を参照してください。

マスタ

スキャナをマスタとしてセットアップした場合は、スレーブ デバイスとの間で無線接続を開始できるようになります。2 つのうちいずれかの方法で接続を開始します。

- ドングルのバーコードをスキャンします。[B-14 ページの「USB HID ドングルの Bluetooth」](#)を参照してください。
- リモート デバイス アドレスを使ってペアリング バーコードを作成しスキャンします。[ペアリング バーコードのフォーマット](#)を参照してください。

ペアリング バーコードのフォーマット

スキャナをマスタとしてリモートの Bluetooth デバイスに接続する場合、デバイスのペアリング バーコードを作成する必要があります。バーコードの作成には、接続先リモート デバイスの Bluetooth アドレスが必要になります。ペアリング バーコードは Code 128 バーコードで、次のようにフォーマットされます。

<Fnc 3>Bxxxxxxxxxxx

値は次のとおりです。

- **B** (または **LNKB**) はプリフィックス
- **xxxxxxxxxxx** は、12 文字の Bluetooth アドレスを表します。

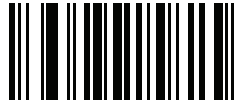
スキャナを接続できるリモートデバイスの Bluetooth アドレスが 11:22:33:44:55:66 の場合、ペアリング バーコードは次のとおりです。



ペアリング バーコード のコンテンツ: **B112233445566**
'B' + Bluetooth アドレス

Bluetooth ペアリング解除

以下のバーコードをスキャンし、ホストからスキャナをペアリング解除します。



ペアリングの解除

Bluetooth プロファイル

下のバーコードをスキャンして Bluetooth プロファイルを選択します。

- **Bluetooth HID プロファイル** - スキャナはキーボードをエミュレートします。
- **Bluetooth シリアル ポート プロファイル (SPP)** - スキャナはシリアル接続をエミュレートします。
- **Bluetooth SSI プロファイル** - スキャナは SSI を使用します。
- **Bluetooth MFi SPP** - スキャナが iPad や iPhone などの iOS デバイスのシリアル ポートに接続できるようになります。
- **Bluetooth MFi SSI** - CS4070 と iOS デバイスの間で双方向的な接続 (命令および制御) が可能になります。

Bluetooth プロファイル (続き)



*Bluetooth HID プロファイル



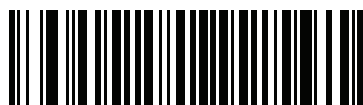
Bluetooth SPP



Bluetooth SSI プロファイル



Bluetooth MFi_SPP



Bluetooth MFi_SSI

データのクリア

以下のバーコードをスキャンし、スキャナにあるすべてのバッチ バーコード データをクリアします。このスキャンにより、スキャナから BarcodeFile.txt が削除されます。



データのクリア

自動再接続

自動再接続が有効だと、無線通信が途切れて切断された場合、スキャナは自動的にリモート デバイスに再接続を試みます。これは、スキャナがリモート デバイスの通信エリア外に出た場合、またはリモート デバイスの電源が切れた場合に発生することがあります。スキャナは設定された [3-11 ページの「コネクション間隔」](#) の時間、再接続を試みます。この間、青の LED が点滅し続けます。

ページ タイムアウトで自動再接続が失敗した場合、スキャナはページ タイムアウトのビープ音 (長い低音→長い高音) を鳴らし、無線をオフにします。自動再接続を再び有効にするには、スキャン キー (+) または削除 キー (-) を押します。

リモート デバイスが接続を拒否したために自動再接続が失敗した場合は、スキャナは接続拒否を示すビープ音シーケンスを鳴らし、リモートペア設定のアドレスを削除します。この状況が発生した場合、ペアリングバーコードをスキャンして、リモート デバイスへの新しい接続を再試行する必要があります。

✓ **注** 自動再接続シーケンス中にバーコードをスキャンすると、転送エラーを示すビープ音シーケンスが鳴り、データはホストに転送されません。接続が再確立された後、通常のスキャン操作に戻ります。ビープ音シーケンスの定義については、[2-5 ページの表 2-2](#) を参照してください。

下のバーコードをスキャンして、ドングルや他のデバイスへの Bluetooth 自動再接続を有効または無効にします。



自動再接続する



* 自動再接続しない

コネクション間隔

スキャナが他のデバイスへの接続または自動再接続を試みるまでの時間を選択します。



*30 秒



1 分



5 分

HID セキュリティ

パラメータ番号 911

以下のいずれかのバーコードをスキャンして HID セキュリティを設定します。

- 高 - キーボードのみ。Secure Simple Pairing 対応
- 低 - 入力なし / 出力なし。Secure Simple Pairing 対応

✓ **注** この設定が「低」だと HID モードで接続できないデバイスもあります。
PIN コードを入力せず HID モードで Android デバイスに接続するには、この設定を「低」にします



*HID セキュリティ高
(2)



HID セキュリティ低
(3)

無線電波出力

CS4070 は 100m まで転送できる Class 1 Bluetooth 無線を使用しています。動作モードを Class 2 にして転送距離を 10m に制限し、周囲の無線システムへの影響を抑えるには、**Bluetooth Class 2** バーコードをスキャンします。



***Bluetooth Class 1**



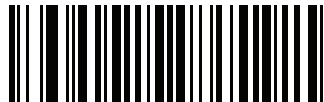
Bluetooth Class 2

HID CoD をゼロに設定

Broadcom スタックのバージョンによっては、HID デバイスへの接続時に問題が発生する場合があります。この問題が発生したら、Broadcom スタックから CS4070 デバイスを削除し、[1-11 ページの「ZeroOutHIDClassOfDevice」](#)を有効にするか、または下の **HID CoD をゼロに設定** バーコードをスキャンして、再接続します。



***HID CoD を使用**



HID CoD をゼロに設定

ユーザー設定

パラメータ バーコードのスキャン

パラメータ番号 236

パラメータ バーコード (デフォルト設定パラメータ バーコードを含む) の読み取りを無効にするには、下記のパラメータのスキャンを無効にするバーコードをスキャンします。パラメータ バーコードの読み取りを有効にするには、パラメータのスキャンを有効にするをスキャンします。



* パラメータ バーコードのスキャンを有効にする
(1)



パラメータ バーコードのスキャンを無効にする
(0)

読み取り成功時のビープ音

パラメータ番号 56

読み取りが成功したときにビープ音を鳴らすかどうかを選択します。「読み取り成功時にビープ音を鳴らさない」を選択した場合でも、パラメータ メニューをスキャンしているときとエラー状態を通知するときはビープ音が鳴ります。



* 読み取り成功時のビープ音 (有効)
(1)



読み取り成功時にビープ音を鳴らさない (無効)
(0)

ビープ音の音量

パラメータ番号 140

読み取りビープ音の音量を選択するには、該当するバーコードをスキャンします。



低音量
(2)



中音量
(1)



* 大音量
(0)

ビープ音の音程

パラメータ番号 145

読み取りビープ音周波数 (音) を選択するには、該当するバーコードをスキャンします。



低音
(2)



* 中音
(1)



高音
(0)

ビープ音のミュート

「ビープ音のミュート」バーコードをスキャンして、ビープ音をミュートします。



ビープ音のミュート
(1)



* ビープ音をミュートしない
(0)

読み取り時のバイブレータ (CS4070HC のみ)

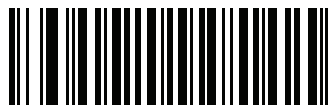
パラメータ番号 613

スキャナには、有効にされている場合、読み取りが成功したときに一定時間スキャナを振動させるバイブレータが組み込まれています。

バイブレータを有効または無効にするには、以下のバーコードをスキャンします。有効になっている場合、該当するバーコードをスキャンして、スキャナを振動させる時間を設定します (以下の**読み取り時のバイブレータ時間 (CS4070HC のみ)**を参照)。



バイブレータを無効にする
(0)



*バイブレータを有効にする
(1)

読み取り時のバイブレータ時間 (CS4070HC のみ)

パラメータ番号 626



150 ミリ秒
(15)



*200 ミリ秒
(20)

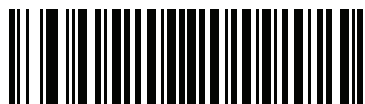
読み取り時のバイブレータ時間 (続き)



250 ミリ秒
(25)



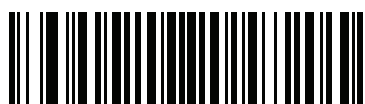
300 ミリ秒
(30)



400 ミリ秒
(40)



500 ミリ秒
(50)



600 ミリ秒
(60)



750 ミリ秒
(75)

ピックリスト モード

パラメータ番号 402

ピックリスト モードでは、スキャナが照準ドットの中央の下に並んでいるバーコードのみを読み取ることができます。次のいずれかのピックリスト モードを選択してください。

- 常時無効 - ピックリスト モードは常時無効です。
- 常時有効 - ピックリスト モードは常時有効です。



* 常時無効
(0)



常時有効
(2)

ファジー 1D 処理

パラメータ番号 514

このオプションはデフォルトで有効になっており、損傷したシンボルや品質の良くないシンボルを含め、1D バーコードでの読み取りパフォーマンスを最適化します。2D バーコードの読み取りや、読み取るものがないときの検出で遅延が発生する場合のみ、このオプションを無効にしてください。



* ファジー 1D 処理を有効にする
(1)



ファジー 1D 処理を無効にする
(0)

ミラー イメージ

パラメータ番号 624

鏡像のように反転させて画像をスキャンするにはこのモードを有効にします。鏡越しにスキャンしたい場合や、逆向きでは読み込めないシンボル体系を使う場合に便利です。



* ミラー イメージを無効にする
(0)



ミラー イメージを有効にする
(1)

携帯電話/ディスプレイ モード

パラメータ番号 716

このモードでは、携帯電話および電子ディスプレイに対象のバーコードが表示されているときのバーコード読み取り性能が向上します。



* 携帯電話/ディスプレイ モードを無効にする
(0)



携帯電話/ディスプレイ モードを有効にする
(3)

PDF 優先

パラメータ番号 719

この機能を有効にすると、**PDF 優先のタイムアウト**で指定した値だけ、1D バーコード (Code 128 の 8 ～ 25 文字の長さ) の読み取りを遅らせます。その期間、スキャナは PDF417 シンボル (例、米国ドライバーズ ライセンス) を読み取ろうとし、成功するとそのことだけを報告します。PDF417 シンボルを読み取らない (見つからない) 場合、タイムアウト後に 1D シンボルを報告します。スキャナが報告するためには、1D シンボルがデバイスの読み取り幅内に収まっている必要があります。このパラメータは、その他のシンボル体系の読み取りには影響しません。



*PDF 優先を無効にする
(0)



PDF 優先を有効にする
(1)

PDF 優先のタイムアウト

パラメータ番号 720

PDF 優先が有効になっている場合、このタイムアウトで、読み取り幅内の 1D バーコードを報告する前に、スキャナが PDF417 の読み取りを試行する時間が指定されます。

以下のバーコードをスキャンしてから、タイムアウトをミリ秒単位で指定する 4 桁を**付録 F「数値バーコード」**からスキャンします。たとえば、400 ミリ秒と入力するには、次のバーコードをスキャンしてから 0400 をスキャンします。範囲は 0 ～ 5000 ミリ秒で、デフォルト値は 200 ミリ秒です。



PDF 優先のタイムアウト

データ オプション

コード ID キャラクタの転送

パラメータ番号 45

コード ID キャラクタは、スキャンしたバーコードのコードタイプを特定します。この方法は複数のコードタイプを読み取る場合に便利です。選択された 1 文字のプリフィックスに加え、プリフィックスと読み取ったシンボルの間にコード ID キャラクタが挿入されます。

コード ID キャラクタなし、シンボル コード ID キャラクタ、AIM コード ID キャラクタのいずれかから選択できます。コード ID キャラクタについては、[付録 D「プログラミング リファレンス」](#)を参照してください。

✓ **注** シンボル コード ID または AIM コード ID キャラクタを有効にし、さらに [3-24 ページの「NR \(読み取りなし\)」メッセージの転送](#)を有効にした場合、NR メッセージに Code 39 のコード ID が追加されます。



シンボル コード ID キャラクタ
(2)



AIM コード ID キャラクタ
(1)



*なし
(0)

プリフィックス/サフィックス値

キー カテゴリ パラメータ番号 P = 99、S1 = 98、S2 = 100

10 進数値パラメータ番号 P = 105、S1 = 104、S2 = 106

データ編集のためにスキャン データに 1 つのプリフィックスと、1 つまたは 2 つのサフィックスを追加できます。プリフィックス/サフィックス値を設定するには、その値に対応する数字 4 桁 (つまり、[付録 F「数値バーコード」](#)の 4 種類のバーコード) をスキャンします。4 桁のコードについては、[付録 G「ASCII キャラクタセット」](#)を参照してください。

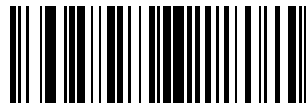
ホスト コマンドを使用してプリフィックスまたはサフィックスを設定するときは、キー カテゴリ パラメータを 1 に設定してから 3 桁の 10 進数値を設定します。4 桁のコードについては、[付録 G「ASCII キャラクタセット」](#)を参照してください。

操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、[F-2 ページの「キャンセル」](#)をスキャンします。

- ✓ **注** プリフィックス/サフィックス値を使用するには、[3-23 ページの「スキャン データ転送フォーマット」](#)を最初に設定します。



プリフィックスのスキャン
(7)



サフィックス 1 のスキャン
(6)



サフィックス 2 のスキャン
(8)



データ フォーマットのキャンセル

スキャン データ転送フォーマット

パラメータ番号 235

スキャン データ フォーマットを変更するには、下記の 8 つのバーコードの中から目的のフォーマットに対応したバーコードをスキャンします。

- ✓ **注** このパラメータを使用する場合は、プリフィックス/サフィックスの設定に ADF 規則を使用しないでください。
- ✓ **注** データにキャリッジ リターンを付加するには、「<data><suffix1>」バーコードをスキャンします。
3-8 ページの「Bluetooth プロファイル」を「Bluetooth SPP」に設定している場合、<data><suffix1> を選択したら、テキスト ファイルの次の行にカーソルを移動するため、次に **Config.ini** ファイルで **Suffix=0x0A** と設定してライン フィードを有効にします。

プリフィックスおよびサフィックスの値を設定するには、**3-22 ページの「プリフィックス/サフィックス値」**を参照してください。



* データのみ
(0)



<DATA> <SUFFIX 1>
(1)



<DATA> <SUFFIX 2>
(2)



<DATA> <SUFFIX 1> <SUFFIX 2>
(3)



<PREFIX> <DATA>
(4)

スキャンデータ転送フォーマット(続き)



<PREFIX> <DATA> <SUFFIX 1>
(5)



<PREFIX> <DATA> <SUFFIX 2>
(6)



<PREFIX> <DATA> <SUFFIX 1> <SUFFIX 2>
(7)

「NR (読み取りなし)」メッセージの転送

パラメータ番号 94

「NR (読み取りなし)」メッセージを転送するかどうかを選択するには、下記のバーコードをスキャンします。このオプションを選択すると、トリガから指を放すかタイムアウト時間内に読み取りが行われなかった場合に、NR が転送されます。シンボルが読み取られなかった場合にホストに何も送信しないときは、このオプションを無効にします。

- ✓ 注 「NR (読み取りなし)」メッセージの転送を有効にし、さらに3-21 ページの「コード ID キャラクタの転送」のシンボル コード ID キャラクタまたは AIM コード ID キャラクタを有効にした場合、NR メッセージに Code 39 のコード ID が追加されます。



「NR (読み取りなし)」メッセージを有効にする
(1)



* 「NR (読み取りなし)」メッセージを無効にする
(0)

バージョンの送信

ファームウェア バージョン

以下のバーコードをスキャンして、ホストにファームウェア バージョンを送信します。



ファームウェア バージョン

スキャン エンジン バージョン

以下のバーコードをスキャンして、ホストにスキャン エンジン バージョンを送信します。



スキャン エンジン バージョン

dongle バージョン

以下のバーコードをスキャンして、ホストに dongle バージョンを送信します。



dongle バージョン

第 4 章 シンボル体系

はじめに

この章では、シンボル体系について説明し、スキャナでこれらの機能を選択するためのプログラミング バーコードを示します。プログラミングの前に、[第 1 章「はじめに」](#)の手順に従ってください。

スキャナは、[4-2 ページの表 4-1](#)に示す設定で出荷されています (スキャナのデフォルト値については、[付録 A「標準のデフォルト パラメータ」](#)も参照)。デフォルト値が要件に適合している場合、プログラミングは必要ありません。機能値は 1 つのバーコードまたは短いバーコード シーケンスをスキャンして設定します。

✓ **注** 多くのコンピュータでは、画面上でバーコードを直接スキャンできます。画面からスキャンする場合、文書の倍率をバーコードが鮮明に見え、バーやスペースが結合していないレベルに設定してください。

すべての機能をデフォルト値に戻す手順については、[3-4 ページの「工場出荷時の状態に戻す」](#)を参照してください。プログラミング バーコード メニュー全体で、アスタリスク (*) はデフォルト値を示しています。



* はデフォルトを示す — ***UPC-A を有効にする** — 機能/オプション
(1) — オプション値

スキャン シーケンスの例

ほとんどの場合、パラメータ値の設定でスキャンするのは 1 つのバーコードだけです。たとえば、UPC-A チェック デジットを含まないバーコード データを転送する場合は、[4-16 ページの「UPC-A チェック デジットを転送」](#)の一覧に掲載された「UPC-A チェック デジットを転送しない」バーコードをスキャンします。短い高音のビーブ音が 1 回鳴って LED が緑色に変わると、パラメータが正常に設定されたことがわかります。

また、複数のバーコードを順にスキャンして設定する「Discrete 2 of 5 の読み取り桁数設定」などのパラメータもあります。この手順に関係するパラメータの説明を参照してください。

スキャン中のエラー

特に指定されていない限り、スキャン シーケンス中のエラーは、正しいパラメータを再スキャンすることで修正できます。

シンボル体系のデフォルト パラメータ

表 4-1 にすべてのシンボル体系パラメータのデフォルトを示します。オプションを変更するには、この章で示されている該当するバーコードをスキャンします。

✓ **注** すべてのデフォルト パラメータについては、**付録 A「標準のデフォルト パラメータ」**を参照してください。

表 4-1 シンボル体系パラメータのデフォルト一覧

パラメータ	パラメータ 番号	デフォルト	ページ番号
すべてのコード タイプを有効/無効にする			4-7
1D バーコード			
UPC/EAN			
UPC-A	1	有効	4-8
UPC-E	2	有効	4-8
UPC-E1	12	無効	4-9
EAN-8/JAN 8	4	有効	4-9
EAN-13/JAN 13	3	有効	4-10
Bookland EAN	83	無効	4-10
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り (2 桁および 5 桁)	16	無視	4-12
ユーザーが設定できるサプリメンタル サプリメンタル 1: サプリメンタル 2:	579 580	000	4-14
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り繰返回数	80	10	4-14
UPC/EAN/JAN サプリメンタル AIM ID の読み取り	672	結合	4-15
UPC-A チェック デジットを転送	40	有効	4-16
UPC-E チェック デジットを転送	41	有効	4-16
UPC-E1 チェック デジットを転送	42	有効	4-17
UPC-A プリアンブル	34	システム キャラクタ	4-18

表 4-1 シンボル体系パラメータのデフォルト一覧 (続き)

パラメータ	パラメータ 番号	デフォルト	ページ番号
UPC-E プリアンブル	35	システム キャラクタ	4-18
UPC-E1 プリアンブル	36	システム キャラクタ	4-20
UPC-E から UPC-A フォーマットへの変換	37	無効	4-21
UPC-E1 から UPC-A フォーマットへの変換	38	無効	4-21
EAN-8/JAN-8 拡張	39	無効	4-22
Bookland ISBN 形式	576	ISBN-10	4-22
UCC クーポン拡張コード	85	無効	4-23
クーポン レポート	730	新クーポン フォーマット	4-24
ISSN EAN	617	無効	4-24
Code 128			
Code 128	8	有効	4-25
Code 128 の読み取り桁数設定	209、210	1 ~ 55	4-25
GS1-128 (旧 UCC/EAN-128)	14	有効	4-27
ISBT 128	84	有効	4-27
ISBT の連結	577	自動識別	4-28
ISBT テーブルのチェック	578	有効	4-29
ISBT 連結の読み取り繰返回数	223	10	4-29
Code 128 セキュリティ レベル	751	セキュリティ レベル 1	4-30
Code 39			
Code 39	0	有効	4-31
Trioptic Code 39	13	無効	4-31
Code 39 から Code 32 への変換 (Italian Pharmacy Code)	86	無効	4-32
Code 32 プリフィックス	231	無効	4-32
Code 39 の読み取り桁数設定	18、19	1 ~ 55	4-33
Code 39 チェック デジットの確認	48	無効	4-34
Code 39 チェック デジットの転送	43	無効	4-34
Code 39 Full ASCII 変換	17	無効	4-35

表 4-1 シンボル体系パラメータのデフォルト一覧 (続き)

パラメータ	パラメータ 番号	デフォルト	ページ番号
Code 39 セキュリティ レベル	750	セキュリティ レベル 1	4-36
Code 93			
Code 93	9	有効	4-37
Code 93 の読み取り桁数設定	26、27	1 ~ 55	4-37
Code 11			
Code 11	10	無効	4-39
Code 11 の読み取り桁数を設定する	28、29	4 ~ 55	4-39
Code 11 チェック デジットの確認	52	無効	4-41
Code 11 チェック デジットの転送	47	無効	4-42
Interleaved 2 of 5 (ITF)			
Interleaved 2 of 5 (ITF)	6	有効	4-43
Interleaved 2 of 5 の読み取り桁数設定	22、23	6 ~ 55	4-43
Interleaved 2 of 5 チェック デジットの確認	49	無効	4-45
Interleaved 2 of 5 チェック デジットを転送する	44	無効	4-46
Interleaved 2 of 5 から EAN 13 への変換	82	無効	4-46
I 2 of 5 のセキュリティ レベル	1121	セキュリティ レベル 1	4-47
Discrete 2 of 5 (DTF)			
Discrete 2 of 5	5	無効	4-48
Discrete 2 of 5 の読み取り桁数設定	20、21	1 ~ 55	4-48
Codabar (NW - 7)			
Codabar	7	有効	4-50
Codabar の読み取り桁数設定	24、25	4 ~ 55	4-50
CLSI 編集	54	無効	4-52
NOTIS 編集	55	無効	4-52
Codabar の大文字または小文字のスタート / ストップ キャラクタの検出	855	大文字	
MSI			
MSI	11	無効	4-54
MSI の読み取り桁数設定	30、31	4 ~ 55	4-54

表 4-1 シンボル体系パラメータのデフォルト一覧 (続き)

パラメータ	パラメータ 番号	デフォルト	ページ番号
MSI チェック デジット	50	1	4-56
MSI チェック デジットの転送	46	無効	4-56
MSI チェック デジットのアルゴリズム	51	Mod 10/Mod 10	4-57
Chinese 2 of 5			
Chinese 2 of 5	408	無効	4-58
Matrix 2 of 5			
Matrix 2 of 5	618	無効	4-59
Matrix 2 of 5 の読み取り桁数	619、620	4 ~ 55	4-59
Matrix 2 of 5 チェック デジット	622	無効	4-61
Matrix 2 of 5 チェック デジットを転送	623	無効	4-61
Korean 3 of 5			
Korean 3 of 5	581	無効	4-62
反転 1D	586	標準	4-63
GS1 DataBar			
GS1 DataBar-14	338	有効	4-64
GS1 DataBar Limited	339	有効	4-64
GS1 DataBar Expanded	340	有効	4-65
GS1 DataBar を UPC/EAN に変換	397	無効	4-65
GS1 DataBar Limited のセキュリティ レベル	728	レベル 3	4-66
Composite			
Composite CC-C	341	無効	4-67
Composite CC-A/B	342	無効	4-67
Composite TLC-39	371	無効	4-68
UPC Composite モード	344	リンクしない	4-68
UCC/EAN Composite コードの GS1-128 エミュレーション モード	427	無効	4-69
郵便コード			
US Postnet	89	無効	4-70
US Planet	90	無効	4-70

表 4-1 シンボル体系パラメータのデフォルト一覧 (続き)

パラメータ	パラメータ 番号	デフォルト	ページ番号
US Postal チェック デジットを転送	95	有効	4-71
UK Postal	91	無効	4-71
UK Postal チェック デジットを転送	96	有効	4-72
Japan Postal	290	無効	4-72
Australia Post	291	無効	4-73
Australia Post フォーマット	718	自動識別	4-74
Netherlands KIX Code	326	無効	4-75
USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail	592	無効	4-75
UPU FICS Postal	611	無効	4-76
2D バーコード			
PDF417	15	有効	4-77
MicroPDF417	227	無効	4-77
Code 128 エミュレーション	123	無効	4-78
Data Matrix	292	有効	4-79
Data Matrix 反転	588	反転の自動検出	4-79
ミラー イメージの読み取り (Data Matrix のみ)	537	自動	4-80
Maxicode	294	無効	4-81
QR Code	293	有効	4-81
QR 反転	587	標準	4-82
MicroQR	573	有効	4-82
Aztec	574	有効	4-83
Aztec 反転	589	反転の自動検出	4-83
Han Xin	1167	無効	4-84
Han Xin 反転	1168	標準	4-84
シンボル体系特有のセキュリティ レベル			
リダンダンシー レベル	78	1	4-85
双方向リダンダンシー	67	無効	4-87
セキュリティ レベル	77	1	4-88
キャラクタ間ギャップ サイズ	381	通常	4-89

すべてのコード タイプを有効/無効にする

すべてのシンボル体系を無効にするには、以下の「すべてのコード タイプを無効にする」をスキャンします。この設定は、少数のバーコードタイプを有効にしている場合にのみ使用してください。

すべてのコード タイプをオン (有効) にするには、「すべてのコード タイプを有効にする」をスキャンします。これは、すべてのコードを読み取る場合、または少数のコード タイプのみを無効にする場合に役立ちます。



すべてのコード タイプを無効にする



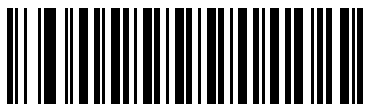
すべてのコード タイプを有効にする

UPC/EAN

UPC-A の有効化/無効化

パラメータ番号 1

UPC-A を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



*UPC-A を有効にする
(1)

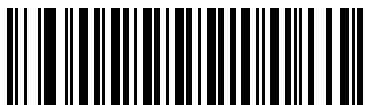


UPC-A を無効にする
(0)

UPC-E の有効化/無効化

パラメータ番号 2

UPC-E を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



*UPC-E を有効にする
(1)



UPC-E を無効にする
(0)

UPC-E1 の有効化/無効化

パラメータ番号 12

UPC-E1 はデフォルトでは無効です。

UPC-E1 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。

✓ 注 UPC-E1 は、UCC (Uniform Code Council) 承認のシンボル体系ではありません。



UPC-E1 を有効にする
(1)

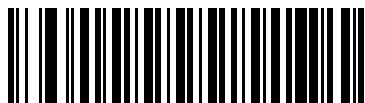


*UPC-E1 を無効にする
(0)

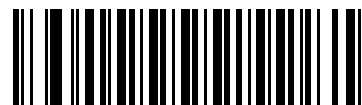
EAN-8/JAN-8 の有効化/無効化

パラメータ番号 4

EAN-8/JAN-8 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



*EAN-8/JAN-8 を有効にする
(1)



EAN-8/JAN-8 を無効にする
(0)

EAN-13/JAN-13 の有効化/無効化

パラメータ番号 3

EAN-13/JAN-13 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



*EAN-13/JAN-13 を有効にする
(1)

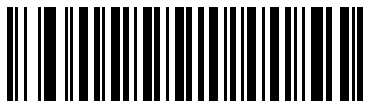


EAN-13/JAN-13 を無効にする
(0)

Bookland EAN の有効化/無効化

パラメータ番号 83

Bookland EAN を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Bookland EAN を有効にする
(1)



*Bookland EAN を無効にする
(0)



注

Bookland EAN を有効にする場合は、[4-22 ページの「Bookland ISBN 形式」](#)を選択します。また、[4-11 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り」](#)の、「UPC/EAN サプリメンタルを読み取る」、「UPC/EAN サプリメンタルを自動認識する」、または「978/979 サプリメンタル モードを有効にする」のいずれかも選択します。

UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り

パラメータ番号 16

サプリメンタルは、特定の形式変換に従って追加されるバーコードです (例、UPC A+2、UPC E+2、EAN 13+2)。次のオプションから選択できます。

- ・「サプリメンタルコード付き UPC/EAN/JAN を無視する」を選択した場合、サプリメンタル シンボル付き UPC/EAN をスキャンすると、UPC/EAN は読み取られますが、サプリメンタル キャラクタは無視されます。
- ・「サプリメンタルコード付き UPC/EAN/JAN のみ読み取る」を選択した場合、サプリメンタル キャラクタ付き UPC/EAN/JAN シンボルのみが読み取られ、サプリメンタルがないシンボルは無視されます。
- ・「サプリメンタルコード付き UPC/EAN/JAN を自動認識する」を選択した場合、サプリメンタル キャラクタ付き UPC/EAN は直ちに読み取られます。シンボルにサプリメンタルがない場合、スキャナはサプリメンタルがないことを確認するために、[4-14 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り繰返回数」](#)で設定された回数だけバーコードを読み取ってから、このデータを転送します。
- ・次のサプリメンタル モードオプションのいずれかを選択した場合、スキャナは、サプリメンタル キャラクタを含んだプリフィックスで始まる EAN/JAN-13 バーコードを直ちに転送します。シンボルにサプリメンタルがない場合、スキャナはサプリメンタルがないことを確認するために、[4-14 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り繰返回数」](#)で設定された回数だけバーコードを読み取ってから、このデータを転送します。プリフィックスを含まない UPC/EAN/JAN バーコードは直ちに転送されます。
- ・ 378/379 サプリメンタル モードを有効にする
- ・ 978/979 サプリメンタル モードを有効にする

✓ **注** 「978/979 サプリメンタル モード」を選択し、Bookland EAN バーコードをスキャンしている場合、[4-10 ページの「Bookland EAN の有効化/無効化」](#)を参照して Bookland EAN を有効にし、[4-22 ページの「Bookland ISBN 形式」](#)を使用して形式を選択します。

- ・ 977 サプリメンタル モードを有効にする
- ・ 414/419/434/439 サプリメンタル モードを有効にする
- ・ 491 サプリメンタル モードを有効にする
- ・ スマート サプリメンタル モードを有効にする - 前述したプリフィックスで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。
- ・ サプリメンタル ユーザープログラム可能タイプ 1 - ユーザーが定義した 3 桁のプリフィックスで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。[4-14 ページの「ユーザーが設定できるサプリメンタル」](#)を使用して 3 桁のプリフィックスを設定します。
- ・ サプリメンタル ユーザープログラム可能タイプ 1 および 2 - ユーザーが定義した 2 つある 3 桁のプリフィックスのいずれかで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。この 3 桁のプリフィックスは、[4-14 ページの「ユーザーが設定できるサプリメンタル」](#)を使用して設定します。
- ・ スマート サプリメンタル プラス ユーザープログラム可能 1 - 前述したプリフィックスか、または [4-14 ページの「ユーザーが設定できるサプリメンタル」](#)を使用してユーザーが定義したプリフィックスで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。
- ・ スマート サプリメンタル プラス ユーザープログラム可能 1 および 2 - 前述したプリフィックスか、または [4-14 ページの「ユーザーが設定できるサプリメンタル」](#)を使用してユーザーが定義した 2 つのプリフィックスのいずれかで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。

✓ **注** 無効なデータ転送となるリスクを最小限に抑えるため、サプリメンタル キャラクタの読み取りが無視のいずれかを選択します。

UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り (続き)



サプリメンタル コード付き UPC/EAN/JAN のみを
読み取る
(1)



* サプリメンタルを無視する
(0)



UPC/EAN/JAN サプリメンタルを自動認識する
(2)



378/379 サプリメンタル モードを有効にする
(4)



978/979 サプリメンタル モードを有効にする
(5)



977 サプリメンタル モードを有効にする
(7)

UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り (続き)



414/419/434/439 サプリメンタル モードを有効にする
(6)



491 サプリメンタル モードを有効にする
(8)



スマート サプリメンタル モードを有効にする
(3)



サプリメンタル ユーザープログラム可能タイプ 1
(9)



サプリメンタル ユーザープログラム可能タイプ 1 および 2
(10)



スマート サプリメンタル プラス ユーザープログラム
可能 1
(11)



スマート サプリメンタル プラス ユーザープログラム
可能 1 および 2
(12)

ユーザーが設定できるサブリメンタル

サブリメンタル 1: パラメータ番号 579

サブリメンタル 2: パラメータ番号 580

4-11 ページの「UPC/EAN/JAN サブリメンタルの読み取り」でユーザーが設定できるサブリメンタル オプションのいずれかを選択した場合、3 桁のプリフィックスを設定するには、「ユーザープログラム可能サブリメンタル 1」を選択します。次に、F-1 ページから始まる数値バーコードを使用して 3 桁を選択します。別の 3 桁のプリフィックスを設定するには、「ユーザープログラム可能サブリメンタル 2」を選択します。次に、F-1 ページから始まる数値バーコードを使用して 3 桁を選択します。デフォルトは 000 (ゼロ) です。



ユーザープログラム可能サブリメンタル 1



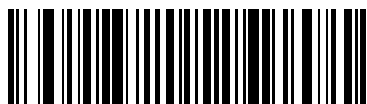
ユーザープログラム可能サブリメンタル 2

UPC/EAN/JAN サブリメンタルの読み取り繰返回数

パラメータ番号 80

「UPC/EAN/JAN サブリメンタルを自動認識する」を選択した場合、転送の前に、サブリメンタルなしのシンボルを指定した回数で繰り返し読み取ります。範囲は 2 ～ 30 回です。サブリメンタル付きとなしのタイプが混在している UPC/EAN/JAN シンボルを読み取る際には、5 回以上の値を設定するようお勧めします。デフォルトは 10 です。

以下のバーコードをスキャンし、読み取り繰返回数を設定します。次に、付録 F「数値バーコード」に載っている 2 つの数値バーコードをスキャンします。1 桁の数字には、先頭にゼロを入力します。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、F-2 ページの「キャンセル」をスキャンします。



UPC/EAN/JAN サブリメンタルの読み取り繰返回数

サプリメンタルコード付き UPC/EAN/JAN の AIM ID フォーマット

パラメータ番号 672

3-21 ページの「コード ID キャラクタの転送」が「AIM コード ID キャラクタ」に設定されている状態でサプリメンタルコード付き UPC/EAN/JAN バーコードを転送するときの出力フォーマットを選択します。

- **個別** - サプリメンタルコード付き UPC/EAN を分離された AIM ID で 1 回で転送します。例：
]E<0 または 4><データ>]E<1 または 2>[サプリメンタル データ]
- **結合** - サプリメンタルコード付き UPC/EAN を AIM ID で 1 回で転送します。例：
]E3<データ + サプリメンタル データ>
- **個別転送** - サプリメンタルコード付き UPC/EAN を分離された AIM ID で個別に転送します。例：
]E<0 または 4><データ>
]E<1 または 2>[サプリメンタル データ]



個別
(0)



* 結合
(1)

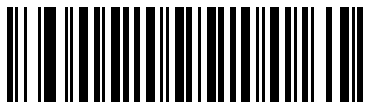


個別転送
(2)

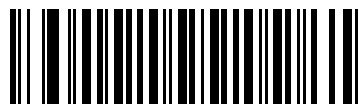
UPC-A チェック デジットを転送

パラメータ番号 40

チェック デジットとは、シンボルの最後のキャラクタで、データの整合性を検証するために使用されます。以下の該当するバーコードをスキャンし、バーコード データを UPC-A チェック デジット付きまたはなしで転送します。データの整合性の保証を常に確認します。



*UPC-A チェック デジットを転送
(1)

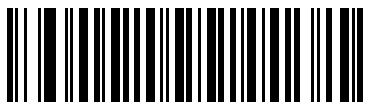


UPC-A チェック デジットを転送しない
(0)

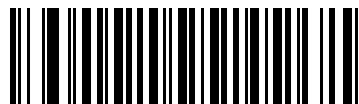
UPC-E チェック デジットを転送

パラメータ番号 41

チェック デジットとは、シンボルの最後のキャラクタで、データの整合性を検証するために使用されます。以下の該当するバーコードをスキャンし、バーコード データを UPC-E チェック デジット付きまたはなしで転送します。データの整合性の保証を常に確認します。



*UPC-E チェック デジットを転送
(1)

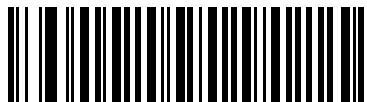


UPC-E チェック デジットを転送しない
(0)

UPC-E1 チェック デジットを転送

パラメータ番号 42

チェック デジットとは、シンボルの最後のキャラクタで、データの整合性を検証するために使用されます。以下の該当するバーコードをスキャンし、バーコード データを UPC-E1 チェック デジット付きまたはなしで転送します。データの整合性の保証を常に確認します。



*UPC-E1 チェック デジットを転送
(1)

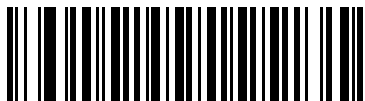


UPC-E1 チェック デジットを転送しない
(0)

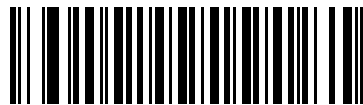
UPC-A プリアンブル

パラメータ番号 34

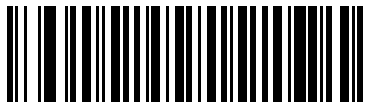
プリアンブル キャラクタは、UPC シンボルの一部であり、カンントリー コードおよびシステム キャラクタを含んでいます。UPC-A プリアンブルをホスト デバイスに転送するオプションは 3 つあります。システム キャラクタのみを転送、システム キャラクタとカンントリー コード (米国は「0」) を転送、プリアンブルを転送しない、です。ホスト システムに一致する適切なオプションを選択します。



プリアンブルなし (<データ>)
(0)



* システム キャラクタ
(<システム キャラクタ><データ>)
(1)

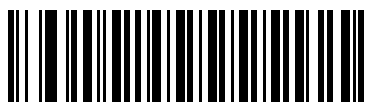


システム キャラクタおよびカンントリー コード
(<カンントリー コード><システム キャラクタ>
<データ>)
(2)

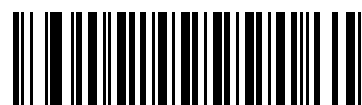
UPC-E プリアンブル

パラメータ番号 35

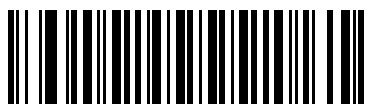
プリアンブル キャラクタは、UPC シンボルの一部であり、カントリー コードおよびシステム キャラクタを含んでいます。UPC-E プリアンブルをホスト デバイスに転送するオプションは 3 つあります。システム キャラクタのみを転送、システム キャラクタとカントリー コード (米国は「0」) を転送、プリアンブルを転送しない、です。ホスト システムに一致する適切なオプションを選択します。



プリアンブルなし (<データ>)
(0)



* システム キャラクタ
(<システム キャラクタ><データ>)
(1)

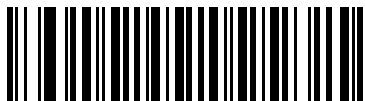


システム キャラクタおよびカントリー コード
(<カントリー コード><システム キャラクタ>
<データ>)
(2)

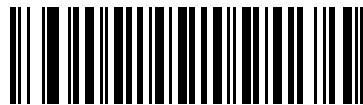
UPC-E1 プリアンブル

パラメータ番号 36

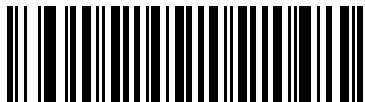
プリアンブル キャラクタは、UPC シンボルの一部であり、カンントリー コードおよびシステム キャラクタを含んでいます。UPC-E1 プリアンブルをホスト デバイスに転送するオプションは 3 つあります。システム キャラクタのみを転送、システム キャラクタとカンントリー コード (米国は「0」) を転送、プリアンブルを転送しない、です。ホスト システムに一致する適切なオプションを選択します。



プリアンブルなし (<データ>)
(0)



* システム キャラクタ (<システム キャラクタ>
<データ>)
(1)



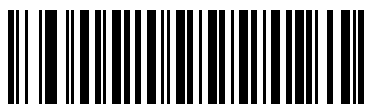
システム キャラクタおよびカンントリー コード
(<カンントリー コード><システム キャラクタ>
<データ>)
(2)

UPC-E を UPC-A に変換する

パラメータ番号 37

転送前に UPC-E (ゼロ抑制) 読み取りデータを UPC-A 形式に変換するには、このオプションを有効にします。変換後、データは UPC-A 形式に従い、UPC-A プログラミング選択 (例、プリアンブル、チェック デジット) の影響を受けます。

UPC-E 読み取りデータを UPC-E データとして変換なしで転送するには、このパラメータを無効にします。



UPC-E を UPC-A に変換する (有効)
(1)



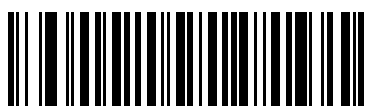
*UPC-E を UPC-A に変換しない (無効)
(0)

UPC-E1 を UPC-A に変換する

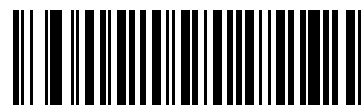
パラメータ番号 38

転送前に UPC-E1 読み取りデータを UPC-A 形式に変換するには、このパラメータを有効にします。変換後、データは UPC-A 形式に従い、UPC-A プログラミング選択 (例、プリアンブル、チェック デジット) の影響を受けます。

UPC-E1 読み取りデータを UPC-E1 データとして変換なしで転送するには、このパラメータを無効にします。



UPC-E1 を UPC-A に変換する (有効)
(1)



*UPC-E1 を UPC-A に変換しない (無効)
(0)

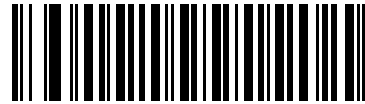
EAN-8/JAN-8 拡張

パラメータ番号 39

読み取った EAN-8 シンボルが形式で EAN-13 シンボルと互換性を持つように、先頭にゼロを 5 つ追加するには、このパラメータを有効にします。EAN-8 シンボルをそのまま転送するには、このパラメータを無効にします。



EAN/JAN ゼロ拡張を有効にする
(1)



*EAN/JAN ゼロ拡張を無効にする
(0)

Bookland ISBN 形式

パラメータ番号 576

[4-10 ページの「Bookland EAN の有効化/無効化」](#)を使用して Bookland EAN を有効にした場合、次のいずれかの形式の Bookland データを選択します。

- **Bookland ISBN-10** - 下位互換性用の特殊な Bookland チェック デジットを備えた従来の 10 桁形式で、978 で始まる Bookland データが認識されます。このモードでは、979 で始まるデータは Bookland とは見なされません。
- **Bookland ISBN-13** - 2007 ISBN-13 プロトコル対応の 13 桁形式で、978 または 979 で始まる EAN/JAN-13 データが Bookland と認識されます。



*Bookland ISBN-10
(0)



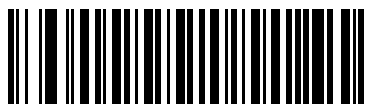
Bookland ISBN-13
(1)

✓ **注** Bookland EAN を適切に使用するには、まず [4-10 ページの「Bookland EAN の有効化/無効化」](#)を使用して、Bookland EAN を有効にします。次に、[4-11 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り」](#)で「UPC/EAN サプリメンタルを読み取る」、「UPC/EAN サプリメンタルを自動認識する」、または「978/979 サプリメンタル モードを有効にする」のいずれかを選択します。

UCC クーポン拡張コード

パラメータ番号 85

「5」ディジットで始まる UPC-A バーコード、「99」ディジットで始まる EAN/JAN-13 バーコード、UPC-A/GS1-128 クーポンコードを読み取るには、「有効」を選択します。すべてのタイプのクーポンコードをスキャンするには、UPCA、EAN-13、GS1-128 を有効にする必要があります。



UCC クーポン拡張コードを有効にする
(1)



*UCC クーポン拡張コードを無効にする
(0)

- ✓ 注 クーポンコードの GS1-128 (右半分) の自動識別を制御する場合、[4-14 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り繰返回数」](#)を参照してください。

クーポン レポート

パラメータ番号 730

オプションを選択して、サポートするクーポン フォーマットのタイプを決定します。

- UPC-A/GS1-128 と EAN-13/GS1-128 のクーポン コードを読み取るには、「旧クーポン フォーマット」を選択します。
- UPC-A/GS1-DataBar と EAN-13/GS1-DataBar のクーポン コードを読み取るには、「新クーポン フォーマット」を選択します。
- 「自動識別クーポン フォーマット」を選択すると、「旧クーポン フォーマット」と「新クーポン フォーマット」をどちらも読み取ることができます。



旧クーポン フォーマット
(0)



*新クーポン フォーマット
(1)



自動識別クーポン フォーマット
(2)

ISSN EAN

パラメータ番号 617

ISSN EAN を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



ISSN EAN を有効にする
(1)



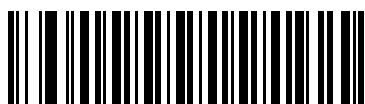
*ISSN EAN を無効にする
(0)

Code 128

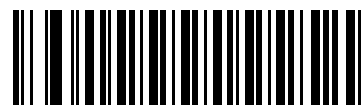
Code 128 を有効/無効にする

パラメータ番号 8

Code 128 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



*Code 128 を有効にする
(1)



Code 128 を無効にする
(0)

Code 128 の読み取り桁数を設定する

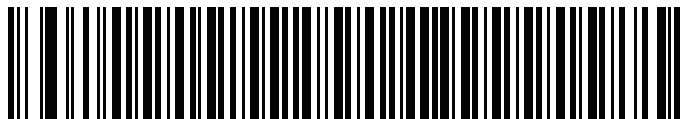
パラメータ番号 209、210

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、キャラクタ数 (人間が読み取れるキャラクタの数) を参照します。Code 128 の読み取り桁数を、任意長、1 または 2 種類の読み取り桁数、または指定範囲内の読み取り桁数に設定します。デフォルトは 1 ~ 55 です。

✓ **注** 異なるバーコードタイプの読み取り桁数を設定するとき、1 桁の数字の先頭にはゼロを入力します。

- **1 種類の読み取り桁数** - 読み取り桁数が 1 種類の Code 128 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、14 文字の Code 128 シンボルだけを読み取るには、「**Code 128 - 1 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、**1、4** をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 選択した 2 種類の読み取り桁数のいずれかを含む Code 128 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Code 128 シンボルだけを読み取るには、「**Code 128 - 2 種類の読み取り桁数**」を選択し、**0、2、1、4** をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数のコードを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の範囲を含む Code 128 シンボルを読み取る場合は、「**Code 128 - 指定範囲内**」を選択し、次に **0、4、1、2** をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **任意長** - スキャナで許容される任意の文字数の Code 128 シンボルを読み取ります。

Code 128 の読み取り桁数を設定する (続き)



Code 128 - 1 種類の読み取り桁数



Code 128 - 2 種類の読み取り桁数



Code 128 - 指定範囲内

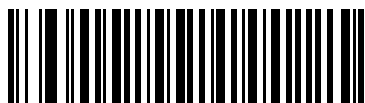


Code 128 - 任意長

GS1-128 (以前の UCC/EAN-128) を有効/無効にする

パラメータ番号 14

GS1-128 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



*GS1-128 を有効にする
(1)



GS1-128 を無効にする
(0)

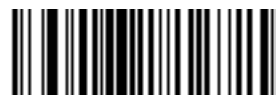
ISBT 128 を有効/無効にする

パラメータ番号 84

ISBT 128 は血液バンク業界で使用される Code 128 の一種です。ISBT 128 を有効または無効にするには、以下のバーコードをスキャンします。必要に応じて、ホストは ISBT データを連結する必要があります。



*ISBT 128 を有効にする
(1)



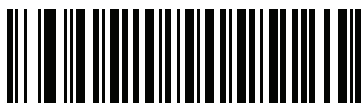
ISBT 128 を無効にする
(0)

ISBT の連結

パラメータ番号 577

ISBT コード タイプのペアの連結のためのオプションを選択します。

- 「**ISBT 連結を無効にする**」を選択した場合、検出された ISBT コードは連結されません。
- 「**ISBT 連結を有効にする**」を選択した場合、ISBT コードを読み取って連結するには、ISBT コードが 2 つ以上必要です。スキャナは 1 つの ISBT シンボルを読み取りません。
- 「**ISBT 連結を自動識別する**」を選択すると、スキャナでは ISBT コードのペアが直ちに読み取られ、連結されます。ISBT シンボルが 1 つしかない場合、[4-29 ページの「ISBT 連結の読み取り繰返回数」](#)で設定した回数分シンボルを読み取ってから、そのデータを転送して、ほかに ISBT シンボルがないことを確認します。



ISBT 連結を無効にする
(0)



ISBT 連結を有効にする
(1)



*ISBT 連結を自動識別する
(2)

ISBT テーブルのチェック

パラメータ番号 578

ISBT の仕様には、一般的にペアで使用される ISBT バーコードのいくつかのタイプがリストされたテーブルが含まれています。「ISBT の連結」で「有効」に設定した場合は、「ISBT テーブルのチェック」を有効にして、このテーブル内にあるペアのみを連結します。ISBT コードの他のタイプは連結されません。



*ISBT テーブルのチェックを有効にする
(1)



ISBT テーブルのチェックを無効にする
(0)

ISBT 連結の読み取り繰返回数

パラメータ番号 223

「ISBT の連結」を「自動識別」に設定した場合は、このパラメータを使用して、ISBT シンボルの読み取り回数を設定します。この回数に達すると、ほかにシンボルが存在しないと判断されます。

この回数を設定するには、以下のバーコードをスキャンし、付録 F「数値バーコード」から 2 つの数字 (2 ~ 20) をスキャンします。1 桁の数字には、先頭にゼロを入力します。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、F-2 ページの「キャンセル」をスキャンします。デフォルトは 10 です。



ISBT 連結の読み取り繰返回数

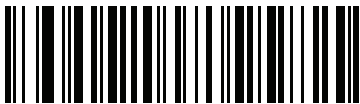
Code 128 セキュリティ レベル

パラメータ番号 751

Code 128 バーコードでは、Code 128 の読み取り桁数が「任意長」に設定されている場合は特に、読み取りミスが発生する場合があります。スキャナでは、Code 128 バーコードに対して 4 種類のセキュリティ レベルを設定できます。セキュリティ レベルとスキャナの読み取り速度は反比例します。セキュリティ レベルが高いほど、スキャナの読み取り速度は遅くなるため、必要なレベルを選択してください。

- **Code 128 セキュリティ レベル 0:** この設定により、スキャナはその性能を最大限に発揮できる状態で動作しつつ、ほとんどの規格内のバーコードを読み取るのに十分な読み取り精度を確保できます。
- **Code 128 セキュリティ レベル 1:** バーコードはデコード前に 2 回正常に読み取りが行われ、一定の読み取り精度要件を満たす必要があります。これはデフォルト設定です。ほとんどの読み取りミスを除去します。
- **Code 128 セキュリティ レベル 2:** セキュリティ レベル 1 で読み取りミスを除去できない場合に、このオプションを選択してバーコードの読み取り精度要件を高めます。
- **Code 128 セキュリティ レベル 3:** セキュリティ レベル 2 を選択しても読み取りミスを除去できない場合は、このセキュリティ レベルを選択して最高の読み取り精度要件を適用します。バーコードはデコード前に 3 回正常に読み取りが行われる必要があります。

✓ **注** このオプションは、規格を大きく外れたバーコードの読み取りミスに対する非常手段として選択してください。このセキュリティ レベルを選択すると、スキャナの読み取り能力を大きく損ないます。このセキュリティ レベルが必要な場合は、バーコードの品質を上げるようにしてください。



Code 128 セキュリティ レベル 0
(0)



*Code 128 セキュリティ レベル 1
(1)



Code 128 セキュリティ レベル 2
(2)



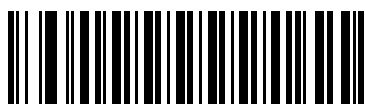
Code 128 セキュリティ レベル 3
(3)

Code 39

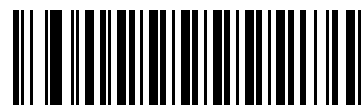
Code 39 を有効/無効にする

パラメータ番号 0

Code 39 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



*Code 39 を有効にする
(1)

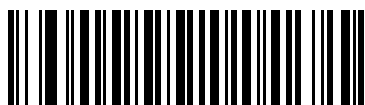


Code 39 を無効にする
(0)

Trioptic Code 39 を有効/無効にする

パラメータ番号 13

Trioptic Code 39 とは、Code 39 のバリエーションで、コンピュータのテープ カートリッジでのマーキングに使用されます。Trioptic Code 39 シンボルには、常に 6 文字が含まれます。Trioptic Code 39 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Trioptic Code 39 を有効にする
(1)



*Trioptic Code 39 を無効にする
(0)

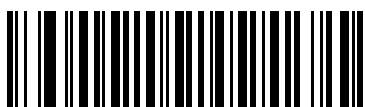
✓ 注 Trioptic Code 39 と Code 39 Full ASCII を同時に有効にすることはできません。

Code 39 を Code 32 に変換

パラメータ番号 86

Code 32 はイタリアの製薬業界で使用される Code 39 のバリエーションです。Code 39 を Code 32 に変換するかしないかを設定するには、以下の該当するバーコードをスキャンします。

✓ **注** このパラメータを設定するには、Code 39 を有効にしておく必要があります。



Code 39 から Code 32 への変換を有効にする
(1)



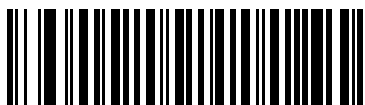
*Code 39 から Code 32 への変換を無効にする
(0)

Code 32 プリフィックス

パラメータ番号 231

プリフィックス文字「A」をすべての Code 32 バーコードに追加するかしないかを設定するには、以下の該当するバーコードをスキャンします。

✓ **注** このパラメータを設定するには、Code 39 から Code 32 への変換を有効にしておく必要があります。



Code 32 プリフィックスを有効にする
(1)



*Code 32 プリフィックスを無効にする
(0)

Code 39 の読み取り桁数を設定する

パラメータ番号 18、19

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、キャラクタ数 (人間が読み取れるキャラクタの数) を参照します。Code 39 の読み取り桁数を、任意長、1 または 2 種類の読み取り桁数、または指定範囲内の読み取り桁数に設定します。Code 39 Full ASCII が有効な場合、推奨するオプションは「指定範囲内」または「任意長」です。デフォルトは 1 ～ 55 です。

✓ **注** 異なるバーコード タイプの読み取り桁数を設定するとき、1 桁の数字の先頭にはゼロを入力します。

- **1 種類の読み取り桁数** - 読み取り桁数が 1 種類の Code 39 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、14 文字の Code 39 シンボルだけを読み取るには、「**Code 39 - 1 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、1、4 をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 選択した 2 種類の読み取り桁数のいずれかを含む Code 39 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Code 39 シンボルだけを読み取るには、「**Code 39 - 2 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、0、2、1、4 をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数のコードを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、4 ～ 12 桁の範囲を指定する場合は、「**Code 39 - 指定範囲内**」を選択し、次に 0、4、1、2 をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **任意長** - スキャナで許容される任意の文字数の Code 39 シンボルを読み取ります。



Code 39 - 1 種類の読み取り桁数



Code 39 - 2 種類の読み取り桁数



Code 39 - 指定範囲内

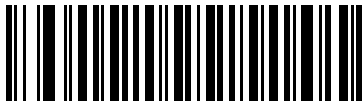


Code 39 - 任意長

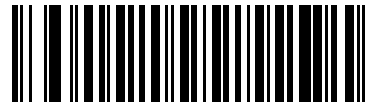
Code 39 チェック デジットの確認

パラメータ番号 48

すべての Code 39 シンボルの整合性を確認し、データが指定したチェック デジット アルゴリズムに準拠していることを検証するには、この機能を有効にします。modulo 43 チェック デジットを含む Code 39 シンボルのみが読み取られます。Code 39 シンボルに modulo 43 チェック デジットが含まれている場合は、この機能を有効にします。



Code 39 チェック デジットを有効にする
(1)

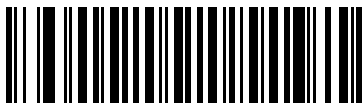


*Code 39 チェック デジットを無効にする
(0)

Code 39 チェック デジットの転送

パラメータ番号 43

以下のバーコードをスキャンし、Code 39 データをチェック デジット付きまたはなしで転送します。



Code 39 チェック デジットを転送する (有効)
(1)



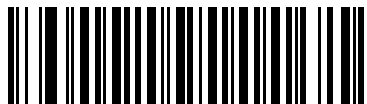
*Code 39 チェック デジットを転送しない (無効)
(0)

✓ **注** このパラメータの動作を有効にするには、「Code 39 チェック デジットの確認」を有効にする必要があります。

Code 39 Full ASCII 変換

パラメータ番号 17

Code 39 Full ASCII とは、Code 39 のバリエーションで、キャラクタをペアにして Full ASCII キャラクタ セットを読み取ります。Code 39 Full ASCII を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Code 39 Full ASCII を有効にする
(1)



*Code 39 Full ASCII を無効にする
(0)

✓ **注** Trioptic Code 39 と Code 39 Full ASCII を同時に有効にすることはできません。

Code 39 セキュリティ レベル

パラメータ番号 750

スキャナでは、Code 39 バーコードに対して 4 種類のセキュリティ レベルを設定できます。セキュリティ レベルとスキャナの読み取り速度は反比例します。セキュリティ レベルが高いほど、スキャナの読み取り速度は遅くなるため、必要なレベルを選択してください。

- **Code 39 セキュリティ レベル 0:** この設定により、スキャナはその性能を最大限に発揮できる状態で動作しつつ、ほとんどの規格内のバーコードを読み取るのに十分な読み取り精度を確保できます。
- **Code 39 セキュリティ レベル 1:** これはデフォルト設定です。ほとんどの読み取りミスを除きます。
- **Code 39 セキュリティ レベル 2:** セキュリティ レベル 1 で読み取りミスを除去できない場合に、このオプションを選択してバーコードの読み取り精度要件を高めます。
- **Code 39 セキュリティ レベル 3:** セキュリティ レベル 2 を選択しても読み取りミスを除去できない場合は、このセキュリティ レベルを選択して最高の読み取り精度要件を適用します。

✓ **注** このオプションは、規格を大きく外れたバーコードの読み取りミスに対する非常手段として選択してください。このセキュリティ レベルを選択すると、スキャナの読み取り能力を大きく損ないます。このセキュリティ レベルが必要な場合は、バーコードの品質を上げるようにしてください。



Code 39 セキュリティ レベル 0
(0)



*Code 39 セキュリティ レベル 1
(1)



Code 39 セキュリティ レベル 2
(2)



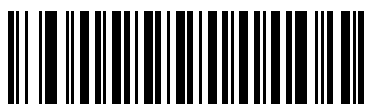
Code 39 セキュリティ レベル 3
(3)

Code 93

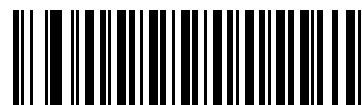
Code 93 を有効/無効にする

パラメータ番号 9

Code 93 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



*Code 93 を有効にする
(1)



Code 93 を無効にする
(0)

Code 93 の読み取り桁数を設定する

パラメータ番号 26、27

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、キャラクタ数 (人間が読み取れるキャラクタの数) を参照します。Code 93 の読み取り桁数を、任意長、1 または 2 種類の読み取り桁数、または指定範囲内の読み取り桁数に設定します。デフォルトは 1 ~ 55 です。

- **1 種類の読み取り桁数** - 読み取り桁数が 1 種類の Code 93 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、14 文字の Code 93 シンボルだけを読み取るには、「**Code 93 - 1 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、**1、4** をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 選択した 2 種類の読み取り桁数のいずれかを含む Code 93 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Code 93 シンボルだけを読み取るには、「**Code 93 - 2 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、**0、2、1、4** をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数のコードを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の範囲を指定する場合は、「**Code 93 - 指定範囲内**」を選択し、次に **0、4、1、2** をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **任意長** - スキャナで許容される任意の文字数の Code 39 シンボルを読み取ります。

Code 93 の読み取り桁数を設定する (続き)



Code 93 - 1 種類の読み取り桁数



Code 93 - 2 種類の読み取り桁数



Code 93 - 指定範囲内



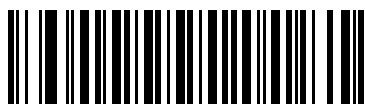
Code 93 - 任意長

Code 11

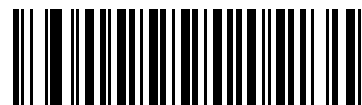
Code 11

パラメータ番号 10

Code 11 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Code 11 を有効にする
(1)



*Code 11 を無効にする
(0)

Code 11 の読み取り桁数を設定する

パラメータ番号 28、29

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、キャラクタ数 (人間が読み取れるキャラクタの数) を参照します。Code 11 の読み取り桁数を、任意長、1 または 2 種類の読み取り桁数、または指定範囲内の読み取り桁数に設定します。デフォルトは 4 ~ 55 です。

- **1 種類の読み取り桁数** - 読み取り桁数が 1 種類の Code 11 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、14 文字の Code 11 シンボルだけを読み取るには、「**Code 11 - 1 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、**1、4** をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 選択した 2 種類の読み取り桁数のいずれかを含む Code 11 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Code 11 シンボルだけを読み取るには、「**Code 11 - 2 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、**0、2、1、4** をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数のコードを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の範囲を指定する場合は、「**Code 11 - 指定範囲内**」を選択し、次に **0、4、1、2** をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **任意長** - スキャナで許容される任意の文字数の Code 11 シンボルを読み取ります。

Code 11 の読み取り桁数を設定する (続き)



Code 11 - 1 種類の読み取り桁数



Code 11 - 2 種類の読み取り桁数



Code 11 - 指定範囲内



Code 11 - 任意長

Code 11 チェック デジットの確認

パラメータ番号 52

この機能を使用すると、スキャナがすべての Code 11 シンボルの整合性をチェックして、データが指定されたチェック デジット アルゴリズムに適合しているかどうかを確認します。これにより、読み取られた Code 11 バーコードのチェック デジット メカニズムが選択されます。このオプションは、1 つのチェック デジットの確認、2 つのチェック デジットの確認、または機能を無効にする場合に使用されます。

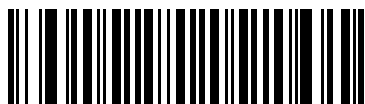
この機能を有効にするには、Code 11 シンボルで読み取ったチェック デジットの数に一致する下記のバーコードをスキャンします。



*無効
(0)



1 つのチェック デジット
(1)

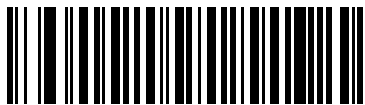


2 つのチェック デジット
(2)

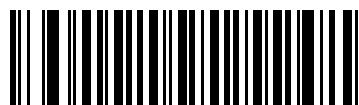
Code 11 チェック デジットを転送

パラメータ番号 47

この機能は、Code 11 のチェック デジットの転送を許可するかどうかを選択します。



Code 11 チェック デジットを転送 (有効)
(1)



*Code 11 チェック デジットを転送しない (無効)
(0)



注

このパラメータの動作を有効にするには、「Code 11 チェック デジットの確認」を有効にする必要があります。

Interleaved 2 of 5 (ITF)

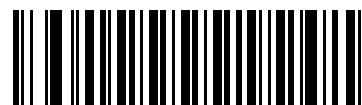
Interleaved 2 of 5 を有効/無効にする

パラメータ番号 6

Interleaved 2 of 5 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンし、Interleaved 2 of 5 の読み取り桁数を次のページから選択します。



*Interleaved 2 of 5 を有効にする
(1)



Interleaved 2 of 5 を無効にする
(0)

Interleaved 2 of 5 の読み取り桁数設定

パラメータ番号 22、23

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、キャラクタ数 (人間が読み取れるキャラクタの数) を参照します。Interleaved 2 of 5 の読み取り桁数を、任意長、1 または 2 種類の読み取り桁数、または指定範囲内の読み取り桁数に設定します。Interleaved 2 of 5 の読み取り桁数の範囲は、0 ~ 55 桁です。デフォルトは 6 ~ 55 です。

- **1 種類の読み取り桁数** - 読み取り桁数が 1 種類の Interleaved 2 of 5 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、14 文字の Interleaved 2 of 5 シンボルだけを読み取るには、「**Interleaved 2 of 5 - 1 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、1、4 をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 選択した 2 種類の読み取り桁数のいずれかを含む Interleaved 2 of 5 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Interleaved 2 of 5 シンボルだけを読み取るには、「**Interleaved 2 of 5 - 2 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、0、2、1、4 をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数のコードを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の範囲を指定する場合は、「**Interleaved 2 of 5 - 指定範囲内**」を選択し、次に 0、4、1、2 をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。

- **任意長** - スキャナで許容される任意の文字数の Interleaved 2 of 5 シンボルを読み取ります。

✓ **注** Interleaved 2 of 5 のシンボル体系上、コードの一部だけ走査したスキャン ラインでも完全なスキャンとして読み取られる可能性があります。バーコードに実際にエンコードされているデータよりも少ないデータしか読み取れません。これを防ぐには、指定の読み取り桁数 (「Interleaved 2 of 5 - 1 種類の読み取り桁数」または「Interleaved 2 of 5 - 2 種類の読み取り桁数」) を Interleaved 2 of 5 アプリケーションに対して選択します。

Interleaved 2 of 5 の読み取り桁数設定 (続き)



Interleaved 2 of 5 - 1 種類の読み取り桁数



Interleaved 2 of 5 - 2 種類の読み取り桁数



Interleaved 2 of 5 - 指定範囲内



Interleaved 2 of 5 - 任意長

Interleaved 2 of 5 チェック デジットの確認

パラメータ番号 49

すべての Interleaved 2 of 5 シンボルの整合性を確認し、データが Uniform Symbology Specification (USS)、または Optical Product Code Council (OPCC) チェック デジット アルゴリズムに準拠していることを検証するには、この機能を有効にします。



* 無効
(0)



USS チェック デジット
(1)

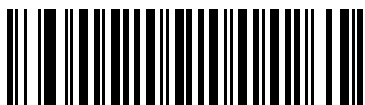


OPCC チェック デジット
(2)

Interleaved 2 of 5 チェック デジットを転送する

パラメータ番号 44

以下の該当するバーコードをスキャンし、Interleaved 2 of 5 データをチェック デジット付きまたはなしで転送します。



Interleaved 2 of 5 チェック デジットを転送する (有効)
(1)

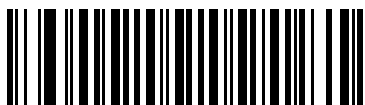


*Interleaved 2 of 5 チェック デジットを転送しない
(無効)
(0)

Interleaved 2 of 5 を EAN/JAN-13 に変換する

パラメータ番号 82

14 文字の Interleaved 2 of 5 コードを EAN-13 に変換し、EAN-13 としてホストに転送するには、このパラメータを有効にします。そのためには、Interleaved 2 of 5 コードを有効にし、コードに先頭のゼロと有効な EAN-13 チェック デジットを付ける必要があります。



Interleaved 2 of 5 を EAN-13 に変換する (有効)
(1)



*Interleaved 2 of 5 を EAN-13 に変換しない (無効)
(0)

12 of 5 のセキュリティ レベル

パラメータ番号 1121

Interleaved 2 of 5 バーコードでは、読み取り桁数が「任意長」に設定されている場合は特に、読み取りミスが発生する場合があります。スキャナでは、Interleaved 2 of 5 バーコードに対して 4 種類のセキュリティ レベルを設定できます。セキュリティ レベルとスキャナの読み取り速度は反比例します。セキュリティ レベルが高いほど、スキャナの読み取り速度は遅くなるため、必要なレベルを選択してください。

- **12 of 5 セキュリティ レベル 0:** この設定により、スキャナはその性能を最大限に発揮できる状態で動作しつつ、ほとんどの規格内のバーコードを読み取るのに十分な読み取り精度を確保できます。
- **12 of 5 セキュリティ レベル 1:** バーコードはデコード前に 2 回正常に読み取りが行われ、一定の読み取り精度要件を満たす必要があります。これはデフォルト設定です。ほとんどの読み取りミスを除きます。
- **12 of 5 セキュリティ レベル 2:** セキュリティ レベル 1 で読み取りミスを除くできない場合に、このオプションを選択してバーコードの読み取り精度要件を高めます。
- **12 of 5 セキュリティ レベル 3:** セキュリティ レベル 2 を選択してもまだ読み取りミスを除くできないときにこのレベルを選択します。最も高い読み取り精度要件が適用されます。バーコードはデコード前に 3 回正常に読み取りが行われる必要があります。

✓ **注** このオプションは、規格を大きく外れたバーコードの読み取りミスに対する非常手段として選択してください。このセキュリティ レベルを選択すると、スキャナの読み取り能力を大きく損ないます。このセキュリティ レベルが必要な場合は、バーコードの品質を上げるようにしてください。



12 of 5 セキュリティ レベル 0
(0)



*12 of 5 セキュリティ レベル 1
(1)



12 of 5 セキュリティ レベル 2
(2)



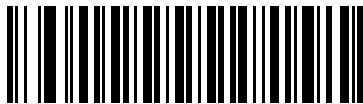
12 of 5 セキュリティ レベル 3
(3)

Discrete 2 of 5 (DTF)

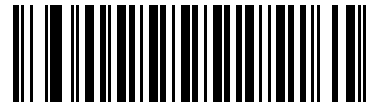
Discrete 2 of 5 を有効/無効にする

パラメータ番号 5

Discrete 2 of 5 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Discrete 2 of 5 を有効にする
(1)



*Discrete 2 of 5 を無効にする
(0)

Discrete 2 of 5 の読み取り桁数設定

パラメータ番号 20、21

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、キャラクタ数 (人間が読み取れるキャラクタの数) を参照します。Discrete 2 of 5 の読み取り桁数を、任意長、1 または 2 種類の読み取り桁数、または指定範囲内の読み取り桁数に設定します。Discrete 2 of 5 読み取り桁数の範囲は、1 ~ 55 です。

- **1 種類の読み取り桁数** - 1 種類の選択した読み取り桁数のコードだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、14 文字の Discrete 2 of 5 シンボルだけを読み取るには、「**Discrete 2 of 5 - 1 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、1、4 をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 選択した 2 種類の読み取り桁数のいずれかを含む Discrete 2 of 5 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Discrete 2 of 5 シンボルだけを読み取るには、「**Discrete 2 of 5 - 2 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、0、2、1、4 をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数のコードを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の範囲を指定する場合は、「**Discrete 2 of 5 - 指定範囲内**」を選択し、次に 0、4、1、2 をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **任意長** - スキャナで許容される任意の文字数の Discrete 2 of 5 シンボルを読み取ります。

✓ **注** Discrete 2 of 5 のシンボル体系上、コードの一部だけ走査したスキャン ラインでも完全なスキャンとして読み取られる可能性があります。バーコードに実際にエンコードされているデータよりも少ないデータしか読み取れません。これを防ぐには、指定の読み取り桁数 (「**Discrete 2 of 5 - 1 種類の読み取り桁数**」または「**Discrete 2 of 5 - 2 種類の読み取り桁数**」) を Discrete 2 of 5 アプリケーションに対して選択します。

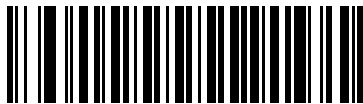
Discrete 2 of 5 の読み取り桁数設定 (続き)**Discrete 2 of 5 - 1 種類の読み取り桁数****Discrete 2 of 5 - 2 種類の読み取り桁数****Discrete 2 of 5 - 指定範囲内****Discrete 2 of 5 - 任意長**

Codabar (NW - 7)

Codabar を有効/無効にする

パラメータ番号 7

Codabar を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



*Codabar を有効にする
(1)



Codabar を無効にする
(0)

Codabar の読み取り桁数設定

パラメータ番号 24、25

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、キャラクタ数 (人間が読み取れるキャラクタの数) を参照します。Codabar の読み取り桁数を、1 または 2 種類の読み取り桁数、または指定範囲内の読み取り桁数に設定します。デフォルトは 4 ~ 55 です。

- **1 種類の読み取り桁数** - 読み取り桁数が 1 種類の Codabar シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、14 文字の Codabar (NW-7) シンボルだけを読み取るには、「**Codabar - 1 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、**1、4** をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 選択した 2 種類の読み取り桁数のいずれかを含む Codabar シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Codabar (NW-7) シンボルだけを読み取るには、「**Codabar - 2 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、**0、2、1、4** をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数のコードを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の文字を含む Codabar シンボルを読み取るには、まず、「**Codabar - 指定範囲内**」をスキャンし、次に **0、4、1、2** をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **任意長** - スキャナで許容される任意の文字数の Codabar シンボルを読み取ります。

Codabar の読み取り桁数設定 (続き)**Codabar - 1 種類の読み取り桁数****Codabar - 2 種類の読み取り桁数****Codabar - 指定範囲内****Codabar - 任意長**

CLSI 編集

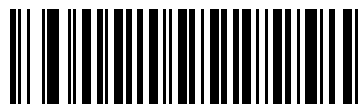
パラメータ番号 54

スタート キャラクタとストップ キャラクタを取り除き、14 文字の Codabar シンボル中、1 番目、5 番目、および 10 番目のキャラクタの後にスペースを挿入します。ホスト システムでこのデータ フォーマットが必要な場合にこの機能を有効にします。

✓ **注** シンボルの長さには、スタート キャラクタおよびストップ キャラクタは含まれていません。



CLSI 編集を有効にする
(1)



*CLSI 編集を無効にする
(0)

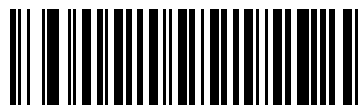
NOTIS 編集

パラメータ番号 55

読み取られた Codabar シンボルからスタート キャラクタとストップ キャラクタを取り除きます。ホスト システムでこのデータ フォーマットが必要な場合にこの機能を有効にします。



NOTIS 編集を有効にする
(1)



*NOTIS 編集を無効にする
(0)

Codabar の大文字または小文字のスタート/ストップ キャラクタの検出**パラメータ番号 855**

Codabar の大文字または小文字のスタート/ストップ キャラクタを検出するかどうかを選択します。



小文字
(1)



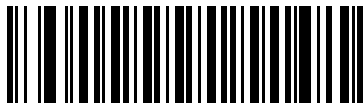
* 大文字
(0)

MSI

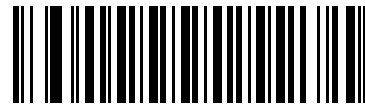
MSI を有効/無効にする

パラメータ番号 11

MSI を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



MSI を有効にする
(1)



*MSI を無効にする
(0)

MSI の読み取り桁数設定

パラメータ番号 30、31

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、キャラクタ数 (人間が読み取れるキャラクタの数) を参照します。MSI の読み取り桁数を、1 または 2 種類の読み取り桁数、または指定範囲内の読み取り桁数に設定します。デフォルトは 4 ~ 55 です。

- **1 種類の読み取り桁数** - 読み取り桁数が 1 種類の MSI シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、14 文字の MSI シンボルだけを読み取るには、「**MSI - 1 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、**1、4** をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 選択した 2 種類の読み取り桁数のいずれかを含む MSI シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の MSI シンボルだけを読み取るには、「**MSI - 2 種類の読み取り桁数**」を選択し、次に、**0、2、1、4** をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数のコードを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の文字を含む MSI シンボルを読み取るには、まず「**MSI - 指定範囲内**」をスキャンし、次に **0、4、1、2** をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **任意長** - スキャナで許容される任意の文字数の MSI シンボルを読み取ります。

MSI の読み取り桁数設定 (続き)



注

MSI のシンボル体系上、コードの一部だけ走査したスキャン ラインでも完全なスキャンとして読み取られる可能性があります。バーコードに実際にエンコードされているデータよりも少ないデータしか読み取れません。これを防ぐには、指定の読み取り桁数 (「MSI - 1 種類の読み取り桁数」 または 「MSI - 2 種類の読み取り桁数」) を MSI アプリケーションに対して選択します。



MSI - 1 種類の読み取り桁数



MSI - 2 種類の読み取り桁数



MSI - 指定範囲内



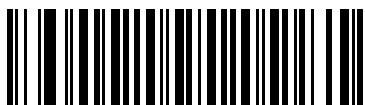
MSI - 任意長

MSI チェック デジット

パラメータ番号 50

MSI シンボルでは、1 つのチェック デジットが必須であり、常にスキャナによって確認されます。2 番目のチェック デジットは任意です。MSI コードに 2 つのチェック デジットが含まれている場合、「**2 つの MSI チェック デジット**」バーコードをスキャンして 2 番目のチェック デジットを確認できるようにします。

2 番目のデジットのアルゴリズムの選択については、[4-57 ページの「MSI チェック デジットのアルゴリズム」](#)を参照してください。



*1 つの MSI チェック デジット
(0)

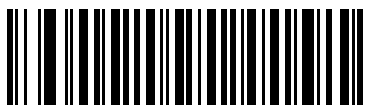


2 つの MSI チェック デジット
(1)

MSI チェック デジットの転送

パラメータ番号 46

以下のバーコードをスキャンし、MSI データをチェック デジット付きまたはなしで転送します。



MSI チェック デジットを転送 (有効)
(1)

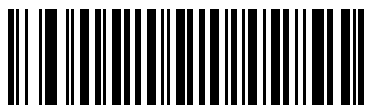


*MSI チェック デジットを転送しない (無効)
(0)

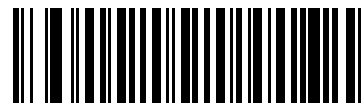
MSI チェック デジットのアルゴリズム

パラメータ番号 51

2 番目の MSI チェック デジットの確認には 2 つのアルゴリズムが選択可能です。チェック デジットの読み取りに使用するアルゴリズムに対応する下記のバーコードを選択します。



**MOD 10/MOD 11
(0)**



***MOD 10/MOD 10
(1)**

Chinese 2 of 5

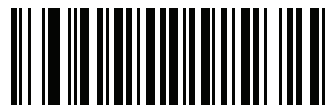
Chinese 2 of 5 を有効 / 無効にする

パラメータ番号 408

Chinese 2 of 5 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Chinese 2 of 5 を有効にする
(1)



*Chinese 2 of 5 を無効にする
(0)

Matrix 2 of 5

Matrix 2 of 5 を有効/無効にする

パラメータ番号 618

Matrix 2 of 5 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Matrix 2 of 5 を有効にする
(1)



*Matrix 2 of 5 を無効にする
(0)

Matrix 2 of 5 の読み取り桁数設定

パラメータ番号 619、620

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、キャラクタ数 (人間が読み取るキャラクタの数) を参照します。Matrix 2 of 5 の読み取り桁数を、任意長、1 または 2 種類の読み取り桁数、または指定範囲内の読み取り桁数に設定します。デフォルトは 4 ~ 55 です。

- **1 種類の読み取り桁数** - 1 種類の選択した読み取り桁数のコードだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、14 文字の Matrix 2 of 5 シンボルだけを読み取るには、「Matrix 2 of 5 - 1 種類の読み取り桁数」を選択し、次に、1、4 をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 選択した 2 種類の読み取り桁数のいずれかを含む Matrix 2 of 5 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Matrix 2 of 5 シンボルだけを読み取るには、「Matrix 2 of 5 - 2 種類の読み取り桁数」を選択し、次に、0、2、1、4 をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数のコードを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 F「数値バーコード」](#) から選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の範囲を指定する場合は、まず「Matrix 2 of 5 - 指定範囲内」をスキャンし、次に 0、4、1、2 をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [F-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **任意長** - スキャナで許容される任意の文字数の Matrix 2 of 5 シンボルを読み取ります。

Matrix 2 of 5 の読み取り桁数設定 (続き)



*Matrix 2 of 5 - 1 種類の読み取り桁数



Matrix 2 of 5 - 2 種類の読み取り桁数



Matrix 2 of 5 - 指定範囲内



Matrix 2 of 5 - 任意長

Matrix 2 of 5 チェック デジット

パラメータ番号 622

チェック デジットとは、シンボルの最後のキャラクタで、データの整合性を検証するために使用されます。以下の該当するバーコードをスキャンし、バーコード データを Matrix 2 of 5 チェック デジット付きまたはなしで転送します。



Matrix 2 of 5 チェック デジットを有効にする
(1)



*Matrix 2 of 5 チェック デジットを無効にする
(0)

Matrix 2 of 5 チェック デジットを転送

パラメータ番号 623

以下の該当するバーコードをスキャンし、Matrix 2 of 5 データをチェック デジット付きまたはなしで転送します。



Matrix 2 of 5 チェック デジットを転送
(1)



*Matrix 2 of 5 チェック デジットを転送しない
(0)

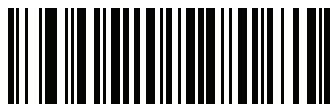
Korean 3 of 5

Korean 3 of 5 を有効/無効にする

パラメータ番号 581

Korean 3 of 5 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。

✓ 注 Korean 3 of 5 の読み取り桁数は 6 に固定されています。



Korean 3 of 5 を有効にする
(1)



*Korean 3 of 5 を無効にする
(0)

反転 1D

パラメータ番号 586

このパラメータは、反転 1D スキャナ設定を行います。以下のオプションがあります：

- 標準のみ - 標準 1D バーコードのみが読み取られます。
- 反転のみ - 反転 1D バーコードのみが読み取られます。
- 反転の自動検出 - 標準と反転の両方の 1D バーコードが読み取られます。



* 標準
(0)



反転のみ
(1)



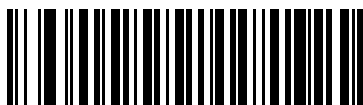
反転の自動検出
(2)

GS1 DataBar

GS1 DataBar のバリエーションは DataBar-14、DataBar Expanded、および DataBar Limited です。Limited および Expanded バージョンには、スタック化バリエーションがあります。以下の該当するバーコードをスキャンして、各種 GS1 DataBar を有効または無効にします。

GS1 DataBar-14

パラメータ番号 338



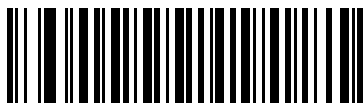
*GS1 DataBar-14 を有効にする
(1)



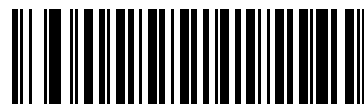
GS1 DataBar-14 を無効にする
(0)

GS1 DataBar Limited

パラメータ番号 339



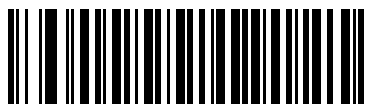
*GS1 DataBar Limited を有効にする
(1)



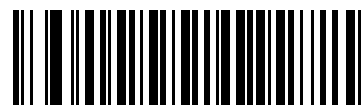
GS1 DataBar Limited を無効にする
(0)

GS1 DataBar Expanded

パラメータ番号 340



*GS1 DataBar Expanded を有効にする
(1)



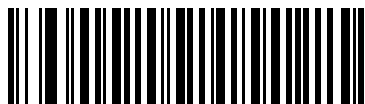
GS1 DataBar Expanded を無効にする
(0)

GS1 DataBar を UPC/EAN に変換

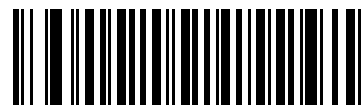
パラメータ番号 397

このパラメータは、Composite シンボルの一部として読み取られない GS1 DataBar-14 と GS1 DataBar Limited シンボルだけに適用されます。単独のゼロを最初の桁としてエンコードする DataBar-14 および DataBar Limited シンボルから先頭の「010」を取り除き、バーコードを EAN-13 として転送するには、このパラメータを有効にします。

2 つ以上のゼロで始まるが 6 つのゼロはないバーコードの場合、このパラメータにより先頭の「0100」が取り除かれ、バーコードは UPC-A としてレポートされます。システム キャラクタおよびカントリー コードを転送する UPC-A プリアンブル パラメータは、変換されたバーコードに適用されます。システム キャラクタとチェック デジットは取り除かれません。



GS1 DataBar から UPC/EAN への変換を有効にする
(1)



*GS1 DataBar から UPC/EAN への変換を無効にする
(0)

GS1 DataBar Limited のセキュリティ レベル

パラメータ番号 728

スキャナは、GS1 DataBar Limited バーコードに対して 4 種類のセキュリティ レベルを設定できます。セキュリティ レベルとスキャナの読み取り速度は反比例します。セキュリティ レベルを上げると読み取り速度が低下するので、必要なセキュリティ レベルだけを選択してください。

- レベル 1 – クリア マージンは不要。この設定は元の GS1 標準に適合しますが、「9」および「7」で始まる一部の UPC シンボルのスキャンでは、DataBar Limited バーコードの読み取りで誤りが発生する可能性があります。
- レベル 2 – 自動リスク検出。このセキュリティ レベルでは、一部の UPC シンボルのスキャンで DataBar Limited バーコードの読み取りに誤りが発生する可能性があります。スキャナは、デフォルトでレベル 3 で読み取ります。それ以外はレベル 1 で読み取ります。
- レベル 3 – セキュリティ レベルは、5 倍の末尾クリア マージンを必要とする、新たに提案された GS1 標準を反映します。
- レベル 4 – セキュリティ レベルが、GS1 で必要とされる標準以上に拡張されます。このセキュリティ レベルには、5 倍の先頭および末尾クリア マージンが必要とされます。



GS1 DataBar Limited のセキュリティ レベル 1
(1)



GS1 DataBar Limited のセキュリティ レベル 2
(2)



*GS1 DataBar Limited のセキュリティ レベル 3
(3)



GS1 DataBar Limited のセキュリティ レベル 4
(4)

Composite

Composite CC-C

パラメータ番号 341

タイプ CC-C の Composite バーコードを有効または無効にするには、以下のバーコードをスキャンします。



CC-C を有効にする
(1)



*CC-C を無効にする
(0)

Composite CC-A/B

パラメータ番号 342

タイプ CC-A/B の Composite バーコードを有効または無効にするには、以下のバーコードをスキャンします。



CC-A/B を有効にする
(1)

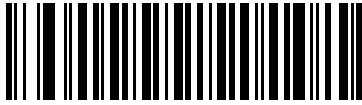


*CC-A/B を無効にする
(0)

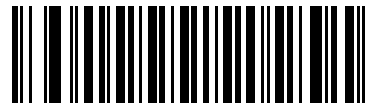
Composite TLC-39

パラメータ番号 371

タイプ TLC-39 の Composite バーコードを有効または無効にするには、以下のバーコードをスキャンします。



TLC39 を有効にする
(1)



*TLC39 を無効にする
(0)

UPC Composite モード

パラメータ番号 344

転送時に 1 つのシンボルであるかのようにするため、UPC シンボルと 2D シンボルをリンクするオプションを選択します。

- 2D シンボルが検出されたかどうかに関係なく UPC バーコードを転送するには、「**UPC をリンクしない**」を選択します。
- UPC バーコードと 2D 部分を転送するには、「**UPC を常にリンクする**」を選択します。2D がない場合、UPC バーコードは転送されません。
- 「**UPC Composites を自動識別する**」を選択した場合、スキャナは 2D 部分があるかどうかを判断し、存在する場合は 2D 部分とともに UPC を転送します。



*UPC をリンクしない
(0)



UPC を常にリンクする
(1)



UPC Composites を自動識別する
(2)

UCC/EAN Composite コードの GS1-128 エミュレーション モード

パラメータ番号 427

このモードを有効にするか無効にするかを選択します。



UCC/EAN Composite コードの
GS1-128 エミュレーション モードを有効にする
(1)



*UCC/EAN Composite コードの
GS1-128 エミュレーション モードを無効にする
(0)

郵便コード

US Postnet

パラメータ番号 89

US Postnet を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



US Postnet を有効にする
(1)



*US postnet を無効にする
(0)

US Planet

パラメータ番号 90

US Planet を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



US Planet を有効にする
(1)



*US Planet を無効にする
(0)

US Postal チェック デジットを転送

パラメータ番号 95

US Postnet と US Planet の両方を含む US Postal データをチェック デジット付きまたはなしで転送するか
どうかを選択します。



*US Postal チェック デジットを転送
(1)



US Postal チェック デジットを転送しない
(0)

UK Postal

パラメータ番号 91

UK Postal を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



UK Postal を有効にする
(1)



*UK Postal を無効にする
(0)

UK Postal チェック デジットを転送

パラメータ番号 96

UK Postal データをチェック デジット付きまたはなしで転送するかどうかを選択します。



*UK Postal チェック デジットを転送
(1)



UK Postal チェック デジットを転送しない
(0)

Japan Postal

パラメータ番号 290

Japan Postal を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Japan Postal を有効にする
(1)



*Japan Postal を無効にする
(0)

Australia Post

パラメータ番号 291

Australia Post を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードを選択します。



Australia Post を有効にする
(1)



*Australia Post を無効にする
(0)

Australia Post フォーマット

パラメータ番号 718

Australia Post フォーマットを選択するには、以下の該当するバーコードをスキャンします。

- 自動識別 (スマート モード) - N および C 符号化テーブルを使用してカスタマ情報フィールドのデコードを試行します。

✓ **注** エンコード データ フォーマットは、エンコードに使用される符号化テーブルを指定しないため、このオプションを使用すると、正しく読み取ることができない場合があります。

- 未処理フォーマット - 0 から 3 までの一連の数値で未処理のバー パターンを出力します。
- 英数字符号化 - C 符号化テーブルを使用してカスタマ情報フィールドをデコードします。
- 数値符号化 - N 符号化テーブルを使用してカスタマ情報フィールドをデコードします。

Australia Post の符号化テーブルの詳細については、『Australia Post Customer Barcoding Technical Specifications』(<http://www.auspost.com.au>) を参照してください。



* 自動識別
(0)



未処理フォーマット
(1)



英数字符号化
(2)



数値符号化
(3)

Netherlands KIX Code

パラメータ番号 326

Netherlands KIX Code を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Netherlands KIX Code を有効にする
(1)



*Netherlands KIX Code を無効にする
(0)

USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail

パラメータ番号 592

USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail を有効にする
(1)



*USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail を無効にする
(0)

UPU FICS Postal

パラメータ番号 611

UPU FICS Postal を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



UPU FICS Postal を有効にする
(1)



*UPU FICS Postal を無効にする
(0)

2D バーコード

PDF417 を有効/無効にする

パラメータ番号 15

PDF417 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



***PDF417 を有効にする
(1)**



**PDF417 を無効にする
(0)**

MicroPDF417 を有効/無効にする

パラメータ番号 227

MicroPDF417 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



**MicroPDF417 を有効にする
(1)**



***MicroPDF417 を無効にする
(0)**

Code 128 エミュレーション

パラメータ番号 123

特定の MicroPDF417 シンボルからデータを Code 128 として転送するには、このパラメータを有効にします。このパラメータが動作するには、[3-21 ページの「AIM コード ID キャラクタ \(1\)」](#)が選択されている必要があります。

これらの MicroPDF417 シンボルを次のいずれかのプリフィックスとともに転送するには、Code 128 エミュレーションを有効にします。

- JC1 最初のコード語が 903 ~ 905 の場合
- JC2 最初のコード語が 908 または 909 の場合
- JC0 最初のコード語が 910 または 911 の場合

これらの MicroPDF417 シンボルを次のいずれかのプリフィックスとともに転送するには、Code 128 エミュレーションを無効にします。

- JL3 最初のコード語が 903 ~ 905 の場合
- JL4 最初のコード語が 908 または 909 の場合
- JL5 最初のコード語が 910 または 911 の場合

Code 128 エミュレーションを有効または無効にするには、以下のバーコードをスキャンします。

- ✓ **注** リンクされた MicroPDF コード語 906、907、912、914、および 915 はサポートされません。代わりに GS1 Composites を使用します。



Code 128 エミュレーションを有効にする
(1)



*Code 128 エミュレーションを無効にする
(0)

Data Matrix

パラメータ番号 292

Data Matrix を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



***Data Matrix を有効にする
(1)**



**Data Matrix を無効にする
(0)**

Data Matrix 反転

パラメータ番号 588

このパラメータでは、Data Matrix 反転スキャナが設定されます。以下のオプションがあります：

- **標準のみ** - 標準 Data Matrix バーコードのみが読み取られます。
- **反転のみ** - 反転 Data Matrix バーコードのみが読み取られます。
- **反転の自動検出** - 標準と反転の両方の Data Matrix バーコードが読み取られます。



**標準
(0)**



**反転のみ
(1)**



*** 反転の自動検出
(2)**

ミラー イメージの読み取り (Data Matrix のみ)

パラメータ番号 537

ミラー イメージ Data Matrix バーコードを読み取るオプションを選択します。

- 常時 - ミラー イメージである Data Matrix バーコードのみを読み取ります。
- いつも読み取らない - ミラー イメージである Data Matrix バーコードを読み取りません。
- 自動 - ミラーされたものとされないもの、両方の Data Matrix バーコードを読み取ります。



いつも読み取らない
(0)



常時
(1)



* 自動
(2)

Maxicode

パラメータ番号 294

Maxicode を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Maxicode を有効にする
(1)



*Maxicode を無効にする
(0)

QR Code

パラメータ番号 293

QR Code を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



*QR Code を有効にする
(1)



QR Code を無効にする
(0)

QR 反転

パラメータ番号 587

このパラメータでは、QR 反転スキャナが設定されます。以下のオプションがあります：

- 標準のみ - 標準 QR バーコードのみが読み取られます。
- 反転のみ - 反転 QR バーコードのみが読み取られます。
- 反転の自動検出 - 標準と反転の両方の QR バーコードが読み取られます。



* 標準
(0)



反転のみ
(1)



反転の自動検出
(2)

MicroQR

パラメータ番号 573

MicroQR を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



*MicroQR を有効にする
(1)



MicroQR を無効にする
(0)

Aztec

パラメータ番号 574

Aztec を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



*Aztec を有効にする
(1)



Aztec を無効にする
(0)

Aztec 反転

パラメータ番号 589

このパラメータでは、Aztec 反転スキャナが設定されます。以下のオプションがあります：

- 標準のみ - 標準 Aztec バーコードのみが読み取られます。
- 反転のみ - 反転 Aztec バーコードのみが読み取られます。
- 反転の自動検出 - 標準と反転の両方の Aztec バーコードが読み取られます。



標準
(0)



反転のみ
(1)



* 反転の自動検出
(2)

Han Xin

パラメータ番号 1167

Han Xin を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Han Xin を有効にする
(1)



*Han Xin を無効にする
(0)

Han Xin 反転

パラメータ番号 1168

Han Xin 反転スキャナ設定を選択します。以下のオプションがあります。

- 標準のみ - 標準 Han Xin バーコードのみ読み取られます。
- 反転のみ - 反転 Han Xin バーコードのみ読み取られます。
- 反転の自動検出 - 標準と反転の両方の Han Xin バーコードが読み取られます。



* 標準
(0)



反転のみ
(1)



反転の自動検出
(2)

シンボル体系特有のセキュリティ レベル

リダンダンシー レベル

パラメータ番号 78

スキャナは、4 種類のリダンダンシー レベルを設定できます。バーコード品質の低下に応じて、高いレベルのリダンダンシー レベルを選択します。リダンダンシー レベルが上がれば、スキャナの読み取り速度は低下します。

バーコード品質に適したリダンダンシー レベルを選択します。

リダンダンシー レベル 1

次のコード タイプは、デコード前に 2 回正常に読み取りが行われる必要があります。

表 4-2 リダンダンシー レベル 1 のコード

コードタイプ	コード長
Codabar	8 文字以下
MSI	4 文字以下
Discrete 2 of 5	8 文字以下
Interleaved 2 of 5	8 文字以下

リダンダンシー レベル 2

次のコード タイプは、デコード前に 2 回正常に読み取りが行われる必要があります。

表 4-3 リダンダンシー レベル 2 のコード

コードタイプ	コード長
すべて	すべて

リダンダンシー レベル 3

次のコード タイプ以外は、デコード前に 2 回正常に読み取りが行われる必要があります。次のコードは、3 回読み取りが行われる必要があります。

表 4-4 リダンダンシー レベル 3 のコード

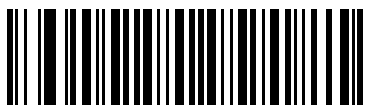
コードタイプ	コード長
MSI	4 文字以下
Discrete 2 of 5	8 文字以下
Interleaved 2 of 5	8 文字以下
Codabar	8 文字以下

リダンダンシー レベル 4

次のコード タイプは、デコード前に 3 回正常に読み取りが行われる必要があります。

表 4-5 リダンダンシー レベル 4 のコード

コード タイプ	コード長
すべて	すべて



* リダンダンシー レベル 1
(1)



リダンダンシー レベル 2
(2)



リダンダンシー レベル 3
(3)



リダンダンシー レベル 4
(4)

双方向リダンダンシー

パラメータ番号 67

このパラメータは、**リダンダンシー レベル**が有効になっているときだけ有効です。このパラメータを有効にすると、読み取りを行う前に、スキャナで両方向（順方向と逆方向）でバーコードを正常に読み取る必要があります。



双方向リダンダンシーを有効化
(1)



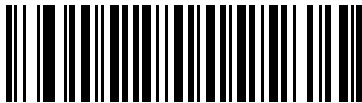
* 双方向リダンダンシーを無効化
(0)

セキュリティ レベル

パラメータ番号 77

スキャナは、Code 128 ファミリ、UPC/EAN、Code 93 を含むデルタ バーコードに対し、4 種類の読み取りセキュリティ レベルを設定できます。高いセキュリティ レベルを選択するほど、バーコード品質のレベルが低下します。セキュリティ レベルとスキャナの読み取り速度は反比例するため、指定されたアプリケーションに必要なセキュリティ レベルだけを選択してください。

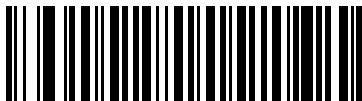
- **セキュリティ レベル 0:** この設定により、スキャナはその性能を最大限に発揮できる状態で動作しつつ、ほとんどの「規格内」のバーコードを読み取るのに十分な読み取り精度を確保できます。
- **セキュリティ レベル 1:** これはデフォルト設定です。ほとんどの読み取りミスを除きます。
- **セキュリティ レベル 2:** セキュリティ レベル 1 で読み取りミスを除くできないときにこのオプションを選択します。
- **セキュリティ レベル 3:** セキュリティ レベル 2 を選択してもまだ読み取りミスを除くできないときにこのレベルを選択します。このオプションを選択するのは読み取り間違いに対する非常手段であり、バーコードの規格外であることに注意してください。このセキュリティ レベルを選択すると、スキャナの読み取り能力を大きく損ないます。このセキュリティ レベルが必要な場合は、バーコードの品質を上げるようにしてください。



セキュリティ レベル 0
(0)



*セキュリティ レベル 1
(1)



セキュリティ レベル 2
(2)



セキュリティ レベル 3
(3)

キャラクタ間ギャップサイズ

パラメータ番号 381

Code 39 および Codabar シンボル体系にはキャラクタ間ギャップがありますが、通常は非常に小さいものです。バーコード印刷技術によっては、このギャップが、許容できる最大サイズより大きくなることもあり、その場合スキャナはシンボルを読み取れなくなります。このような規格外のバーコードを処理できるようにするには、以下の「**大きいキャラクタ間ギャップ**」パラメータを選択します。



*** 通常のキャラクタ間ギャップ
(6)**



**大きいキャラクタ間ギャップ
(10)**

第 5 章 123SCAN2

はじめに

123Scan² 生成プログラミング バーコードをスキャンして、CS4070 を設定できます。CS4070 は、USB ケーブルで 123Scan² と直接通信することはできません。また、123Scan² を使ってファームウェアを更新することもできません。

ファームウェアを更新する方法については、[1-8 ページの「スキャナ ファームウェアの更新」](#)を参照してください。

123Scan² の詳細については、<http://www.zebra.com/123Scan2> を参照してください。

第 6 章 アドバンスド データ フォーマットिंग

はじめに

アドバンスド データ フォーマットिंग (ADF) とは、データをホスト デバイスに送信する前にカスタマイズする手段です。ADF を使用し、要件に合わせてスキャン データを編集します。ADF ルールでスキャナをプログラムする、関連する一連のバーコードをスキャンして、ADF を実装します。

ADF ルールは永続的メモリに保存され、バッテリー交換を経ても保持されます。CS4070 はすべての ADF ルールをサポートしますが、**例外があります**。

- LED ルール、ビープ音ルール、一時停止の期間
- 非 ASCII キャラクタを含むルール。たとえば、**Alt {** を送信するルールを設定すると、ルールから削除されます。

詳細および ADF のプログラミング バーコードについては、『Advanced Data Formatting Programmer Guide』、製品番号 72E-69680-xx を参照してください。

第7章 メンテナンスおよび技術仕様

はじめに

この章では、スキャナ メンテナンスの提案と、トラブルシューティング、技術仕様を説明します。

メンテナンス

必要なメンテナンスは、スキャナ ウィンドウのクリーニングだけです。ウィンドウの汚れはスキャン精度に影響を与えます。

- ウィンドウに研磨剤などが付着しないようにしてください。
- 湿らせた布でほこりを拭き取ってください。
- アンモニア/水で湿らせたティッシュを使用してウィンドウを拭きます。
- ウィンドウに水やその他の洗剤を直接スプレーしないでください。

トラブルシューティング

表 7-1 トラブルシューティング

問題	考えられる原因	考えられる解決方法
イメージャは起動するが、バーコードが読み取れない。	スキャナが正しいバーコードタイプに対応するようにプログラムされていません。	スキャンしようとしているバーコードのタイプを読み取れるようプログラムされているかを確認します。
	バーコードを読み取れません。	印刷面に問題がないかバーコードを確認してください。同じ種類の他のバーコードをスキャンテストしてみてください。テストバーコードについては、 付録 E「サンプルバーコード」 を参照してください。
	バーコードがスキャナの読み取り範囲外です。	スキャナをバーコードに近付けるか、または離します。
バーコードをスキャンするとき、長いビープ音が 5 秒間鳴る。	メモリがいっぱいです。	バーコードデータをホストにダウンロードして、メモリをクリアしてください。
スキャナがバーコードを読み取らず、LED が黄色、赤色、緑色に点滅する。	スキャナをリセットする必要があります。	リセット ボタンを押します。ボタンの場所は、 1-1 ページの図 1-1 を参照してください。
		以下の「デフォルトの復元」バーコードをスキャンします。 
スキャナの LED が数秒間赤色に点灯する。	バッテリー残量が少なくなっています。	バッテリーを充電します。 1-4 ページの「バッテリーの充電」 を参照してください。
スキャナがフル充電されない。	パワード USB ではないハブで充電をしています。	スキャナをパワード USB ハブに接続します (最大 5V、500mA)。
Bluetooth LED が消灯する。	スキャナが Bluetooth ホストのエリア外にあります。	ホストに近づき、任意のキーを押してホストと再ペアリングします。
スキャナをホストに接続した後、スキャナドライブが見えない。	スキャナは、他のデバイスが使用しているドライブにマッピングされています。	Windows のマッピング ドライブ機能を使用して、スキャナドライブ文字を変更します。
プログラムが Broadcom スタックを HID デバイスに接続している。	Broadcom スタックのバージョンによっては、HID デバイスへの接続時に問題が発生する場合があります。	3-12 ページの「HID CoD をゼロに設定」 を参照してください。

✓ **注** 以上のチェックを実施した後も、デジタル スキャナで問題が発生する場合は、販売代理店までお問い合わせください。連絡先については、[xvi ページ](#)を参照してください。

サポートにご連絡いただく前に、CS4070 の **¥Parameters** フォルダにある **sysinfo.txt** ファイルを確認してください。このファイルには、デバイスのシリアル番号、ソフトウェア バージョン、Bluetooth バージョン、スキャン エンジン バージョンが記載されているので、スキャナのトラブルシューティングの際に役立ちます。

技術仕様

CS4070 の最新技術仕様情報については、以下を参照してください。
<http://www.zebra.com/CS4070>

付録 A 標準のデフォルト パラメータ

表 A-1 デフォルト テーブル

パラメータ	パラメータ番号 (16 進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ番号
工場出荷時の状態に戻す	N/A	N/A	3-4
日付設定	N/A	N/A	3-5
時刻設定	N/A	N/A	3-5
日付および時刻の設定をキャンセル	N/A	N/A	3-5
Bluetooth オプション			
ペアリングバーコードのフォーマット	N/A	N/A	3-7
Bluetooth ペアリング解除	N/A	N/A	3-8
Bluetooth プロファイル	N/A	HID	3-8
データのクリア	N/A	N/A	3-9
自動再接続	N/A	無効	3-10
コネクション間隔	N/A	30 秒	3-11
HID セキュリティ	911	高	3-11
無線電波出力	N/A	Class 1	3-12
HID CoD をゼロに設定	N/A	無効	3-12
ユーザー設定			
ビープ音の音量	140	大	3-14
ビープ音の音程	145	中音	3-15
ビープ音のミュート	N/A	ミュートしない	3-15

表 A-1 デフォルト テーブル (続き)

パラメータ	パラメータ番号 (16 進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ番号
読み取り時のバイブレータ	613	有効	3-16
読み取り時のバイブレータ時間	626	200 ミリ秒	3-16
ピックリスト モード	402	常時無効	3-18
ファジー 1D 処理	514	有効	3-18
ミラー イメージ	624	無効	3-19
携帯電話/ディスプレイ モード	716	無効	3-19
PDF 優先	719	無効	3-20
PDF 優先のタイムアウト	720	200 ミリ秒	3-20
データ オプション			
コード ID キャラクタの転送	45	なし	3-21
プリフィックス値	99、105	7013 <CR><LF>	3-22
サフィックス 1 の値 サフィックス 2 の値	98、104 100、106	7013 <CR><LF>	3-22
「NR (読み取りなし)」メッセージの転送	94	無効	3-24
スキャン データ転送フォーマット	235	データのみ	3-23
バージョン オプション			
ファームウェア バージョンの送信	N/A		3-25
スキャン エンジン バージョンの送信	N/A		3-25
ドングル バージョンの送信	N/A		3-25
シンボル体系			
すべてのコード タイプを有効/無効にする			4-7
UPC/EAN			
UPC-A	1	有効	4-8
UPC-E	2	有効	4-8
UPC-E1	12	無効	4-9
EAN-8/JAN 8	4	有効	4-9
EAN-13/JAN 13	3	有効	4-10
Bookland EAN	83	無効	4-10

表 A-1 デフォルト テーブル (続き)

パラメータ	パラメータ番号 (16 進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ番号
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り (2 および 5 桁)	16	無視	4-11
ユーザーが設定できるサプリメンタル サプリメンタル 1: サプリメンタル 2:	579 580	000	4-14
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り 繰返回数	80	10	4-14
UPC/EAN/JAN サプリメンタル AIM ID の 読み取り	672	結合	4-15
UPC-A チェック デジットを転送	40	有効	4-16
UPC-E チェック デジットを転送	41	有効	4-16
UPC-E1 チェック デジットを転送	42	有効	4-17
UPC-A プリアンブル	34	システム キャラクタ	4-18
UPC-E プリアンブル	35	システム キャラクタ	4-19
UPC-E1 プリアンブル	36	システム キャラクタ	4-20
UPC-E から UPC-A フォーマットへの変換	37	無効	4-21
UPC-E1 から UPC-A フォーマットへの変換	38	無効	4-21
EAN-8/JAN-8 拡張	39	無効	4-22
Bookland ISBN 形式	576	ISBN-10	4-22
UCC クーポン拡張コード	85	無効	4-23
クーポン レポート	730	新クーポン フォーマット	4-24
ISSN EAN	617	無効	4-24
Code 128			
Code 128	8	有効	4-25
Code 128 の読み取り桁数設定	209、210	1 ~ 55	4-25
GS1-128 (旧 UCC/EAN-128)	14	有効	4-27
ISBT 128	84	有効	4-27
ISBT の連結	577	自動識別	4-28
ISBT テーブルのチェック	578	有効	4-29
ISBT 連結の読み取り繰返回数	223	10	4-29

表 A-1 デフォルト テーブル (続き)

パラメータ	パラメータ 番号 (16 進数)	工場出荷時の デフォルト 設定	ページ 番号
Code 128 セキュリティ レベル	751	セキュリティ レベル 1	4-30
Code 39			
Code 39	0	有効	4-31
Trioptic Code 39	13	無効	4-31
Code 39 から Code 32 への変換 (Italian Pharmacy Code)	86	無効	4-32
Code 32 プリフィックス	231	無効	4-32
Code 39 の読み取り桁数設定	18、19	1 ~ 55	4-33
Code 39 チェック デジットの確認	48	無効	4-34
Code 39 チェック デジットの転送	43	無効	4-34
Code 39 Full ASCII 変換	17	無効	4-35
Code 39 セキュリティ レベル	750	セキュリティ レベル 1	4-36
Code 93			
Code 93	9	有効	4-37
Code 93 の読み取り桁数設定	26、27	1 ~ 55	4-37
Code 11			
Code 11	10	無効	4-39
Code 11 の読み取り桁数を設定する	28、29	4 ~ 55	4-39
Code 11 チェック デジットの確認	52	無効	4-41
Code 11 チェック デジットの転送	47	無効	4-42
Interleaved 2 of 5 (ITF)			
Interleaved 2 of 5 (ITF)	6	有効	4-43
Interleaved 2 of 5 の読み取り桁数設定	22、23	6 ~ 55	4-43
Interleaved 2 of 5 チェック デジットの確認	49	無効	4-45
Interleaved 2 of 5 チェック デジットを転送 する	44	無効	4-46
Interleaved 2 of 5 から EAN 13 への変換	82	無効	4-46
I 2 of 5 のセキュリティ レベル	1121	セキュリティ レベル 1	4-47

表 A-1 デフォルト テーブル (続き)

パラメータ	パラメータ番号 (16 進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ番号
Discrete 2 of 5 (DTF)			
Discrete 2 of 5	5	無効	4-48
Discrete 2 of 5 の読み取り桁数設定	20、21	1 ~ 55	4-48
Codabar (NW - 7)			
Codabar	7	有効	4-50
Codabar の読み取り桁数設定	24、25	4 ~ 55	4-50
CLSI 編集	54	無効	4-52
NOTIS 編集	55	無効	4-52
Codabar の大文字または小文字のスタート/ ストップ キャラクタの検出	855	大文字	4-53
MSI			
MSI	11	無効	4-54
MSI の読み取り桁数設定	30、31	4 ~ 55	4-54
MSI チェック デジット	50	1	4-56
MSI チェック デジットの転送	46	無効	4-56
MSI チェック デジットのアルゴリズム	51	Mod 10/Mod 10	4-57
Chinese 2 of 5			
Chinese 2 of 5	408	無効	4-58
Matrix 2 of 5			
Matrix 2 of 5	618	無効	4-59
Matrix 2 of 5 の読み取り桁数	619、620	4 ~ 55	4-59
Matrix 2 of 5 チェック デジット	622	無効	4-61
Matrix 2 of 5 チェック デジットを転送	623	無効	4-61
Korean 3 of 5			
Korean 3 of 5	581	無効	4-62
反転 1D	586	標準	4-63
GS1 DataBar			
GS1 DataBar-14	338	有効	4-64
GS1 DataBar Limited	339	有効	4-64

表 A-1 デフォルト テーブル (続き)

パラメータ	パラメータ 番号 (16 進数)	工場出荷時の デフォルト 設定	ページ 番号
GS1 DataBar Expanded	340	有効	4-65
GS1 DataBar を UPC/EAN に変換	397	無効	4-65
GS1 DataBar Limited のセキュリティ レベル	728	レベル 3	4-66
Composite			
Composite CC-C	341	無効	4-67
Composite CC-A/B	342	無効	4-67
Composite TLC-39	371	無効	4-68
UPC Composite モード	344	リンクしない	4-68
UCC/EAN Composite コードの GS1-128 エミュレーション モード	427	無効	4-69
郵便コード			
US Postnet	89	無効	4-70
US Planet	90	無効	4-70
US Postal チェック デジットを転送	95	有効	4-71
UK Postal	91	無効	4-71
UK Postal チェック デジットを転送	96	有効	4-72
Japan Postal	290	無効	4-72
Australia Post	291	無効	4-73
Australia Post フォーマット	718	自動識別	4-74
Netherlands KIX Code	326	無効	4-75
USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail	592	無効	4-75
UPU FICS Postal	611	無効	4-76
2D バーコード			
PDF417	15	有効	4-77
MicroPDF417	227	無効	4-77
Code 128 エミュレーション	123	無効	4-78
Data Matrix	292	有効	4-79
Data Matrix 反転	588	反転の自動検出	4-79
ミラー イメージの読み取り (Data Matrix のみ)	537	自動	4-80

表 A-1 デフォルト テーブル (続き)

パラメータ	パラメータ番号 (16 進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ番号
Maxicode	294	無効	4-81
QR Code	293	有効	4-81
QR 反転	587	標準	4-82
MicroQR	573	有効	4-82
Aztec	574	有効	4-83
Aztec 反転	589	反転の自動検出	4-83
Han Xin	1167	無効	4-84
Han Xin 反転	1168	標準	4-84
シンボル体系特有のセキュリティ レベル			
リダンダンシー レベル	78	1	4-85
双方向リダンダンシー	67	無効	4-87
セキュリティ レベル	77	1	4-88
キャラクタ間ギャップ サイズ	381	通常	4-89

付録 B アクセサリ

概要

CS4070 のアクセサリは、製品をサポートするさまざまな機能を備えています。アクセサリには micro USB ケーブル、クレードル、予備バッテリー充電器、壁面取り付け用器具、ランヤードなどがあります。全アクセサリのリストと説明については、[表 B-1](#) を参照してください。

アクセサリの概要

表 B-1 は、CS4070 で利用可能なアクセサリを示しています。

表 B-1 CS4070 アクセサリ

アクセサリ	部品番号	説明	ページ
クレードルとバッテリー関連アクセサリ			
1 スロット ターミナルおよび予備バッテリー充電器	CHS5000-1000CR	CS4070 (バッテリー取り付け済み) 1 台と予備バッテリー 1 つを同時に充電できるシングル スロット クレードルです。電源アダプタと DC 電源コードが付属します。	B-3
8 スロット ターミナル充電器	CHS5000-8000CR	最大で 8 台の CS4070 デバイスを同時に充電できる 8 スロット クレードルです。電源アダプタと DC 電源コードが付属します。	B-5
8 スロット バッテリー充電器	SAC5000-8000CR	最大 8 つの CS4070 バッテリーを同時に充電できる 8 スロット バッテリー充電器です。電源アダプタと DC 電源コードが付属します。	B-7
交換バッテリー	BTRY-CS40EAB00-04	CS4070-SR 用バッテリー 1 つを含むパッケージです。	N/A
	BTRY-CS40EAB00-0B	CS4070-HC 用バッテリー 1 つを含むパッケージです。	N/A
	BT10-CS40EAB00-04	CS4070-SR 用バッテリーを 10 個含むパッケージです。	N/A
	BT10-CS40EAB00-0B	CS4070-HC バッテリーを 10 個含むパッケージです。	N/A
その他のアクセサリ			
ランヤード (クリップ付き)	21-102377-01	ユーザーが CS4070 を首にかけて使うためのネック コード付きクリップです。	B-16
8 スロット バッテリー充電器用壁面取り付けブラケット	KT-102376-01R	8 スロット バッテリー充電器を壁面に取り付ける器具です。	B-9
8 スロット ターミナル充電器用壁面取り付けブラケット	KT-102375-01R	8 スロット ターミナル充電器を壁面に取り付ける器具です。	B-11
Bluetooth ドングル	BT-CS1-0BR	Bluetooth と HID をつなぐドングルです。	B-14
ドングル ケーブル	CBA-U21-S07ZAR	ドングル用の交換 USB ケーブルです。	B-14

予備バッテリー充電器付きシングル スロット CS4070 充電クレードル

シングル スロット CS4070 充電クレードルで、次を行うことができます。

- デバイスの操作に必要な DC 5.1 V の電力を供給する。
- デバイス内の CS4070 バッテリーを充電する。
- 予備バッテリー 1 つを充電する。

✓ **注** CS4070 デバイスおよび充電用アクセサリには、純正の Zebra 製バッテリー (p/n 82-83172-01) のみをお使いください。

AC 電源コード 50-16000-182R 使用時の出力 12Vdc、最小 3.3A の、認証された電源アダプタ 50-14000-147R のみをお使いください。この電源アダプタは、SELV 出力について EN60950-1 への準拠が認定されています。その他の電源を使用した場合、この機器に対する承認事項はすべて無効になります。また、安全に使用できません。

シングル スロット クレードルでバッテリーを充電するには、次の手順に従います。

1. クレードルを電源に接続します。
2. デバイス内のバッテリーを充電するには、CS4070 をデバイス スロットに差し込みます。
予備バッテリーを充電するには、予備バッテリー充電用受けに差し込みます。

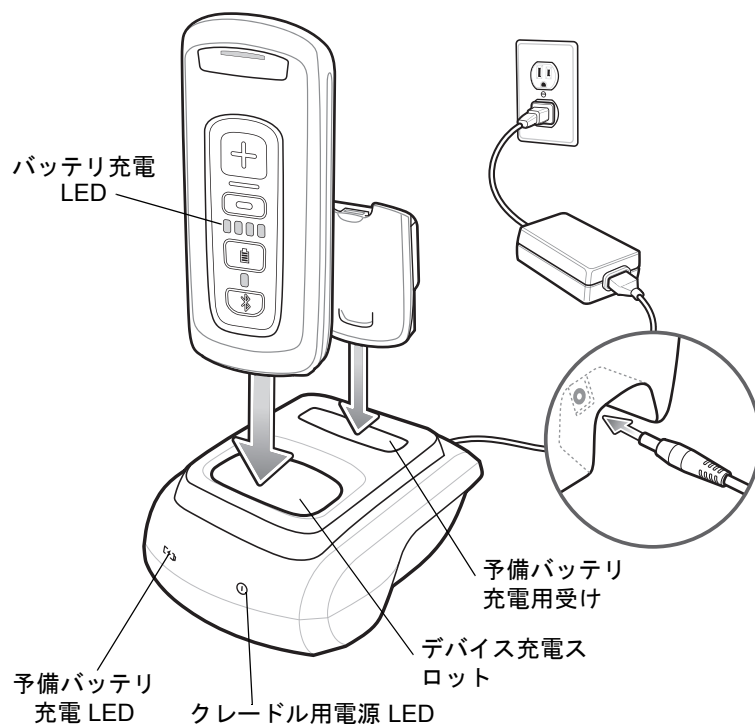


図 B-1 シングル スロット クレードル電源接続

バッテリーの充電状態の表示

シングル スロット クレードルはデバイスのバッテリーと予備バッテリーを同時に充電します。

デバイス バッテリー レベル LED はデバイスのバッテリー充電状態を示します。充電の状態の表示については、[2-3 ページの表 2-1](#) を参照してください。

クレードルの予備バッテリー充電 LED は、クレードルでの予備バッテリーの充電の状態を示します。充電の状態の表示については、[表 B-2](#) を参照してください。

バッテリーは、約 3 時間で充電が完了します。充電時の温度については、[1-4 ページの「充電温度」](#) を参照してください。

予備バッテリー充電状態の表示

表 B-2 予備バッテリー充電状態の表示

予備バッテリー LED (クレードル上)	説明
赤色の点灯	予備バッテリーが充電中
緑色の点灯	予備バッテリーはフル充電されました
赤色の点滅	充電エラー
オフ	バッテリーが挿入されていない
クレードル用電源	
緑色の点灯	電源オン
オフ	電源オフ

Bluetooth 接続

CS4070 を充電クレードルに差し込むと、無線ネットワーク上で Bluetooth 通信を保持します。

8 スロット CS4070 充電クレードル

8 スロット CS4070 充電クレードルは、デバイスの操作に必要な DC 5.1V の電力を共有し、デバイス内の CS4070 バッテリーを充電します。

✓ **注** CS4070 デバイスおよび充電用アクセサリには、純正の Zebra 製バッテリー (p/n 82-83172-01) のみをお使いください。

AC 電源コード 23844-00-00 使用時の出力 12Vdc、最小 3.3A の認証された電源アダプタ KT-14000-148R のみをお使いください。この電源アダプタは、SELV 出力について EN60950-1 への準拠が認定されています。その他の電源を使用した場合、この機器に対する承認事項はすべて無効になります。また、安全に使用できません。

8 スロット充電クレードルでバッテリーを充電するには、次の手順に従います。

1. クレードルを電源に接続します。
2. デバイス内のバッテリーを充電するには、CS4070 をデバイス スロットに差し込みます。

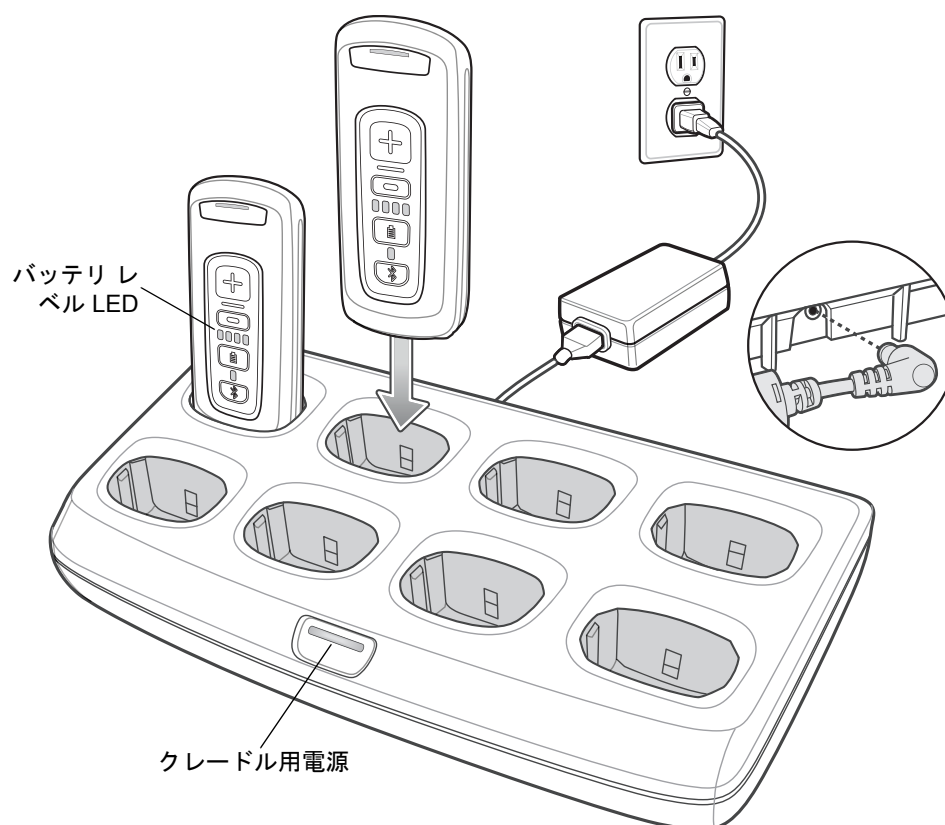


図 B-2 8 スロット クレードル電源接続

バッテリー充電状態の表示

8 スロット クレードルは最大 8 台の CS4070 デバイスを同時に充電します。

デバイスのバッテリーの充電状態は各 CS4070 上の LED で確認できます。状態の表示については、[2-3 ページの表 2-1](#) を参照してください。

通常バッテリーは、周辺温度が 30°C 以下の状態で 3 時間ほどで充電されます。充電時の温度については、[1-4 ページの「充電温度」](#) を参照してください。

Bluetooth 接続

CS4070 を充電クレードルに差し込むと、無線ネットワーク上で Bluetooth 通信を保持します。

✓ **注** CS4070 クレードルは有線の Ethernet 通信をサポートしません。

8 スロット予備バッテリー充電器

ここでは、8 スロット予備バッテリー充電器を使用して、8 つの予備バッテリーを充電する方法について説明します。

- ✓ **注** CS4070 デバイスおよび充電用アクセサリには、純正の Zebra 製バッテリー (p/n 82-83172-01) のみをお使いください。

AC 電源コード 23844-00-00 使用時の出力 12Vdc、最小 3.3A の認証された電源アダプタ KT-14000-148R のみをお使いください。この電源アダプタは、SELV 出力について EN60950-1 への準拠が認定されています。その他の電源を使用した場合、この機器に対する承認事項はすべて無効になります。また、安全に使用できません。

8 スロット予備バッテリー充電器で予備バッテリーを充電するには、次の手順に従います。

1. 図 B-3 に示したように、電源アダプタを充電器背面の電源ポートに接続します。

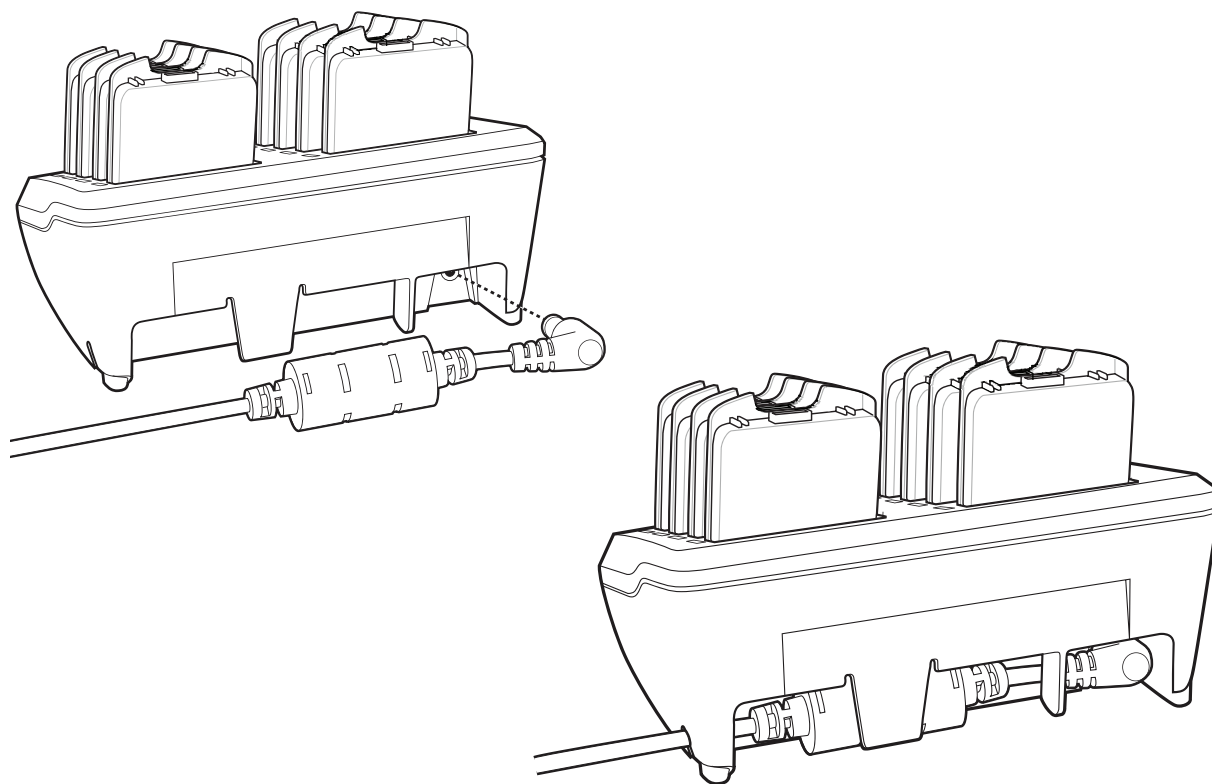


図 B-3 電源の接続

2. 電源アダプタのもう一方を電源に接続します。

3. 予備バッテリーを予備バッテリー受けに差し込み、バッテリーをゆっくり押し下げて正しく接触するようにします。

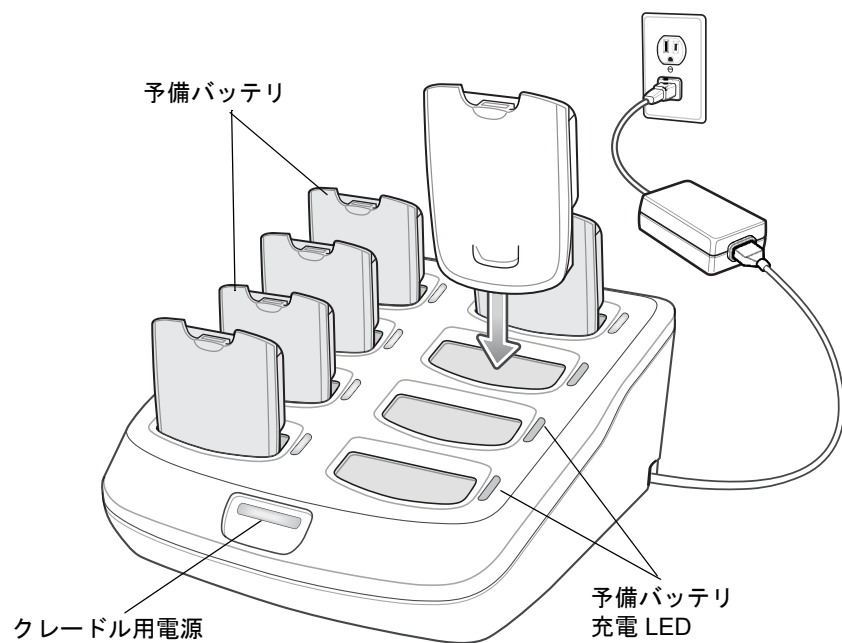


図 B-4 予備バッテリーの取り付け

バッテリーの充電状態の表示

LED に、各バッテリーの充電状態が表示されます。充電の状態の表示については、[表 B-3](#) を参照してください。バッテリーは、約 3 時間で充電が完了します。充電時の温度については、[1-4 ページの「充電温度」](#) を参照してください。

LED の意味

表 B-3 LED の意味

LED	説明
緑色の点灯	予備バッテリーの充電完了
赤色の点灯	予備バッテリーが充電中
赤色の点滅	充電エラー。予備バッテリーが正しく挿入されているかを確認
オフ	バッテリーが挿入されていない

壁面取り付けブラケット

CS4070 バッテリー充電器/予備バッテリー充電器の壁面取り付け用に、2 種類のオプションの壁面取り付けブラケットがあります。

- 壁面取り付けブラケット KT-102376-01R は 1 台の SAC5000-8000CR (8 スロット) バッテリー充電器の取り付けに使用します。
- 壁面取り付けブラケット KT-102375-01R は 1 台の CHS5000-8000CR (8 スロット) CS4070 充電器、または 2 台の SAC5000-8000CR (8 スロット) バッテリー充電器の取り付けに使用します。

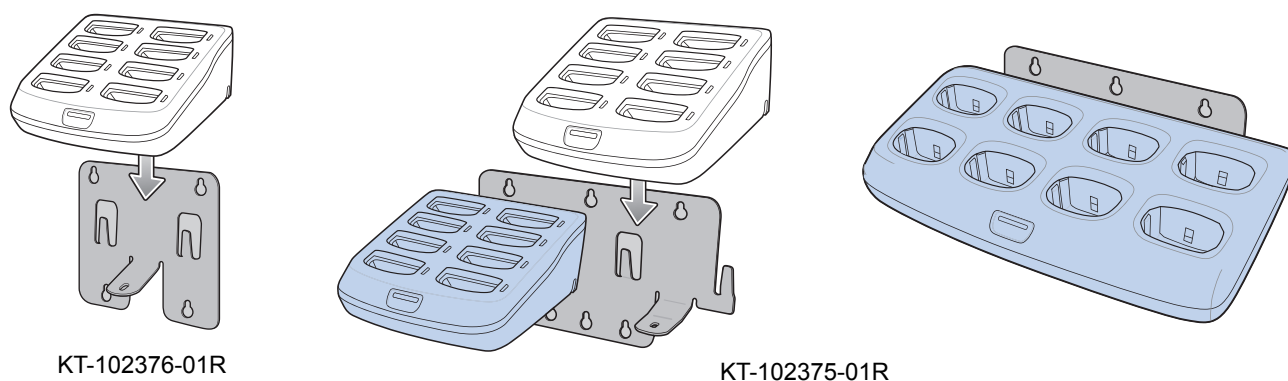


図 B-5 壁面取り付けブラケット

KT-102376-01R ブラケット

KT-102376-01R ブラケットで 1 台の SAC5000-8000CR (8 スロット) 予備バッテリー充電器を壁に設置できます。壁面取り付けブラケットをテンプレートとして使って、4 本の取り付けネジの位置を決めておきます。

付属のハードウェア

- 1 台の KT-102376-01R 取り付けブラケット
- 0.5" 丸頭タッピング ネジ (黒) 1 つ

✓ **注** 取り付けブラケット キットに付属の 0.5" 丸頭タッピング ネジで 8 スロット予備バッテリー充電器を取り付けブラケットに取り付けます。このネジはブラケットを壁に取り付けるためのものではありません。

安全と安定性のために、適切な壁面取り付け用ハードウェアの使用を推奨します。安全な取り付けのため、必ず壁面タイプ (石膏、乾式、コンクリートなど) に合った壁掛けアンカーをお使いください。可能な場合には木製のスタッドに取り付けてください。

壁面取り付けブラケットの取り付けスロットは #8 なべ頭ネジに合わせて設計されています。

取り付け手順

✓ **注** クレードルを壁面取り付けブラケットに取り付ける前に、認証された電源アダプタをクレードルに接続します。電源アダプタについては **B-7 ページの「8 スロット予備バッテリー充電器」** を参照してください。

1. 下の図を参考に、2つのブラケット取り付けタブをクレードル底部にある差し込み部に差し込みます。ブラケットのフランジのねじ穴とクレードルのねじ穴の位置が合っていることを確認します。

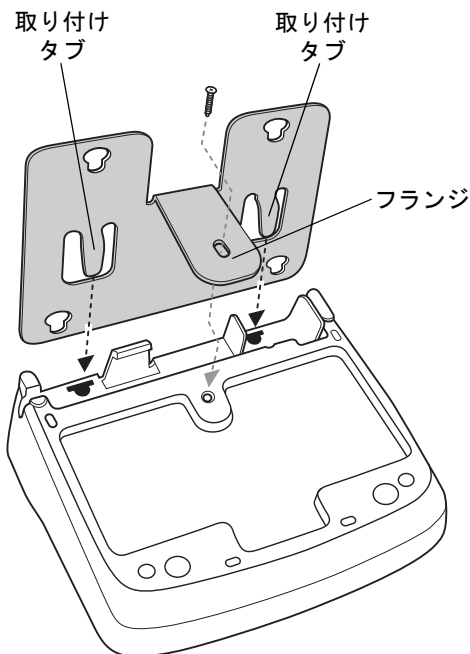


図 B-6 ブラケットをクレードルに差し込む

2. 0.5" のネジ (付属品) をブラケットのフランジに取り付け、クレードルがブラケットに固定されるまで締めます。

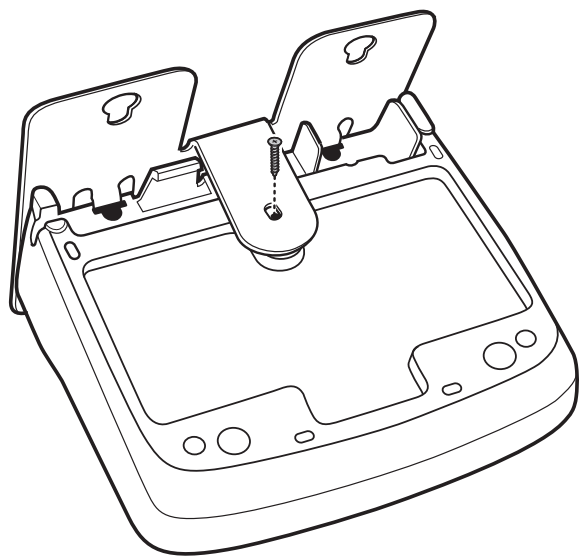


図 B-7 ネジでフランジを取り付ける

3. 4本のネジでブラケットを壁に取り付けます。安全な取り付けのために、壁面の材質や強度に応じて同梱物以外の壁面取り付けハードウェアも使用してください。

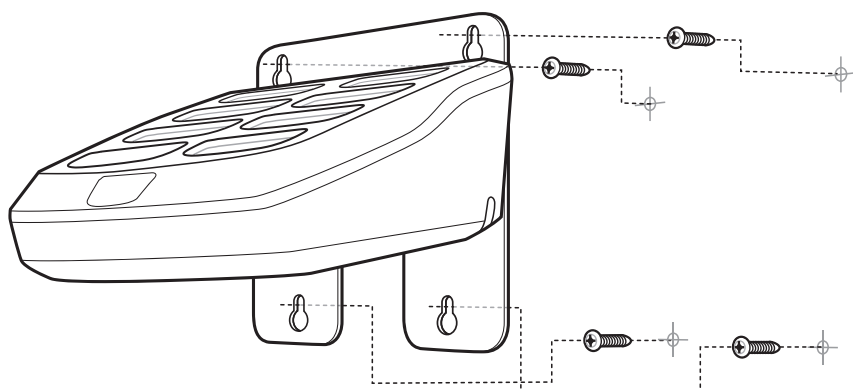


図 B-8 壁に取り付ける

KT-102375-01R ブラケット

KT-102375-01R ブラケットを使って 1 台の CHS5000-8000CR (8 スロット) CS4070 充電器、または 2 台の SAC5000-8000CR (8 スロット) 予備バッテリー充電器を壁に取り付けます。壁面取り付けブラケットをテンプレートとして使って、4 本の取り付けネジの位置を決めておきます。

付属のハードウェア

- KT-102375-01R 取り付けブラケット 2 つ
- 0.5" 丸頭タッピング ネジ (黒) 1 つ

✓ **注** 取り付けブラケット キットに付属の 0.5" 丸頭タッピング ネジで 8 スロット予備バッテリー充電器を取り付けブラケットに取り付けます。このネジはブラケットを壁に取り付けるためのものではありません。

安全と安定性のために、適切な壁面取り付け用ハードウェアの使用を推奨します。安全な取り付けのため、必ず壁面タイプ (石膏、乾式、コンクリートなど) に合った壁掛けアンカーをお使いください。可能な場合には木製のスタッドに取り付けてください。

壁面取り付けブラケットの取り付けスロットは #8 なべ頭ネジに合わせて設計されています。

取り付け手順

✓ **注** クレードルを壁面取り付けブラケットに取り付ける前に、認証された電源アダプタをクレードルに接続します。電源アダプタについては、[B-7 ページの「8 スロット予備バッテリー充電器」](#)および [B-5 ページの「8 スロット CS4070 充電クレードル」](#)を参照してください。

1. 1 台の 8 スロット CS4070 バッテリー充電器 (CHS5000-8000CR) を取り付ける場合、[図 B-9](#)を参考に 4 つのブラケット取り付けタブを充電器の底部にある差し込み部に差し込みます。ブラケットのフランジのねじ穴とクレードルのねじ穴の位置が揃っていることを確認します。

2 台の 8 スロット バッテリー充電器 (SAC5000-8000CR) を取り付ける場合、[図 B-10](#)を参考に 2 つのブラケット取り付けタブを各バッテリー充電器に差し込みます。

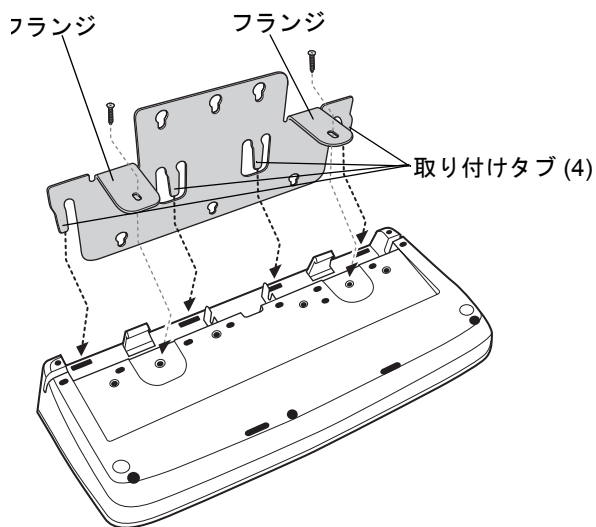


図 B-9 ブラケットを CHS5000-8000CR クレードルに差し込む

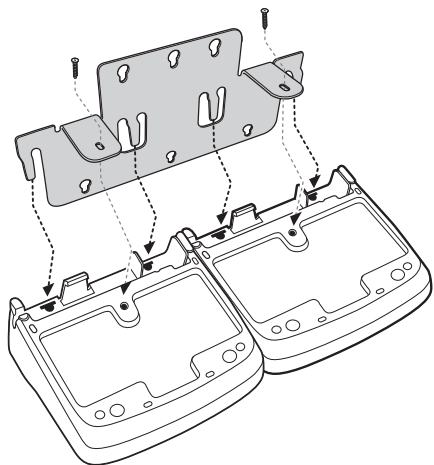


図 B-10 ブラケットを SAC5000-8000CR クレードルに差し込む

2. ブラケットをクレードルにネジで取り付けます。
 CHS5000-8000CR: 付属の 0.5" ネジ 2 つを 2 つのブラケット フランジに取り付け、クレードルがブラケットにしっかり留まるまで締めます (図 B-11 の図 A を参照)。

SAC5000-8000CR: 付属の 0.5" ネジを各フランジに取り付け、フランジが各クレードルにしっかり留まるまで締めます (図 B-11 の図 B を参照)。

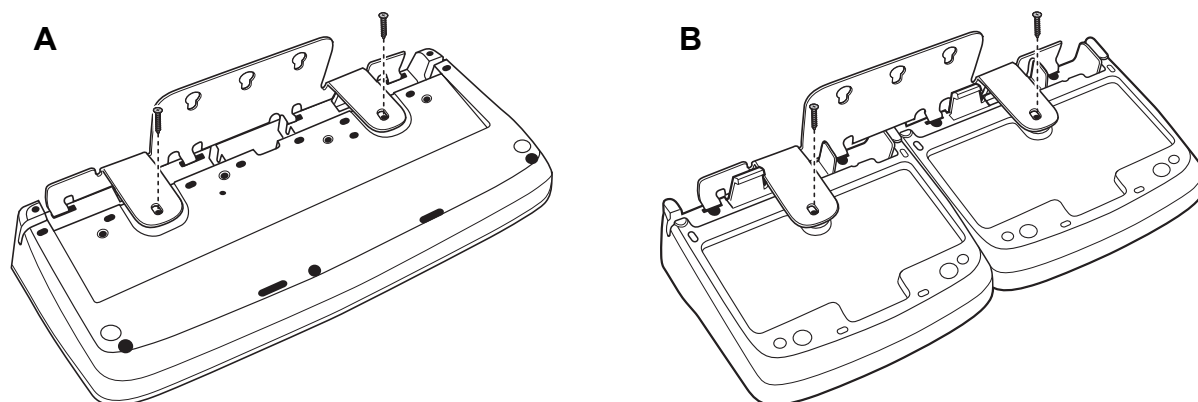


図 B-11 ブラケットをクレードルにネジで留める

3. 6 本のネジ (別売り) を使ってブラケットを壁に取り付けます。

✓ **注** 安全な取り付けのために、壁面の材質や強度に応じて同梱物以外の壁面取り付けハードウェアも使用してください。

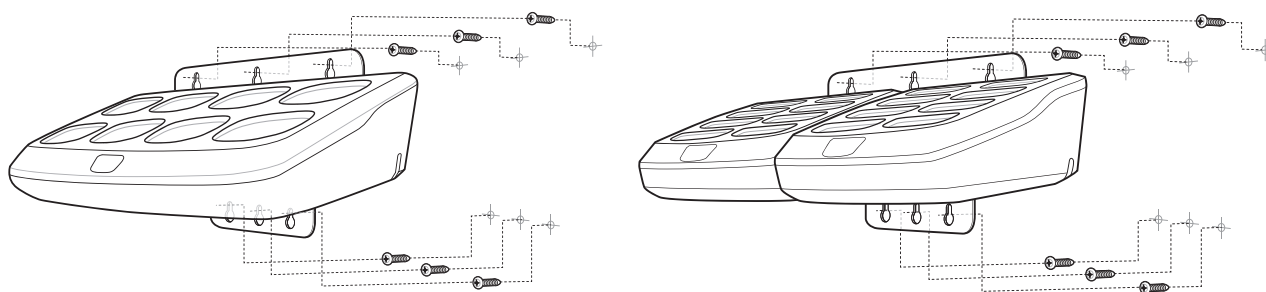


図 B-12 ブラケットの取り付け

USB HID ドングルの Bluetooth

USB HID ドングルの Bluetooth は、ドングルのバーコードをスキャンするだけでスキャナと HID ホストをペアリングします。ドングルが付属するのは CS4070HC のみで、以下の特徴を持ちます。

- USB バス電源
- 消費電力 100mA 未満
- 壁などの平面に取り付け可能
- ペアリング バーコードはデバイス前面のラベルに印刷され、取り付け時に確認可能
- IP40 シーリング
- USB 接続:
 - RJ45 コネクタ
 - 標準の Zebra 製 USB ケーブル
 - USB HID キーボード プロファイル (英語 (米国) のみ)
 - Windows、Linux 32 および 64- ビット システムのホスト PC への接続にドライバは必要ありません
- Bluetooth:
 - Class 1 無線
 - Bluetooth スタック バージョン 2.1 + EDR
 - Bluetooth ステータスを示す 青色 LED (オフ = ペアリング無し、点灯 = ペアリング済み)
 - 可能な BT 接続は 1 つのみ
 - HID Bluetooth プロファイル
 - ペアリングされていない場合は Bluetooth ping やその他の転送なし

USB HID デバイスとのペアリング

ドングルを使って USB HID デバイスとペアリングするには、次の手順に従います。

1. 必要な場合は、#3 なべ頭木ネジ (最大ネジ直径 2.52mm) または M2.5 ソケットまたはなべ頭の機械ネジ (最大ネジ直径 2.5mm) でドングルを壁に取り付けます (ネジは別売り)。

✓ **注** 安全な取り付けのために、壁面の材質や強度に応じて同梱物以外の壁面取り付けハードウェアも使用してください。

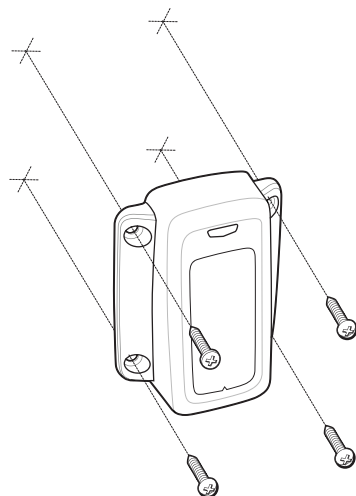


図 B-13 壁面取り付けドングル

2. RJ45 ケーブルの一方をドングルの RJ45 ポートに接続し、もう一方を HID デバイスの USB ポートに接続します。

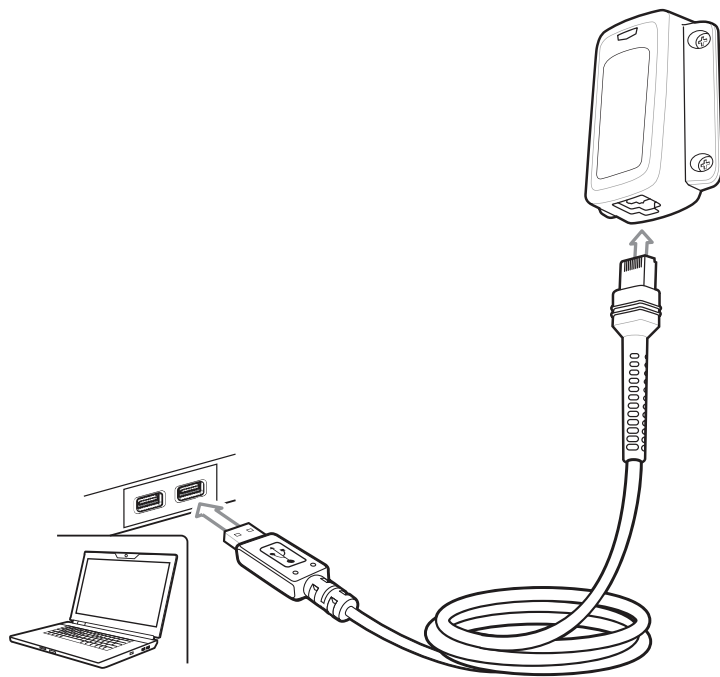


図 B-14 HID デバイスへのドングル接続

3. CS4070 を使用している場合、ドングルのバーコードをスキャンしてスキャナと HID デバイスをペアリングします。

クリップ付きランヤード

CS4070 をクリップ付きランヤードに取り付けると、[図 B-15](#)に示すように首から下げて持ち運べるようになります。



図 B-15 ランヤードの装着

ランヤードの取り付けと取り外し

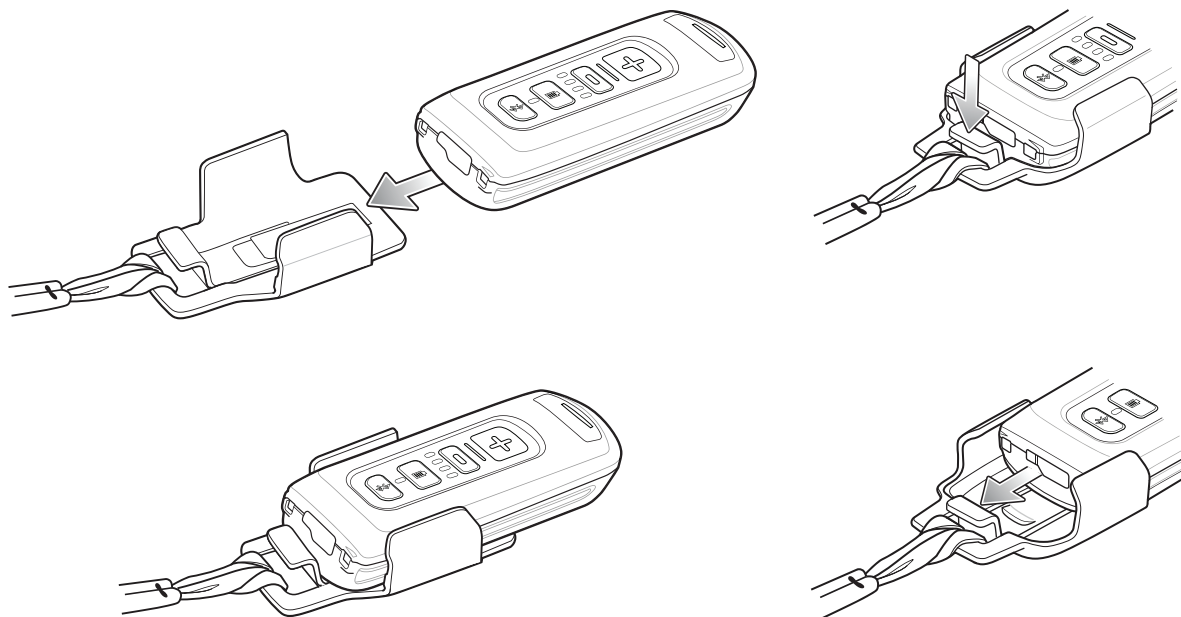


図 B-16 ランヤードの取り付けと取り外し

付録 C BLUETOOTH 接続の例

概要

CS4070 とホスト デバイスをペアリングするには、Bluetooth ボタンを押し続けてスキャナを検出可能モードにし、ペアリング PIN を入力します。PIN を CS4070 に入力するには、[C-9 ページの「PIN 入力用バーコード」](#)を使用します。ホスト デバイスには、PIN を入力するために必要なそのデバイスのデータ入力方法を使用します。

このセクションでは、以下の接続例を説明します。

- [iPad のペアリングの例](#)
- [C-3 ページの「Android のペアリングの例」](#)
- [C-5 ページの「Windows 7 のペアリングの例」](#)
- [C-7 ページの「Windows 8 のペアリングの例」](#)

iPad のペアリングの例

1. スキャン ボタン (+) を押してスキャナをウェイクアップします。
2. [3-8 ページ](#)に記載された **Bluetooth HID プロファイル バーコード** をスキャンします。
3. Bluetooth ボタンを約 5 秒間押し続けます。ビープ音が鳴って Bluetooth ボタンが速く点滅します。これは、スキャナがホストによって検出可能な状態にあることを示します。
4. iPad で **[Settings]** アイコンをタップします。
5. **[General]** を表示されたオプションのリストでタップします。
6. **[Bluetooth]** をタップします。Bluetooth が有効になっていない場合は、スワイプして有効にします。CS4070 が **[Devices]** リストに表示され、モデル名で示されます。

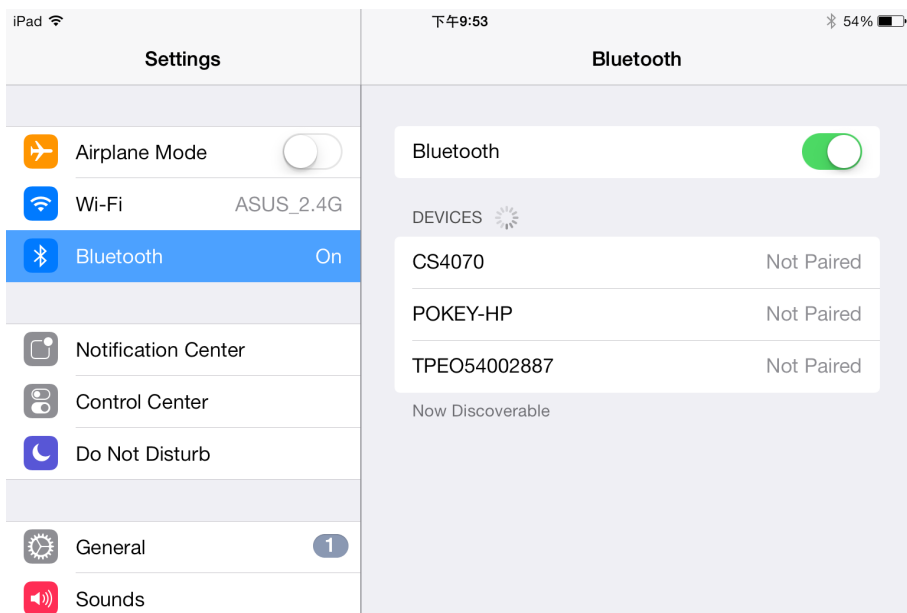


図 C-1 Bluetooth 機器

7. リストから CS4070 を選択します。HID モードでは、CS4070 は PIN コードをスキャンしなくてもペアリング認証できます。

スキャナでビープ音が鳴り、iPad とのペアリングが完了したことを示し、iPad では **[Connected]** が CS4070 デバイス名の横に表示されます。

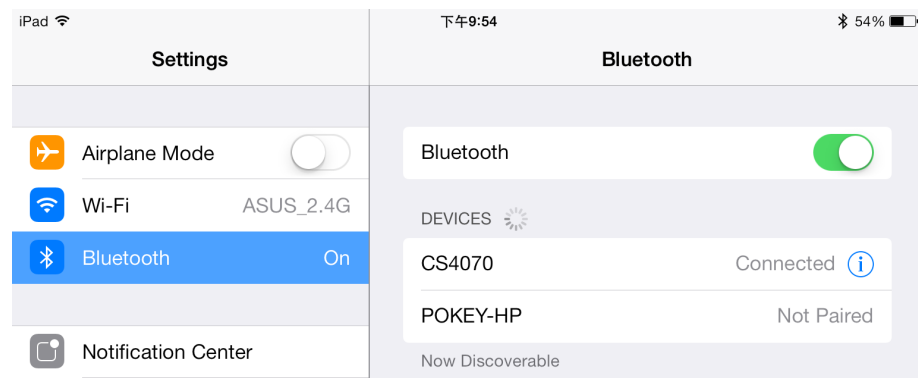


図 C-2 CS4070 接続済み

Android のペアリングの例

✓ **注** データ損失を避けるため、Android とのペアリング前に [1-10 ページの「KeystrokeDelay」](#) を 70ms に設定します。

1. スキャン ボタン (+) を押してスキャナをウェイクアップします。
2. Bluetooth ボタンを約 5 秒間押し続けます。ビープ音が鳴って Bluetooth ボタンが速く点滅します。これは、スキャナがホストによって検出可能な状態にあることを示します。
3. Samsung Galaxy Tab 2 では、**[Settings]** アイコンをタップします。
4. **[Bluetooth]** をタップします。Bluetooth が有効になっていない場合は、スワイプして有効にします。CS4070 が **[Available Devices]** リストに表示され、モデル名とシリアル番号で示されます。

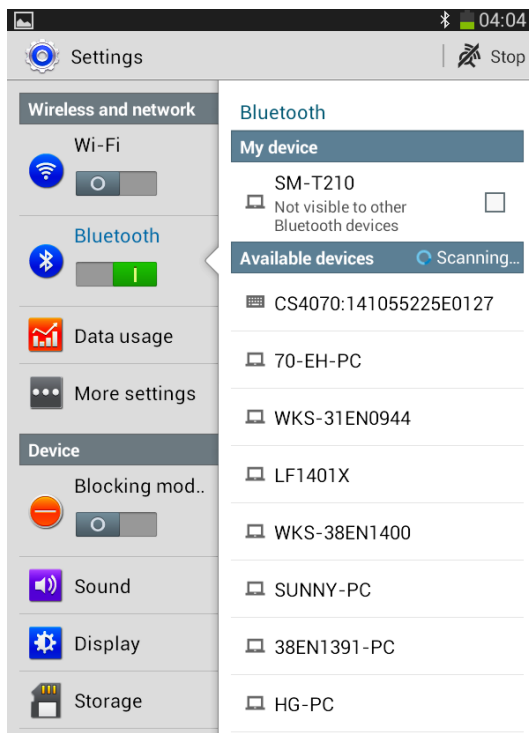


図 C-3 Samsung の利用可能なデバイス リスト

5. リストから CS4070 を選択します。Samsung Galaxy Tab 2 によって生成された PIN を求めるプロンプトがウィンドウに表示されます。

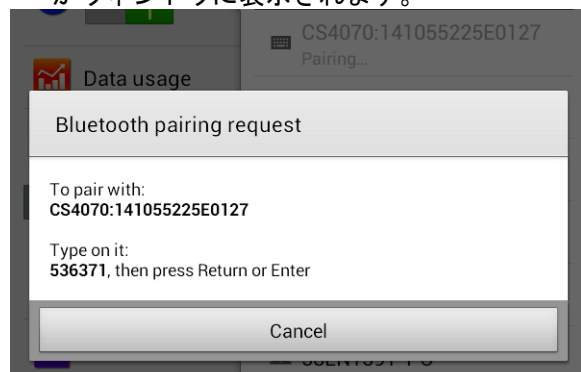


図 C-4 Samsung のペアリング要求ウィンドウ

6. CS4070 で **C-9 ページの「PIN 入力用バーコード」** を使用して PIN をスキャンし、さらに **Enter** をスキャンします。

スキャナでビーブ音が鳴り、Samsung Galaxy Tab 2 とのペアリングが完了したことを示し、Samsung Galaxy Tab 2 では **[Connected]** が CS4070 デバイス名の下に表示されます。

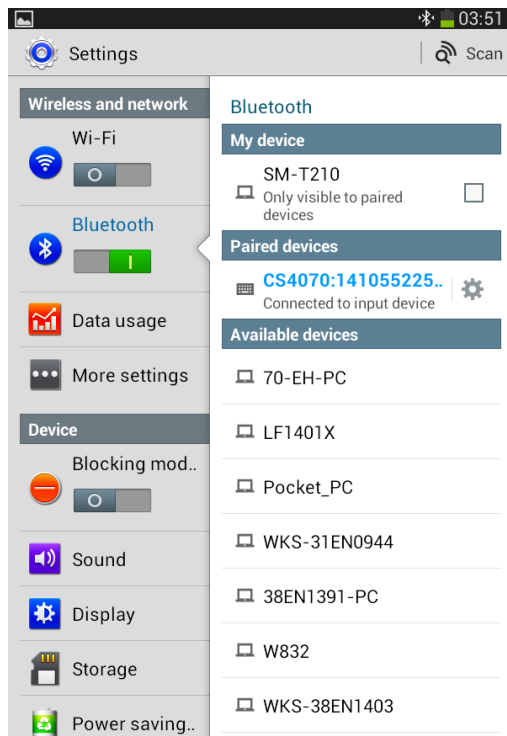


図 C-5 デバイス接続済み

Android 携帯のキーボードへのアクセス

[Choose Input Method] 通知は、複数のキーボードが使える状態でのみ有効になります。そのためには、次の手順に従います。

1. **[Settings] > [Language and Input]** の順に選択します。
2. **[Keyboard & Input Methods]** で **iWnn IME Emoji Input** や **Google Pinyin Input** など別のキーボードの横にあるボックスを選択します。
3. 使用できるキーボードがない場合は、**NullKeyboard** や **AnySoftKeyboard** などのサードパーティ製キーボードを Play Store からインストールします。**[Language and Input]** 設定で、インストールされたサードパーティ製キーボードの横にあるボックスを選択します。警告メッセージのウィンドウで **[OK]** を選択します。
4. 任意のテキスト入力ボックスを開きます。**[Choose Input Method]** 通知が通知バー（画面左上）に表示されます。
5. 通知をタップします (**[Select Keyboard Layout]** ではありません)。
6. **[Off for the Hardware]** のオン/オフ スライダを選択します。
7. ラジオ ボタンでソフトウェア キーボードを選択します。
8. **[Back]** ボタンをタップします。画面キーボードが表示されますが、Bluetooth キーボードも使用できる状態です。

Windows 7 のペアリングの例

1. スキャン ボタン (+) を押してスキャナをウェイクアップします。
2. Bluetooth ボタンを約 5 秒間押し続けます。ビーブ音が鳴って Bluetooth ボタンが速く点滅します。これは、スキャナがホストによって検出可能な状態にあることを示します。
3. HP NB (WIN7 OS) で、[Start] メニュー、[Devices and printers] の順にタップします。
4. [Add a device] をタップします。[Devices] リストに CS4070 のモデル名とシリアル番号があり、検出可能な状態であることを確認します。

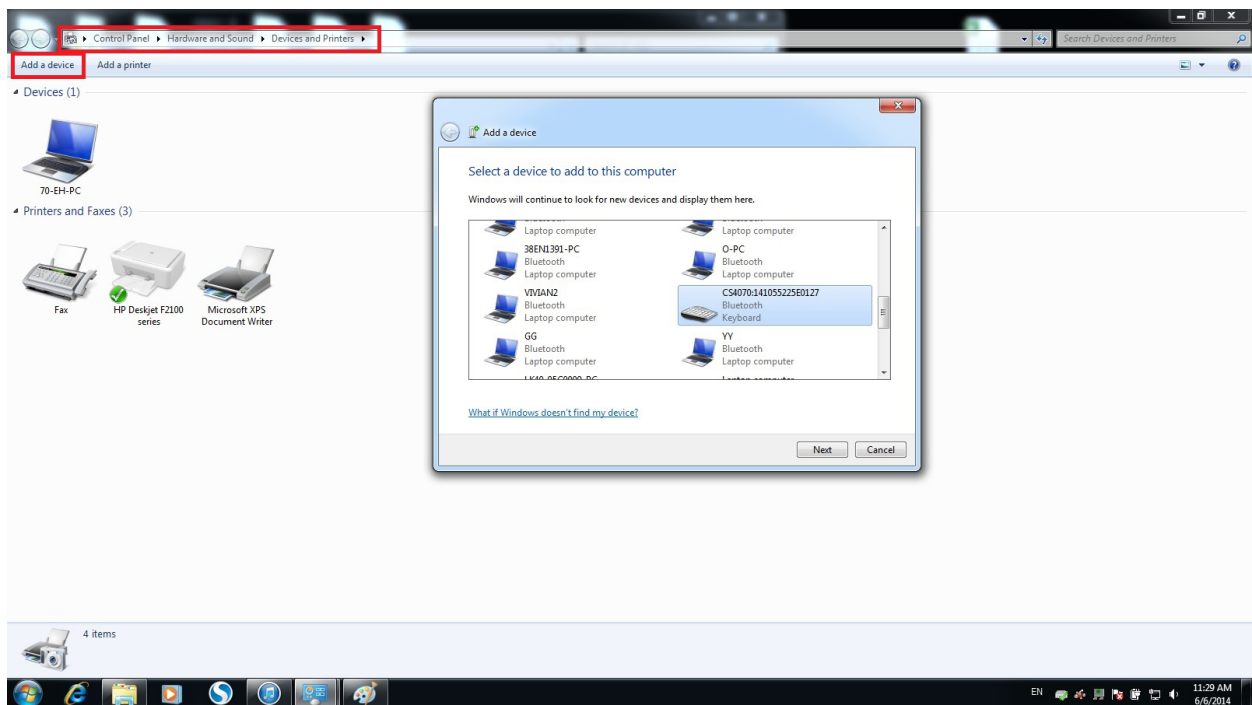


図 C-6 デバイス リスト

5. リストから CS4070 を選択します。HP NB (WIN7 OS) で生成された PIN を求めるプロンプトがウィンドウに表示されます。

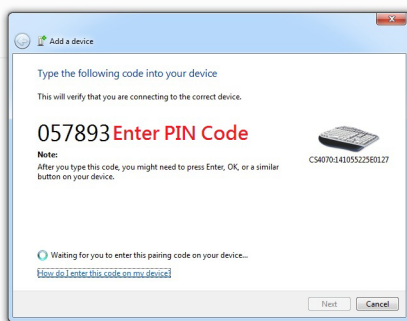


図 C-7 PIN のプロンプト

6. CS4070 で **C-9 ページの「PIN 入力用バーコード」** を使用して PIN をスキャンし、さらに **Enter** をスキャンします。スキャナでピープ音が鳴り、HP NB (WIN7 OS) とのペアリングが完了したことを示し、HP NB でもペアリング完了を告げるウィンドウが表示されます。

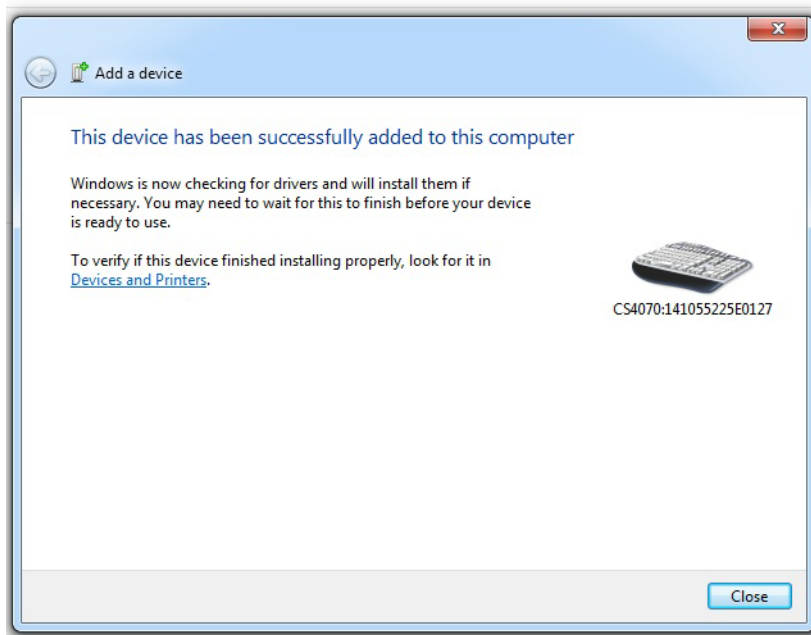


図 C-8 CS4070 接続済み

7. デバイス リストに CS4070 デバイスのアイコンがあることを確認します。

Windows 8 のペアリングの例

1. スキャン ボタン (+) を押してスキャナをウェイクアップします。
2. Bluetooth ボタンを約 5 秒間押し続けます。ビーブ音が鳴って Bluetooth ボタンが速く点滅します。これは、スキャナがホストによって検出可能な状態にあることを示します。
3. Lenovo ThinkPad Tablet で画面の右側をスライドして **[Start]** メニューを呼び出し、**[Settings]** アイコンをタップします。
4. **[Change PC Settings]** をタップして PC 設定リストを呼び出し、**[PC and devices]** をタップします。
5. **[Bluetooth]** をタップします。Bluetooth が有効になっていない場合は、スワイプして有効にします。CS4070 が **[Devices]** リストに表示され、モデル名で示されます。
6. リストから CS4070 を選択します。Lenovo ThinkPad Tablet で生成された PIN を求めるプロンプトがウィンドウに表示されます。

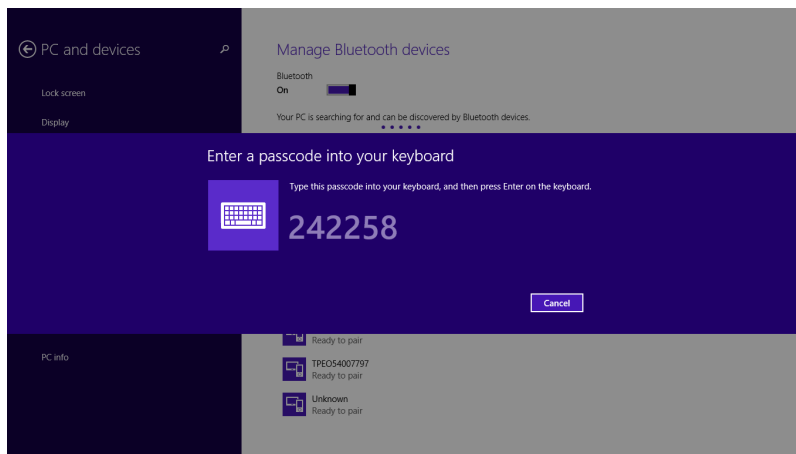


図 C-9 ThinkPad ペアリング要求ウィンドウ

7. CS4070 で **C-9 ページの「PIN 入力用バーコード」** を使用して PIN をスキャンし、さらに **Enter** をスキャンします。スキャナでビープ音が鳴り、Lenovo ThinkPad Tablet とのペアリングが完了したことを示し、Lenovo ThinkPad Tablet では [Connected] が CS4070 デバイス名の下に表示されます。

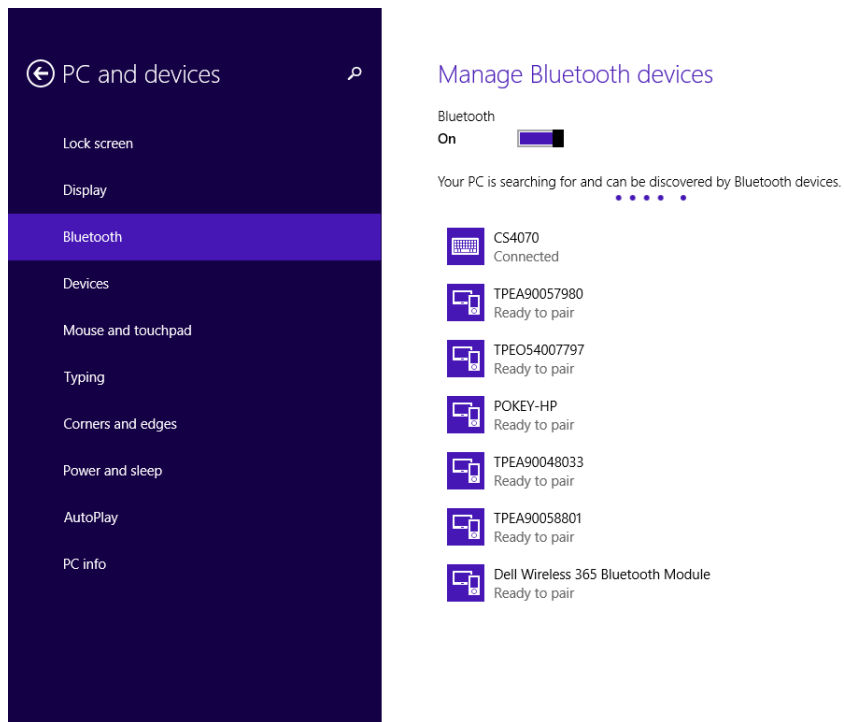


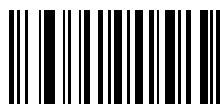
図 C-10 CS4070 接続済み

PIN 入力用バーコード

Bluetooth 接続には、PIN 入力用の以下のバーコードを使用します。



0



1



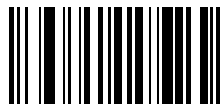
2



3



4



5

PIN 入力用バーコード (続き)



6



7



8



9



Enter



キャンセル

付録 D プログラミング リファレンス

コードタイプ ID

表 D-1 バーコードタイプ識別子

SDL コードタイプ ID	バーコードタイプ
1	Code 39
2	Codabar
3	Code 128
4	Discrete (標準) 2 of 5
5	IATA
6	Interleaved 2 of 5
7	Code 93
8	UPC-A
9	UPC-E0
10	EAN-8
11	EAN-13
12	Code 11
13	Code 49
14	MSI
15	EAN-128
16	UPC-E1
17	PDF-417

表 D-1 バーコード タイプ 識別子 (続き)

SDL コード タイプ ID	バーコード タイプ
18	Code 16K
19	Code 39 Full ASCII
20	UPC-D
21	Code 39 Trioptic
22	Bookland
23	クーポン コード
24	NW-7
25	ISBT-128
26	Micro PDF
27	DataMatrix
28	QR Code
29	Micro PDF CCA
30	PostNet US
31	Planet Code
32	Code 32
33	ISBT-128 Con
34	Japan Postal
35	Australian Postal
36	Dutch Postal
37	MaxiCode
38	Canadian Postal
39	UK Postal
40	Macro PDF
41	Macro QR
44	Micro QR
45	Aztec
46	Aztec Rune
48	GS1 DataBar-14
49	GS1 DataBar Limited
50	GS1 DataBar Expanded
52	USPS 4CB

表 D-1 バーコード タイプ識別子 (続き)

SDL コード タイプ ID	バーコード タイプ
53	UPU 4State
54	ISSN
55	Scanlet
56	CueCode
57	Matrix 2 of 5
72	UPC-A + 2 サプリメンタル
73	UPC-E0 + 2 サプリメンタル
74	EAN-8 + 2 サプリメンタル
75	EAN-13 + 2 サプリメンタル
80	UPC-E1 + 2 サプリメンタル
81	CCA EAN-128
82	CCA EAN-13
83	CCA EAN-8
84	CCA GS1 DataBar Expanded
85	CCA GS1 DataBar Limited
86	CCA GS1 DataBar-14
87	CCA UPC-A
88	CCA UPC-E
89	CCC EAN-128
90	TLC-39
97	CCB EAN-128
98	CCB EAN-13
99	CCB EAN-8
100	CCB GS1 DataBar Expanded
101	CCB GS1 DataBar Limited
102	CCB GS1 DataBar-14
103	CCB UPC-A
104	CCB UPC-E
105	署名読み取り
114	Chinese 2 of 5
115	Korean 3 of 5

表 D-1 バーコード タイプ 識別子 (続き)

SDL コード タイプ ID	バーコード タイプ
136	UPC-A + 5 サプリメンタル
137	UPC-E0 + 5 サプリメンタル
138	EAN-8 + 5 サプリメンタル
139	EAN-13 + 5 サプリメンタル
144	UPC-E1 + 5 サプリメンタル
154	Macro Micro PDF
180	GS1 Databar Coupon
183	Han Xin

シンボル コード ID

表 D-2 シンボル コード キャラクタ

コード キャラクタ	コード タイプ
A	UPC-A、UPC-E、UPC-E1、EAN-8、EAN-13
B	Code 39、Code 32
C	Codabar
D	Code 128、ISBT 128、ISBT 128 連結
E	Code 93
F	Interleaved 2 of 5
G	Discrete 2 of 5、または Discrete 2 of 5 IATA
H	Code 11
J	MSI
K	GS1-128
L	Bookland EAN
M	Trioptic Code 39
N	クーポン コード
R	GS1 DataBar ファミリ
S	Matrix 2 of 5
T	UCC Composite、TLC 39

表 D-2 シンボル コード キャラクタ (続き)

コード キャラクタ	コード タイプ
U	Chinese 2 of 5
V	Korean 3 of 5
X	ISSN EAN、PDF417、Macro PDF417、Micro PDF417
Z	Aztec、Aztec Rune
P00	Data Matrix
P01	QR Code、MicroQR
P02	Maxicode
P03	US Postnet
P04	US Planet
P05	Japan Postal
P06	UK Postal
P08	Netherlands KIX Code
P09	Australia Post
P0A	USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail
P0B	UPU FICS Postal
P0X	署名読み取り

AIM コード ID

各 AIM コード ID は、**jcm** の 3 文字で構成されています。それぞれの意味は次のとおりです。

- j = フラグ キャラクタ (ASCII 93)
- c = コード キャラクタ (表 D-3 を参照)
- m = 修飾 キャラクタ (表 D-4 参照)

表 D-3 AIM コード キャラクタ

コード キャラクタ	コード タイプ
A	Code 39、Code 39 Full ASCII、Code 32
C	Code 128、ISBT 128、ISBT 128 連結、GS1-128、Coupon (Code 128 portion)
d	Data Matrix
E	UPC/EAN、Coupon (UPC 部分)
e	GS1 DataBar ファミリ
F	Codabar
G	Code 93
H	Code 11
I	Interleaved 2 of 5
L	PDF417、Macro PDF417、Micro PDF417
L2	TLC 39
M	MSI
Q	QR Code、MicroQR
S	Discrete 2 of 5、IATA 2 of 5
U	Maxicode
z	Aztec、Aztec Rune
X	Bookland EAN、ISSN EAN、Trioptic Code 39、Chinese 2 of 5、Matrix 2 of 5、Korean 3 of 5、US Postnet、US Planet、UK Postal、Japan Postal、Australia Post、Netherlands KIX Code、USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail、UPU FICS Postal、署名読み取り

修飾キャラクタは、当該オプションの値の和で、表 D-4 に基づいています。

表 D-4 修飾キャラクタ

コードタイプ	オプション値	オプション
Code 39	0	チェック キャラクタまたは Full ASCII の処理なし。
	1	リーダーは 1 つのチェック キャラクタをチェックしました。
	3	リーダーはチェック キャラクタをチェックして取り除きました。
	4	リーダーは Full ASCII キャラクタ変換を実行しました。
	5	リーダーは Full ASCII キャラクタ変換を実行し、1 つのチェック キャラクタをチェックしました。
	7	リーダーは Full ASCII キャラクタ変換を実行し、チェック キャラクタをチェックして取り除きました。
	例: チェック キャラクタが W の Full ASCII バーコードの場合、 A + I + MI + DW は J A7AIMID (ここで 7 = (3 + 4)) として転送されます。	
Trioptic Code 39	0	この時点で指定されたオプションなし。常に 0 が転送されます。
	例: Trioptic バーコード 412356 は JX0412356 として転送されます。	
Code 128	0	標準データ パケット、最初のシンボル位置にファンクション コード 1 なし。
	1	最初のシンボル キャラクタ位置にファンクション コード 1。
	2	2 番目のシンボル キャラクタ位置にファンクション コード 1。
	例: 最初の位置に ^{FNC1} がある Code (EAN) 128 バーコードの場合、AIMID は、 JC1AIMID として転送されます。	
Interleaved 2 of 5	0	チェック デジットの処理なし。
	1	リーダーはチェック デジットを検証しました。
	3	リーダーはチェック デジットを検証して取り除きました。
	例: チェック デジットの無い I 2 of 5 バーコードの場合、4123 は、 J104123 として転送されます。	
Codabar	0	チェック デジットの処理なし。
	1	リーダーはチェック デジットをチェックしました。
	3	リーダーは転送前にチェック デジットを取り除きました。
	例: チェック デジットなしの Codabar バーコード、4123 は JF04123 として転送されます。	
Code 93	0	この時点で指定されたオプションなし。常に 0 が転送されます。
	例: Code 93 バーコード 012345678905 は、 JG0012345678905 として転送されます。	
MSI	0	チェック デジットが送信されます。
	1	チェック デジットは送信されません。
	例: MSI バーコードで 1 つのチェック デジットがチェックされた場合、4123 は、 JM14123 として転送されます。	

表 D-4 修飾キャラクタ (続き)

コードタイプ	オプション値	オプション
Discrete 2 of 5	0	この時点で指定されたオプションなし。常に 0 が転送されます。
		例: Discrete 2 of 5 バーコード 4123 は JS04 123 として転送されます。
UPC/EAN	0	フル EAN フォーマットの標準データ パケット、つまり、UPC-A、UPC-E、EAN-13 の 13 桁 (サプリメンタル データを含まない)。
	1	2 桁のサプリメンタル データのみ。
	2	5 桁のサプリメンタル データのみ。
	3	EAN-13、UPC-A、または UPC-E シンボルからの 13 桁で構成される、またはサプリメンタル シンボルからの 2 または 5 桁で構成される統合されたデータ パケット。
	4	EAN-8 データ パケット。
		例: UPC-A バーコード 012345678905 は JE000 12345678905 として転送されます。
Bookland EAN	0	この時点で指定されたオプションなし。常に 0 が転送されます。
		例: Bookland EAN バーコード 123456789X は JX0 123456789X として転送されます。
ISSN EAN	0	この時点で指定されたオプションなし。常に 0 が転送されます。
		例: ISSN EAN バーコードの場合、123456789X は、 JX0 123456789X として転送されます。
Code 11	0	単一のチェック デジット
	1	2 つのチェック デジット
	3	チェック キャラクタは検証されましたが送信されませんでした。
GS1 DataBar ファミリ		この時点で指定されたオプションなし。常に 0 が転送されます。 アプリケーション ID 「01」とともに転送される GS1 DataBar-14 および GS1 DataBar Limited。 重要: GS1-128 エミュレーション モードでは、GS1 DataBar は Code 128 ルール (例、JC1) を使用して転送されます。
		例: GS1 DataBar-14 バーコード 0110012345678902 は Je00 110012345678902 として転送されます。

表 D-4 修飾キャラクタ (続き)

コードタイプ	オプション値	オプション
EAN.UCC Composites (GS1 DataBar、 GS1-128、 UPC Composite の 2D 部分)		ネイティブ モード転送。 重要: Composite の UPC 部分は UPC ルールを使用して転送されます。
	0	標準データ パケット。
	1	次のエンコードされたシンボル区切りキャラクタといったデータを含むデータ パケット。
	2	次のエスケープ メカニズム キャラクタといったデータを含むデータ パケット。データ パケットは ECI プロトコルをサポートしません。
	3	次のエスケープ メカニズム キャラクタといったデータを含むデータ パケット。データ パケットは ECI プロトコルをサポートします。
		GS1-128 エミュレーション 重要: Composite の UPC 部分は UPC ルールを使用して転送されます。
	1	データ パケットは GS1-128 シンボル (つまり、データの先頭に JJC1) です。
PDF417、 Micro PDF417	0	リーダーは 1994 PDF417 コード仕様で定義されたプロトコルに適合するように設定されています。 重要: このオプションが転送されるとき、レシーバは ECI が呼び出されるかどうか、またはデータ バイト 92 _{DEC} が転送時に倍になるかどうかを確実に判断できません。
	1	リーダーは ECI プロトコル (Extended Channel Interpretation) に従うように設定されています。すべてのデータ キャラクタ 92 _{DEC} は倍になります。
	2	リーダーは基本チャネル操作用に設定されています (エスケープ キャラクタ転送プロトコルなし)。データ キャラクタ 92 _{DEC} は倍になりません。 重要: デコーダがこのモードに設定されているとき、バッファなし Macro シンボルおよび ECI エスケープ シーケンスの伝達をデコーダに求めるシンボルは送信できません。
	3	バーコードには GS1-128 シンボルが含まれており、最初のコードワードは 903-907、912、914、915 です。
	4	バーコードには GS1-128 シンボルが含まれており、最初のコードワードの範囲は 908 ~ 909 です。
	5	バーコードには GS1-128 シンボルが含まれており、最初のコードワードの範囲は 910 ~ 911 です。
		例: 転送プロトコルが有効になっていない PDF417 バーコード ABCD は JJC2ABCD として転送されます。

表 D-4 修飾キャラクタ (続き)

コードタイプ	オプション値	オプション
Data Matrix	0	ECC 000-140、サポート対象外。
	1	ECC 200。
	2	ECC 200、最初と 5 番目の位置に FNC1。
	3	ECC 200、2 番目と 6 番目の位置に FNC1。
	4	ECC 200、ECI プロトコル実装。
	5	ECC 200、最初と 5 番目の位置に FNC1、ECI プロトコル実装。
	6	ECC 200、2 番目と 6 番目の位置に FNC1、ECI プロトコル実装。
MaxiCode	0	モード 4 または 5 のシンボル。
	1	モード 2 または 3 のシンボル。
	2	モード 4 または 5 のシンボル、ECI プロトコル実装。
	3	モード 2 または 3 のシンボル、副メッセージで ECI プロトコル実装。
QR Code	0	モデル 1 シンボル。
	1	モデル 2 / MicroQR シンボル、ECI プロトコル非実装。
	2	モデル 2 シンボル、ECI プロトコル実装。
	3	モデル 2 シンボル、ECI プロトコル非実装、最初の位置に FNC1 黙示。
	4	モデル 2 シンボル、ECI プロトコル実装、最初の位置に FNC1 黙示。
	5	モデル 2 シンボル、ECI プロトコル非実装、2 番目の位置に FNC1 黙示。
	6	モデル 2 シンボル、ECI プロトコル実装、2 番目の位置に FNC1 黙示。
Aztec	0	Aztec シンボル。
	C	Aztec Rune シンボル。

GS1-128 (旧 UCC/EAN-128)

GS1-128 は、標準 Code 128 バーコード シンボルのデータ フィールドを印刷するための規則です。GS1-128 シンボルは、シンボルの 1 番目および 2 番目のキャラクタとして先頭に付く FNC 1 キャラクタで見分けられます。他の FNC 1 キャラクタは、描写フィールドに使用されます。

GS1-128 シンボルが読み取られると、先頭の FNC 1 キャラクタを取り除いた特殊形式の後に転送され、他の FNC 1 キャラクタは ASCII 29 (GS) 制御キャラクタに置き換えられます。

AIM シンボル体系 ID が転送されると、修飾キャラクタは AIM ガイドラインに従った先頭の FNC 1 キャラクタの位置を示します。たとえば、**Jc1** は先頭に FNC 1 キャラクタの付いた GS1-128 シンボルを表します。

先頭に FNC 1 が付かない標準 Code 128 バーコードも使用できますが、GS1-128 規則に従ってエンコードされることはありません。標準 Code 128 および GS1-128 は、アプリケーション内に混在できます。CS3070 はこれらのシンボル間を自動認識し、片方または両方のコード タイプを有効または無効にできます。[表 D-5](#) では、4 つのパラメータ設定それぞれでの CS3070 の動作を表しています。

表 D-5 標準 Code 128 & GS1-128 の読み取り

標準 Code 128	GS1-128	効果と例
無効	無効	Code 128 シンボルは読み取れない。
無効	有効	先頭に FNC 1 の付いたシンボルだけを読み取る。 例： FNC1ABCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる A ^{FNC1} BCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる FNC1FNC1ABCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる ABCD ^{FNC1} E は読み取ることができない ABCDE は読み取ることができない
有効	無効	先頭に FNC 1 の付いていないシンボルだけを読み取る。 例： FNC1ABCD ^{FNC1} E は読み取ることができない A ^{FNC1} BCD ^{FNC1} E は読み取ることができない FNC1FNC1ABCD ^{FNC1} E は読み取ることができない ABCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる ABCDE は ABCDE として読み取られる
有効	有効	両方のタイプのシンボルを読み取る。 例： FNC1ABCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる A ^{FNC1} BCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる FNC1FNC1ABCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる ABCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる ABCDE は ABCDE として読み取られる

プリフィックスとサフィックスの設定

読み取りデータにプリフィックスおよびサフィックスを付加するには、次の手順に従います。

1. スキャン データ転送フォーマット (パラメータ 0xE2) を希望のオプションに設定します。
2. 表 D-6 にある希望の ASCII 値の 16 進数を使用して、プリフィックス (0x69)、サフィックス 1 (0x68) またはサフィックス 2 (0x6A) の必須値を入力します。

表 D-6 キャラクタ同等

スキャン値	16 進値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1000	00h	%U	CTRL 2
1001	01h	\$A	CTRL A
1002	02h	\$B	CTRL B
1003	03h	\$C	CTRL C
1004	04h	\$D	CTRL D
1005	05h	\$E	CTRL E
1006	06h	\$F	CTRL F
1007	07h	\$G	CTRL G
1008	08h	\$H	CTRL H
1009	09h	\$I	CTRL I
1010	0Ah	\$J	CTRL J
1011	0Bh	\$K	CTRL K
1012	0Ch	\$L	CTRL L
1013	0Dh	\$M	CTRL M
1014	0Eh	\$N	CTRL N
1015	0Fh	\$O	CTRL O
1016	10h	\$P	CTRL P
1017	11h	\$Q	CTRL Q
1018	12h	\$R	CTRL R
1019	13h	\$S	CTRL S
1020	14h	\$T	CTRL T
1021	15h	\$U	CTRL U
1022	16h	\$V	CTRL V
1023	17h	\$W	CTRL W
1024	18h	\$X	CTRL X

表 D-6 キャラクタ同等 (続き)

スキャン値	16 進値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1025	19h	\$Y	CTRL Y
1026	1Ah	\$Z	CTRL Z
1027	1Bh	%A	CTRL [
1028	1Ch	%B	CTRL ¥
1029	1Dh	%C	CTRL]
1030	1Eh	%D	CTRL 6
1031	1Fh	%E	CTRL -
1032	20h	スペース	スペース
1033	21h	/A	!
1034	22h	/B	'
1035	23h	/C	#
1036	24h	/D	\$
1037	25h	/E	%
1038	26h	/F	&
1039	27h	/G	'
1040	28h	/H	(
1041	29h	/I	)
1042	2Ah	/J	*
1043	2Bh	/K	+
1044	2Ch	/L	,
1045	2Dh	-	-
1046	2Eh	.	.
1047	2Fh	/	/
1048	30h	0	0
1049	31h	1	1
1050	32h	2	2
1051	33h	3	3
1052	34h	4	4
1053	35h	5	5
1054	36h	6	6
1055	37h	7	7

表 D-6 キャラクタ同等 (続き)

スキャン値	16 進値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1056	38h	8	8
1057	39h	9	9
1058	3Ah	/Z	:
1059	3Bh	%F	;
1060	3Ch	%G	<
1061	3Dh	%H	=
1062	3Eh	%I	>
1063	3Fh	%J	?
1064	40h	%V	@
1065	41h	A	A
1066	42h	B	B
1067	43h	C	C
1068	44h	D	D
1069	45h	E	E
1070	46h	F	F
1071	47h	G	G
1072	48h	H	H
1073	49h	I	I
1074	4Ah	J	J
1075	4Bh	K	K
1076	4Ch	L	L
1077	4Dh	M	M
1078	4Eh	N	N
1079	4Fh	O	O
1080	50h	P	P
1081	51h	Q	Q
1082	52h	R	R
1083	53h	S	S
1084	54h	T	T
1085	55h	U	U
1086	56h	V	V

表 D-6 キャラクタ同等 (続き)

スキャン値	16 進値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1087	57h	W	W
1088	58h	X	X
1089	59h	Y	Y
1090	5Ah	Z	Z
1091	5Bh	%K	[
1092	5Ch	%L	¥
1093	5Dh	%M	]
1094	5Eh	%N	^
1095	5Fh	%O	_
1096	60h	%W	'
1097	61h	+A	a
1098	62h	+B	b
1099	63h	+C	c
1100	64h	+D	d
1101	65h	+E	e
1102	66h	+F	f
1103	67h	+G	g
1104	68h	+H	h
1105	69h	+I	i
1106	6Ah	+J	j
1107	6Bh	+K	k
1108	6Ch	+L	l
1109	6Dh	+M	m
1110	6Eh	+N	n
1111	6Fh	+O	o
1112	70h	+P	p
1113	71h	+Q	q
1114	72h	+R	r
1115	73h	+S	s
1116	74h	+T	t
1117	75h	+U	u

表 D-6 キャラクタ同等 (続き)

スキャン値	16 進値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1118	76h	+V	v
1119	77h	+W	w
1120	78h	+X	x
1121	79h	+Y	y
1122	7Ah	+Z	z
1123	7Bh	%P	{
1124	7Ch	%Q	
1125	7Dh	%R	}
1126	7Eh	%S	~
1127	7Fh		未定義

1128 ~ 1255 の値も設定可能。

付録 E サンプルバーコード

UPC-A



UPC-E



UPC-E1

- ✓ **注** サンプルをスキャンするためにこのシンボル体系を有効にするには、[4-9 ページの「UPC-E1 の有効化/無効化」](#)を参照してください。



EAN-13



EAN-8



Code 39



Trioptic Code 39

- ✓ 注 サンプルをスキャンするためにこのシンボル体系を有効にするには、[4-31 ページの「Trioptic Code 39 を有効/無効にする」](#)を参照してください。



456123

Code 93

- ✓ 注 サンプルをスキャンするためにこのシンボル体系を有効にするには、[4-37 ページの「Code 93 を有効/無効にする」](#)を参照してください。



12345ABCDE

Code 11

- ✓ 注 サンプルをスキャンするためにこのシンボル体系を有効にするには、[4-39 ページの「Code 11」](#)を参照してください。



Æ1234567890Æ

Codabar

- ✓ 注 サンプルをスキャンするためにこのシンボル体系を有効にするには、[4-50 ページの「Codabar を有効/無効にする」](#)を参照してください。



MSI

- ✓ 注 サンプルをスキャンするためにこのシンボル体系を有効にするには、[4-54 ページの「MSI を有効/無効にする」](#)を参照してください。



Interleaved 2 of 5



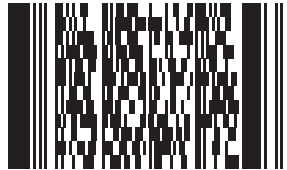
GS1 DataBar-14

✓ 注 以下のバーコードを読み取るには、DataBar-14 を有効にする必要があります (4-64 ページの「GS1 DataBar」を参照)。



7612341562341

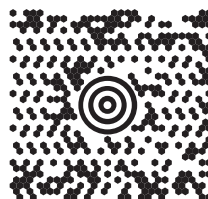
PDF417



Data Matrix



Maxicode



QR Code



Han Xin



US Postnet



UK Postal



付録 F 数値バーコード

数値バーコード

特定の数値が必要なパラメータについては、対応する番号の付いたバーコードをスキャンします。



0



1



2



3

数値バーコード (続き)



4



5



6



7



8



9

キャンセル

間違いを訂正したり、選択した設定を変更したりする場合は、次のバーコードをスキャンします。



キャンセル

付録 G ASCII キャラクタ セット

表 G-1 ASCII 値一覧

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1000	%U	CTRL 2
1001	\$A	CTRL A
1002	\$B	CTRL B
1003	\$C	CTRL C
1004	\$D	CTRL D
1005	\$E	CTRL E
1006	\$F	CTRL F
1007	\$G	CTRL G
1008	\$H	CTRL H/ BACKSPACE ¹
1009	\$I	CTRL I/ HORIZONTAL TAB ¹
1010	\$J	CTRL J
1011	\$K	CTRL K
1012	\$L	CTRL L
1013	\$M	CTRL M/ ENTER ¹
1014	\$N	CTRL N
1015	\$O	CTRL O

太字のキーストロークは、「ファンクション キーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 G-1 ASCII 値一覧 (続き)

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1016	\$P	CTRL P
1017	\$Q	CTRL Q
1018	\$R	CTRL R
1019	\$S	CTRL S
1020	\$T	CTRL T
1021	\$U	CTRL U
1022	\$V	CTRL V
1023	\$W	CTRL W
1024	\$X	CTRL X
1025	\$Y	CTRL Y
1026	\$Z	CTRL Z
1027	%A	CTRL [
1028	%B	CTRL ¥
1029	%C	CTRL]
1030	%D	CTRL 6
1031	%E	CTRL -
1032	スペース	スペース
1033	/A	!
1034	/B	“
1035	/C	#
1036	/D	\$
1037	/E	%
1038	/F	&
1039	/G	'
1040	/H	(
1041	/I	)
1042	/J	*
1043	/K	+
1044	/L	,

太字のキーストロークは、「ファンクション キーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 G-1 ASCII 値一覧 (続き)

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1045	-	-
1046	.	.
1047	/o	/
1048	0	0
1049	1	1
1050	2	2
1051	3	3
1052	4	4
1053	5	5
1054	6	6
1055	7	7
1056	8	8
1057	9	9
1058	/Z	:
1059	%F	;
1060	%G	<
1061	%H	=
1062	%I	>
1063	%J	?
1064	%V	@
1065	A	A
1066	B	B
1067	C	C
1068	D	D
1069	E	E
1070	F	F
1071	G	G
1072	H	H
1073	I	I

太字のキーストロークは、「ファンクション キーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 G-1 ASCII 値一覧 (続き)

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1074	J	J
1075	K	K
1076	L	L
1077	M	M
1078	N	N
1079	O	O
1080	P	P
1081	Q	Q
1082	R	R
1083	S	S
1084	T	T
1085	U	U
1086	V	V
1087	W	W
1088	X	X
1089	Y	Y
1090	Z	Z
1091	%K	[
1092	%L	¥
1093	%M	]
1094	%N	^
1095	%O	_
1096	%W	'
1097	+A	a
1098	+B	b
1099	+C	c
1100	+D	d
1101	+E	e
1102	+F	f

太字のキーストロークは、「ファンクション キーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 G-1 ASCII 値一覧 (続き)

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1103	+G	g
1104	+H	h
1105	+I	i
1106	+J	j
1107	+K	k
1108	+L	l
1109	+M	m
1110	+N	n
1111	+O	o
1112	+P	p
1113	+Q	q
1114	+R	r
1115	+S	s
1116	+T	t
1117	+U	u
1118	+V	v
1119	+W	w
1120	+X	x
1121	+Y	y
1122	+Z	z
1123	%P	{
1124	%Q	
1125	%R	}
1126	%S	~

太字のキーストロークは、「ファンクション キーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 G-2 ALT キー標準デフォルトの表

ALT キー	キーストローク
2064	ALT 2
2065	ALT A
2066	ALT B
2067	ALT C
2068	ALT D
2069	ALT E
2070	ALT F
2071	ALT G
2072	ALT H
2073	ALT I
2074	ALT J
2075	ALT K
2076	ALT L
2077	ALT M
2078	ALT N
2079	ALT O
2080	ALT P
2081	ALT Q
2082	ALT R
2083	ALT S
2084	ALT T
2085	ALT U
2086	ALT V
2087	ALT W
2088	ALT X
2089	ALT Y
2090	ALT Z

表 G-3 USB GUI キー キャラクタ セット

GUI キー	キーストローク
3000	右コントロール キー
3048	GUI 0
3049	GUI 1
3050	GUI 2
3051	GUI 3
3052	GUI 4
3053	GUI 5
3054	GUI 6
3055	GUI 7
3056	GUI 8
3057	GUI 9
3065	GUI A
3066	GUI B
3067	GUI C
3068	GUI D
3069	GUI E
3070	GUI F
3071	GUI G
3072	GUI H
3073	GUI I
3074	GUI J
3075	GUI K
3076	GUI L
3077	GUI M
3078	GUI N
3079	GUI O
3080	GUI P
3081	GUI Q

注意: GUI シフト キー - Apple™ iMac キーボードのアップル キーは、スペースバーの隣にあります。Windows ベースのシステムの GUI キーは、左側の ALT キーの左隣と、右側の ALT キーの右隣にそれぞれ1つずつあります。

表 G-3 USB GUI キー キャラクタ セット (続き)

GUI キー	キーストローク
3082	GUI R
3083	GUI S
3084	GUI T
3085	GUI U
3086	GUI V
3087	GUI W
3088	GUI X
3089	GUI Y
3090	GUI Z

注意: GUI シフト キー - Apple™ iMac キーボードのアップル キーは、スペース
バーの隣にあります。Windows ベースのシステムの GUI キーは、左側の ALT
キーの左隣と、右側の ALT キーの右隣にそれぞれ 1 つずつあります。

表 G-4 PF キー標準デフォルトの表

PF キー	キーストローク
4001	PF 1
4002	PF 2
4003	PF 3
4004	PF 4
4005	PF 5
4006	PF 6
4007	PF 7
4008	PF 8
4009	PF 9
4010	PF 10
4011	PF 11
4012	PF 12
4013	PF 13
4014	PF 14
4015	PF 15
4016	PF 16

表 G-5 F キー標準デフォルトの表

F キー	キーストローク
5001	F 1
5002	F 2
5003	F 3
5004	F 4
5005	F 5
5006	F 6
5007	F 7
5008	F 8
5009	F 9
5010	F 10
5011	F 11
5012	F 12
5013	F 13
5014	F 14
5015	F 15
5016	F 16
5017	F 17
5018	F 18
5019	F 19
5020	F 20
5021	F 21
5022	F 22
5023	F 23
5024	F 24

表 G-6 数値キー標準デフォルトの表

数字キーパッド	キーストローク
6042	*
6043	+
6044	未定義
6045	-
6046	.
6047	/
6048	0
6049	1
6050	2
6051	3
6052	4
6053	5
6054	6
6055	7
6056	8
6057	9
6058	Enter
6059	Num Lock

表 G-7 拡張キーパッド標準デフォルトの表

拡張キーパッド	キーストローク
7001	Break
7002	Delete
7003	Pg Up
7004	End
7005	Pg Dn
7006	Pause
7007	Scroll Lock
7008	Backspace
7009	Tab
7010	Print Screen
7011	Insert
7012	Home
7013	Enter
7014	Escape
7015	上矢印
7016	下矢印
7017	左矢印
7018	右矢印

索引

数字

123Scan2	5-1
2D バーコード	
Aztec	4-83
Aztec 反転	4-83
Code 128 エミュレーション	4-78
Data Matrix	4-79
Data Matrix 反転	4-79
Han Xin	4-84
Han Xin 反転	4-84
MaxiCode	4-81
MicroPDF417	4-77
MicroQR	4-82
PDF417	4-77
QR コード	4-81
QR 反転	4-82
8 スロット CA50 充電クレードル	B-2
8 スロット充電クレードル	B-5
8 スロット バッテリ充電器	B-2
8 スロット 予備 バッテリ充電器	B-7
8 スロット 予備 バッテリ充電器の 壁面取り付け	B-9, B-11

A

ADF	6-1
autoreconnect	3-10

B

Bluetooth	1-1
HID セキュリティ	3-11
HID プロファイル	3-8
LED の定義	2-4
SPP プロファイル	3-8
SSI プロファイル	3-8

アドレス	1-8
シリアル番号	1-8
接続	1-5, 1-6
データの転送	2-3
バーコード	3-7
範囲外	2-3
ビープ音の定義	2-5
プロファイル	3-8
ペアリング解除	3-8
ペアリング バーコードのフォーマット	3-7
マスタとスレーブ	3-7
無線電波出力	3-12
Bluetooth ネットワーク	
接続	B-6
Bluetooth ネットワーク接続	B-4

C

Codabar バーコード	
CLSI 編集	4-52
Codabar	4-50
NOTIS 編集	4-52
スタート キャラクタおよびストップ キャラクタ	4-53
読み取り桁数	4-50
Code 11 バーコード	
Code 11	4-39
読み取り桁数	4-39
Code 128 エミュレーション バーコード	4-78
Code 128 バーコード	
Code 128	4-25
GS1-128	4-27
ISBT 128	4-27
ISBT 連結	4-28, 4-29
ISBT 連結の読み取り繰返回数	4-29
セキュリティ レベル	4-30
読み取り桁数	4-25

Code 39 バーコード	
Code 39	4-31
Full ASCII	4-35
チェック デジットの確認	4-34
転送チェック デジット	4-34
読み取り桁数	4-33
Code 93 バーコード	
Code 93	4-37
読み取り桁数	4-37
Composite バーコード	
Composite CC-A/B	4-67
Composite CC-C	4-67
Composite TLC-39	4-68
UPC Composite モード	4-68

D

Data Matrix バーコード	4-79
Discrete 2 of 5 バーコード	
Discrete 2 of 5	4-48

G

GS1 DataBar	4-64
GS1-128	D-11

I

Interleaved 2 of 5 バーコード	
EAN-13 への変換	4-46
チェック デジットの確認	4-45
転送チェック デジット	4-46
interleaved 2 of 5 バーコード	
セキュリティ レベル	4-47

K

Korean 3 of 5 バーコード	4-62
---------------------	------

L

LED	
定義	2-3

M

Matrix 2 of 5 バーコード	4-59
チェック デジット	4-61
転送チェック デジット	4-61
読み取り桁数	4-59, 4-60
MaxiCode バーコード	4-81
MicroPDF417 バーコード	4-77
MSI バーコード	
MSI	4-54

チェック デジット	4-56
チェック デジットのアルゴリズム	4-57
転送チェック デジット	4-56
読み取り桁数	4-54

P

PDF417 バーコード	4-77
PIN	
数値バーコード	C-9
PIN 入力のための数値バーコード	C-9

Q

QR コード バーコード	4-81
--------------	------

U

UPC/EAN バーコード	
Bookland EAN	4-10
Bookland ISBN	4-22
EAN-13/JAN-13	4-10
EAN-8/JAN-8	4-9
EAN ゼロ拡張	4-22
ISSN EAN	4-24
UCC クーポン拡張コード	4-23
UPC-A	4-8
UPC-A プリアンブル	4-18
UPC-E	4-8
UPC-E1	4-9
UPC-E1 から UPC-A への変換	4-21
UPC-E から UPC-A への変換	4-21
UPC-E プリアンブル	4-19
サプリメンタル	4-11
チェック デジット	4-16, 4-17
USB	1-1
USB ケーブル	1-5

あ

アクセサリ	
8 スロット CA50 充電クレードル	B-2
8 スロット充電クレードル	B-5
8 スロット バッテリ充電器	B-2
8 スロット 予備 バッテリ充電器	B-7
シングル スロット クレードル	B-2
シングル スロット 充電クレードル	B-3
取り付けブラケット	B-9, B-11
壁面取り付けブラケット	B-2
ランヤード	B-2
アドバンスド データ フォーマット	6-1

い

インタフェース 1-1

お

温度、バッテリー 1-4

き

技術仕様 7-3
規則
表記 xv

く

クリーニング 7-1
クレードル
8 スロット B-5
8 スロット CA50 充電 B-2
8 スロット バッテリー充電器 B-2
8 スロット 予備バッテリー充電器 B-7
シングル スロット B-2, B-3
取り付けブラケット B-9, B-11
クレードル電源オフ B-4

け

ケーブル 1-5
通信のセットアップ 1-5

こ

構成ファイル 1-8
パラメータ 1-9
編集 1-9
コード ID
AIM コード ID D-6
修飾キャラクタ D-7
シンボル D-4
コールド ブート 1-4

さ

サービスに関する情報 xvi
サフィックス D-12
サポート xvi
サンプル バーコード E-1

し

時刻
設定 3-5, 3-6
自動実行 2-2充電時
LED定義 2-4
充電時の温度 1-4
充電状態の表示 B-4, B-6, B-8
仕様 7-3
シングル スロット クレードル B-2
シングル スロット 充電クレードル B-3
シンボル体系のデフォルト パラメータ 4-2

す

スキャナの構成 1-8
構成ファイルの編集 1-9
スキャナのデフォルト設定 3-2
スキャナのリセット
工場出荷時 3-4
スキャン 2-1
エラー 3-1, 4-2
シーケンスの例 4-1
照準 2-1
データの転送 2-2
パラメータ 3-1

せ

接続
Bluetooth 1-5, 1-6, B-4, B-6
バッチ 1-5
ホストへの 1-5
セットアップ
Bluetooth 1-5, 1-6
構成ファイルの編集 1-9
スキャナの構成 1-8
パッケージの開梱 1-2
ホストへの接続 1-5

つ

通信のセットアップ 1-5

て

データのクリア 3-9
データの転送 2-2
Bluetooth 2-3
デバイス内のバッテリーの充電 1-4
デバイスの起動 1-4
デフォルト テーブル A-1
デフォルト パラメータ 3-2
シンボル体系 4-2
ユーザー設定 3-2

と

トラブルシューティング	7-2
取り付けブラケット	B-9, B-11

は

バイブレータ

時間	3-16
有効化	3-16

バーコード

Australia Post	4-73
Australia Post フォーマット	4-74
Aztec	4-83
Aztec 反転	4-83
Bluetooth オプション	3-7
Bluetooth プロファイル	3-8
Bookland EAN	4-10
Bookland ISBN	4-22
Chinese 2 of 5	4-58
Codabar	4-50
Codabar CLSI 編集	4-52
Codabar NOTIS 編集	4-52
Codabar スタート キャラクタおよびストップ キャラクタ	4-53
Codabar の読み取り桁数	4-50
Code 11	4-39
Code 11 の読み取り桁数	4-39
Code 128	4-25
Code 128 エミュレーション	4-78
Code 128 セキュリティ レベル	4-30
Code 128 の読み取り桁数	4-25
Code 39	4-31
Code 39 Full ASCII	4-35
Code 39 チェック デジットの確認	4-34
Code 39 転送チェック デジット	4-34
Code 39 の読み取り桁数	4-33
Code 93	4-37
Code 93 の読み取り桁数	4-37
Composite CC-A/B	4-67
Composite CC-C	4-67
Composite TLC-39	4-68
Data Matrix	4-79
Data Matrix 反転	4-79
Discrete 2 of 5	4-48
読み取り桁数	4-49
EAN-13/JAN-13	4-10
EAN-8/JAN-8	4-9
EAN ゼロ拡張	4-22
GS1 DataBar	4-64
GS1 DataBar Expanded	4-65
GS1 DataBar Limited	4-64
GS1 DataBar-14	4-64
GS1 Databar から UPC/EAN への変換	4-65

GS1-128	4-27
Han Xin	4-84
Han Xin 反転	4-84
HID CoD	3-12
HID セキュリティ	3-11
I 2 of 5 のセキュリティ レベル	4-47
Interleaved 2 of 5	4-43
EAN-13 への変換	4-30, 4-46, 4-47
読み取り桁数	4-43
Interleaved 2 of 5 から EAN-13 への変換	4-46
Interleaved 2 of 5 チェック デジットの 確認	4-45
Interleaved 2 of 5 転送チェック デジット	4-46
ISBT 128	4-27
ISBT 連結	4-28, 4-29
ISBT 連結の読み取り繰返回数	4-29
ISSN EAN	4-24
Japan Postal	4-72
Korean 3 of 5	4-62
Matrix 2 of 5	4-59
Matrix 2 of 5 チェック デジット	4-61
Matrix 2 of 5 チェック デジットの転送	4-61
Matrix 2 of 5 の読み取り桁数	4-59, 4-60
MaxiCode	4-81
MicroPDF417	4-77
MicroQR	4-82
MSI	4-54
MSI チェック デジット	4-56
MSI チェック デジットのアルゴリズム	4-57
MSI 転送チェック デジット	4-56
MSI の読み取り桁数	4-54
Netherlands KIX Code	4-75
PDF417	4-77
PDF 優先	3-20
PDF 優先のタイムアウト	3-20
PIN 入力のための数値	C-9
QR コード	4-81
QR 反転	4-82
UCC クーポン拡張コード	4-23
UK Postal	4-71
UK Postal チェック デジットを転送	4-72
UPC Composite モード	4-68
UPC/EAN	
クーポン コード	4-23
サブリメンタルの読み取り繰返 回数	4-14, 4-15
UPC/EAN/JAN	
サブリメンタル コード付き AIM ID フォーマット	4-15
サブリメンタルの読み取り繰返回数	4-14
UPC-A	4-8
UPC-A/E/E1 チェック デジット	4-16, 4-17
UPC-A プリアンブル	4-18
UPC-E	4-8

UPC-E1	4-9
UPC-E1 から UPC-A への変換	4-21
UPC-E から UPC-A への変換	4-21
UPC-E プリアンブル	4-19
UPU FICS Postal	4-76
US Planet	4-70
US Postal チェック デジットを転送	4-71
US Postnet	4-70
USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail	4-75
キャンセル	F-2
携帯電話/ディスプレイ モード	3-19
工場出荷時の状態に戻す	3-4
コード ID キャラクタの転送	3-21
サブリメンタル	4-11
サンプル	E-1
シンボル体系	
GS1 DataBar Limited	4-66
デフォルトの一覧	4-2
数値バーコード	F-2
スキャン データ オプション	3-23
すべてのコード タイプを無効にする	4-7
すべてのコード タイプを有効にする	4-7
双方向リダンダンシー	4-87
データのクリア	3-9
バイブレータ	3-16
バージョンの送信	3-25
パラメータのスキャンング	3-13
反転 1D	4-63
ピクリスト モード	3-18
日付と時刻の設定	3-5
ビープ音の音程	3-15
ビープ音の音量	3-14
ビープ音のミュート	3-15
ファジー 1D 処理	3-18
プリフィックス/サフィックス値	3-22
ペアリング解除	3-8
ミラー イメージ	3-19
ミラー イメージの読み取り	4-80
無線電波出力	3-12
郵便コード	4-70
読み取り時のバイブレータ	3-16
読み取り時のバイブレータ時間	3-16
読み取り成功時のビープ音	3-13
読み取りなしメッセージの転送	3-24
バーコードの削除	2-2
バージョン	
バーコード	3-25
パスキー	
数値バーコード	C-9
パッケージの開梱	1-2
パッチ	1-5
データの転送	2-2
バッテリー	
充電	B-3, B-5, B-9, B-11

8 スロット CA50 充電クレードル	B-2
8 スロット充電器	B-2
CA50 のバッテリー	1-4
温度	1-4
最初の使用	1-4
シングル スロット クレードル	B-2
予備バッテリー	1-4
充電状態	
表示	B-4, B-6, B-8
挿入	1-2
取り外し	1-3
予備の充電	B-7
リチウム イオン	1-2
バッテリーの充電	1-4, B-2, B-3, B-4, B-5, B-6, B-7, B-8
バッテリーの挿入	1-2
バッテリーの取り外し	1-3
バレット	xv

ひ

ピクリスト モード	3-18
日付	
設定	3-5, 3-6
ビープ音	
音程の設定	3-15
音量の設定	3-14
定義	2-5
ミュート	3-15
表記規則	xv
標準のデフォルト設定	3-2

ふ

プリフィックス	D-12
---------	------

へ

ペア設定	
アドレス	3-10
ペアリング	1-5, 1-6
バーコードのフォーマット	3-7
ペアリング解除	1-7, 3-8
壁面取り付けブラケット	B-2, B-9, B-11

ほ

ボタン	
削除	2-2

ま

マルチスロット充電器	B-2
マルチスロット バッテリー充電器	B-2

め

メンテナンス 7-1

ゆ

郵便コード 4-70
 Australia Post 4-73
 Australia Post フォーマット 4-74
 Japan Postal 4-72
 Netherlands KIX Code 4-75
 UK Postal 4-71
 UK Postal チェック デジットを転送 4-72
 UPU FICS Postal 4-76
 US Planet 4-70
 US Postal チェック デジットを転送 4-71
 US Postnet 4-70
 USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail 4-75
ユーザー インタフェース 2-3
 LED 定義 2-3
ユーザー設定パラメータ 3-2

よ

予備バッテリー 1-4
予備バッテリー充電器 B-2, B-3, B-7

ら

ランヤード B-2

り

リチウム イオン バッテリー 1-2



Zebra Technologies Corporation
Lincolnshire, IL U.S.A.
<http://www.zebra.com>

Zebra および Zebra ヘッド グラフィックは、ZIH Corp の登録商標です。Symbol ロゴは、Zebra Technologies の一部門である Symbol Technologies, Inc. の登録商標です。

© 2015 Symbol Technologies Inc.



MN000762A03JA Revision A - 2015 年 3 月

